

MieMu

みえむ

2019

三重県総合博物館 年報

Mie Prefectural Museum Annual Report

通
卷

6

号

ごあいさつ

MieMu(みえむ)三重県総合博物館は、開館以降三重の自然と歴史・文化に関する大切な資産を保全・継承していくことはもちろんのこと、次代を担う子どもたちをはじめ、県民のみなさんや利用者の方々の学びと交流の場となり、郷土への愛着や誇りを感じることができるよう、人づくり、地域づくりに貢献できる博物館を目指して活動しております。また、「ともに考え、活動し、成長する博物館」を活動の理念と位置づけ、県民のみなさんや利用者の方々との協創や、多様な主体との連携による博物館づくりを前進させるべく日々活動しております。

ここに、当館の令和元年度の事業概要をまとめた年報を発刊いたします。この年は開館5周年を迎え、企画展では、豊かな自然を有する三重県にふさわしい「植物」、東京オリンピック・パラリンピックを間近にひかえて前回開催当時を振り返る「1960年代」に加えて、特別展として、親子連れに親しまれている当館にふさわしい「スタジオジブリ・近藤喜文」、かつて都のあった奈良や京都に近く、優品が多い三重県内の仏像を一堂に展示する「仏像」と、当館にとって重要なテーマを取り上げることができました。また、個別研究において本格的な研究書の発刊がみられるなど、研究面でもさまざまな業績を重ねております。

令和2年当初から始まったコロナ禍の中、館の活動を支えてくださった多くの方々に深く感謝を申し上げますとともに、三重県総合博物館への一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和3年2月

三重県総合博物館 MieMu(みえむ)

館長 大野 照文

MieMuとは・・・

「三重」の「ミュージアム」を表現しているとともに、“みえむ”という音は“三重の夢”に通じ、三重への愛着や誇りを持ち、未来への夢を持てるような博物館になりたいという思いを表現しています。



目次

ごあいさつ	1	5.3 学習支援活動事業	35
目次	2	5.3.1 講座	35
I 博物館の概要	3	5.3.2 フィールドワーク	36
1 使命と理念	3	5.3.3 MieMuの日	37
2 ビジョンと戦略目標・戦術	4	5.3.4 情報誌	38
3 沿革	5	5.3.5 人材育成支援活動	38
4 施設概要	5	5.4 他機関・諸団体との交流・連携事業	38
II 令和元年度の取組概要	6	5.4.1 学校	39
1 運営管理	6	5.4.2 大学	41
1.1 事業体系	6	5.4.3 博物館	46
1.2 組織体制	6	5.4.4 文化交流ゾーン	48
1.3 運営状況	7	5.4.5 国県市町など	49
1.4 利用者数	7	5.4.6 その他の諸機関・諸団体	51
1.5 歳入歳出決算	8	5.5 他機関・団体への協力 (職員の諸団体への協力活動)	52
1.6 三重県総合博物館協議会	8	5.5.1 委員、講師等の依頼	53
1.7 三重県総合博物館協議会評価部会	10	6 企業との連携	58
1.8 新型コロナウイルスによる感染症の 発生に伴う休館等の状況	11	6.1 事業の趣旨・目的	58
2 調査研究事業	11	6.2 パートナー企業数	58
2.1 研究概要	11	6.3 連携事業	58
2.2 研究成果一覧	12	7 利用者との協創	59
2.3 研究協力者	16	7.1 事業の趣旨・目的	59
3 資料収集・保存	17	7.2 三重県総合博物館 ミュージアムパートナー	59
3.1 資料一覧概要	17	7.3 ボランティア	63
3.2 資料収集	17	8 広報	64
3.3 歴史的公文書の移管	18	8.1 新聞・テレビ・ラジオ	64
3.4 資料保存	19	8.2 雑誌	64
4 展示	19	8.3 ホームページ	64
4.1 基本展示	19	8.4 Facebook・Twitter	65
4.2 企画展示	19	8.5 その他	65
4.2.1 企画展	19	9 博物館の評価	65
4.2.2 交流展	25	9.1 評価のしくみ	65
4.2.3 トピック展示ほか	25	9.2 令和元年度の戦略目標と戦術の 評価結果	66
4.3 こども体験展示室	27	9.3 アンケート結果概要	70
4.4 三重の実物図鑑	27	III 資料	
4.5 オオサンショウウオ生態展示	29	1 条例・規則	74
4.6 その他の展示	29	1.1 三重県総合博物館条例	74
4.7 屋外展示	29	1.2 三重県総合博物館条例施行規則	81
4.8 移動展示	30	1.3 観覧料免除要綱	87
5 交流創造活動事業	30	2 事業成果一覧	89
5.1 事業の趣旨・目的	30		
5.2 閲覧レファレンス活動事業	30		
5.2.1 レファレンス活動	30		
5.2.2 資料利用(閲覧・特別利用)	30		

I 博物館の概要

1 使命と理念

1) 使命

1 三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ生かす

三重の自然と歴史・文化に関する資産を、次なる 100 年、200 年に向けて保全・継承するための主要な役割を果たし、三重のありようや履歴を明らかにすることで、地域文化の発展と新たな地域創造につなげます。

2 学びと交流を通じて人づくりに貢献する

MieMu では、三重の未来を担う子どもたちは、世代を越えた交流の場で、楽しみながら、体験的に学びます。こうしたなかで、子どもたちは、三重への理解と愛着を深め、夢や希望あふれる未来を拓くきっかけを得ます。また、県民・利用者みなさんは、学ぶ充実感を得、知的好奇心を育み、一人ひとりの成長につなげます。

3 地域への愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献する

県民・利用者みなさんが、博物館活動の中で、地域に目を向け地域の魅力を再発見し、内外に発信することにより、地域や三重への愛着と誇りを育みます。また、一人ひとりが、各々の関心や生活課題の解決や、新たな地域づくりに取り組むきっかけを提供します。

2) テーマ

三重が持つ多様性の力

MieMu では、三重の特色である「多様性」と「多様性」に秘められた力について、県民・利用者みなさんとともに探求し、活用、発信するなかで、三重の地域や人に活力をもたらし、「新たな文化を創造する力」、「今をつくり、未来を切り拓く力」を育みます。

・多様性の探求がもたらす力

多様な自然と歴史・文化を探求することで、一人ひとりが三重の魅力を再発見するなかで、三重への愛着と誇りを育み、地域に活力をもたらします。

・新たな文化を創造する力

多様(=異なるもの)であることにより、可能性と選択の幅が広がります。また、異なるものどうしが融合・反発・刺激しあうことにより新しいものを生み出すことにつながることから、「新たな文化を創造する力」をもたらします。

・今をつくり未来を切り拓くちから

三重の「多様性」を、みなさんとともに探求・活用・発信することを通じて、地域の相互理解を深め互いの絆を育むとともに、地域や時代の課題解決につなげていけるような、「今をつくり、未来を切り拓く力」をもたらします。

《三重の多様性とは》

日本列島のほぼ中央に位置する三重は南北に長く、水深 2,000m の深海から標高 1,700m 近くに及ぶ山岳を含んだ多様な自然環境に囲まれ、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物相を育む日本列島の縮図のような自然を有しています。その豊かで多様性に富んだ自然環境のもとで、人びとの多様なくらい歴史が育まれてきました。また、三重は古くから交通の要衝の地として栄え、東西文化の結節点、海と山との文化の出会い場所として、活発な人やモノの交流、異なる文化の接触がおり、新たな文化、多様な文化を生み出してきました。

3) 活動理念

ともに考え、活動し、成長する博物館

博物館活動の展開にあたっては、調査研究活動、収集保存活動、活用発信活動の3つの活動を「協創」と「連携」の2つの視点で進めます。これにより、すべての博物館活動において、県民・利用者みなさんが主体的・能動的に活動できる双方向の活動を通して博物館活動を質量ともに発展させ、一人ひとりの成長と地域づくりを支援していくことをめざします。

2 ビジョンと戦略目標・戦術

1) 活動と運営に係る評価のしくみ

長期にめざす姿(ビジョン)の実現に向けて、戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしている。なお、戦略目標とは計画期間中、重点的に目的をもって取り組むことであり、戦術をもってして戦略目標達成のために、具体的に取り組むこととした。

2) ビジョン

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く、水深2,000mの深海から標高1,700m近くの山岳までも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。

この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点をもつたことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。

三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者みなさんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

3) 戦略目標と戦術

戦略目標		戦術	
1	何度も利用していただくために、展示（基本展示・展覧会）を充実させます（展示）	1	何度も利用していただくため、多様なテーマによる展覧会を開催します
		2	基本展示を何ども利用していただくために、展示の更新や解説などを実施します
		3	親子連れで博物館を楽しんでもらえるように、こども体験展示室の利用を促進します
2	博物館の存在を広く知っていただくために、積極的な広報を展開します（集客）	4	メディアに報道してもらうため、メディア向け説明会や内覧会を行います
		5	博物館の活動を知っていただくために、ホームページ、ツイッター、フェイスブックなどを充実させます
		6	県内の子どもたちに知ってもらうために、教育委員会と連携した広報を行います
3	「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への県民・利用者の参画を促進します（連携）	7	博物館を活用した学びを深めるために、ミュージアムパートナーと協働します
		8	活動への企業の参画促進のために、企業との協働による事業を実施します
		9	市民の参画を促進するために、ボランティア活動の活性化を図ります
4	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できるようにするために、収蔵資料及び地域の文化財等の保存・保全に注力します（資料の保全）	10	収蔵資料を保存・保全するために、収蔵庫および展示室の定期的な清掃・点検を行います
		11	地域の文化財等を保全するために、相談窓口を用意し、指導助言を行います

戦略目標		戦術	
5	三重に関する資料や、博物館活動の学術的価値づけとその意義を伝えるために、総合博物館の強みを活かした研究に取り組みます（研究）	12	学芸員による研究活動を推進するために、定期的な発表機会を設けます
		13	多様な主体が研究に参画するために、参加型調査を行います
		14	資料の活用を促進するために、収蔵資料データベースの充実を図ります
6	MieMu が利用者にとって知的好奇心を心地よく刺激する場となるように、学習支援機能の向上に努めます（学習支援）	15	利用者の身近な疑問に応えるために、レファレンス業務を行います
		16	学校利用を促進するために、学校や教員を対象とした学習支援プログラムを行います
7	経営資源を効果的に配分するために、評価制度を活用して事業を選択します（経営）	17	事業を日常的に確認し改善するために、定期的に進捗管理を行います

3 沿革

年 月	経 緯
平成 25 年 6 月	三重県総合博物館条例公布（平成 26 年 4 月 19 日施行）
平成 25 年 8 月	三重県立博物館からの移転に着手（～平成 26 年 1 月）
平成 26 年 3 月	三重県総合博物館条例施行規則公布（平成 26 年 4 月 19 日施行）
平成 26 年 4 月	開館（18 日：開館記念式典 19 日：グランドオープン）
平成 26 年 6 月	入館者数 10 万人達成（6/1：開館 39 日目）
平成 27 年 9 月	入館者数 50 万人達成（9/22：開館 444 日目）
平成 29 年 3 月	三重県総合博物館条例改正（平成 30 年 4 月 1 日施行）
平成 29 年 9 月	入館者数 100 万人達成（9/16：開館 1055 日目）
平成 30 年 2 月	三重県総合博物館条例施行規則改正（平成 30 年 4 月 1 日施行）
平成 31 年 3 月	三重県総合博物館条例改正（令和元年 10 月 1 日施行）
平成 31 年 4 月	三重県総合博物館条例施行規則改正（平成 31 年 4 月 25 日施行）
令和元年 7 月	三重県総合博物館条例改正（令和元年 10 月 1 日施行）
令和元年 11 月	入館者数 150 万人達成（11/3：開館 1,714 日目）

4 施設概要

名 称	三重県総合博物館（愛称：MieMu（みえむ））		
種 別	登録博物館（総合）	開 館 日	平成 26 年 4 月 19 日
所 在 地	〒514-0061 津市一身田上津部田 3060		
電 話	059-228-2283(代)	FAX	059-229-8310
メール	MieMu@pref.mie.lg.jp		
ホームページ	https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/		
ツイッター	https://twitter.com/mie_pref_museum		
フェイスブック	https://www.facebook.com/mie.pref.museum		

【敷 地】

敷地面積	38,884 m ²
地域地区	第 1 種低層住居専用地域、第 2 種住居地域

【建 物】

建築面積	6,889 m ²
延床面積	11,705 m ² （各階延床面積 1 階：4,760 m ² 、2 階：2,125 m ² 、3 階：4,637 m ² 、屋上階：60 m ² ）
構 造	SRC 造一部 RC 造、免震構造、3 階建て
設計 G L	18m

II 令和元年度の取組概要

1 運営管理

1.1 事業体系

●総合博物館管理運営費

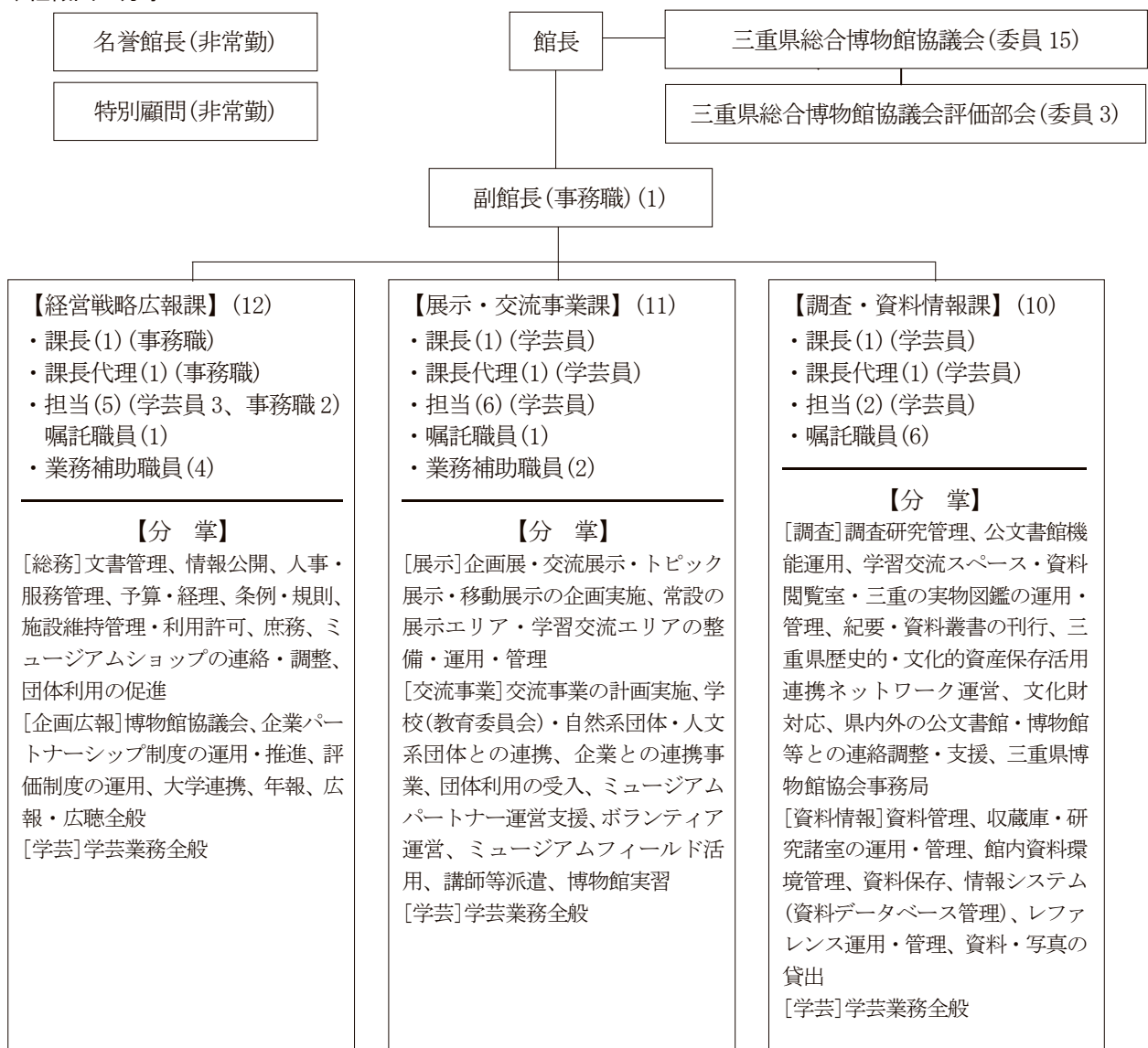
- ・総合博物館管理運営費 施設保守、維持 等
- ・総合博物館一部指定管理費 施設管理、広報経営分析 等

●総合博物館展示等事業費

- ・調査研究費 総合研究、専門研究、共同研究及等の調査研究活動
- ・資料収集管理費 資料収集、資料修復、資料保存環境の管理 等
- ・交流創造活動費 学習交流スペースでのレファレンス活動、ワークショップ 等
- ・展示企画運用費 各種企画展の開催準備 等
- ・アウトリーチ活動費 フィールドワーク等の博物館活動を地域との連携により県内各地で実施
- ・広報宣伝・営業推進費 広報宣伝及び企業等への営業活動

1.2 組織体制

1) 組織図・分掌



2) 職員名簿(令和2年3月31日時点)

館長	大野 照文	名誉館長	野呂 昭彦
副館長	垣内 正光	特別顧問	布谷 知夫
経営戦略広報課		展示・交流事業課	
課長	小川 知佐子	課長	瀧川 和也
主幹(課長代理)	匹田 賢嗣	主幹(課長代理)	宇河 雅之
主幹	山口 嘉章	主幹	大西 到
主査	佐野 明	主幹	寺村 善樹
主査	村田 光輝	主査	北村 淳一
主査	太田 光俊	主査	中川 良平
主任	中村 千恵	主査	田村 香里
嘱託員	南部 勤	主任	森田 奈菜
業務補助職員	上村 友理	嘱託学芸員	稲垣 玲弥
業務補助職員	鈴木 明子	業務補助職員	打田 美紀
業務補助職員	北林 絹	業務補助職員	堀江 真季子
業務補助職員	高島 鈴代		
		調査・資料情報課	
		課長	星野 利幸
		主幹(課長代理)	藤谷 彰
		主査	大島 康宏
		学芸員	甲斐 由香里
		嘱託学芸員	津村 善博
		嘱託学芸員	服部 早希
		嘱託員	植田 佳子
		嘱託員	井上 有希
		嘱託員	山本 梨加
		嘱託司書	長崎 恵理子

【職員体制】 常勤職員 21(館長1、副館長1、事務4、学芸員15)、嘱託8、業務補助職員6
ほかに学芸員(育休1)

1.3 運営状況

- ・開館時間 [エントランスエリア・交流創造エリアなど、来館者の活動エリア]
 ～9月30日 休館日を除く全日 9時～19時
 10月1日～ 休館日を除く全日 9時～17時
 [展示エリア]
 ～9月30日 火～金曜日 9時～17時 土日祝日 9時～19時
 10月1日～ 休館日を除く全日 9時～17時(最終入場は、閉場の30分前まで)
- ・休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
- ・観覧料等 [エントランスエリア・交流創造エリアなど、来館者の活動エリア] 無料
 [展示エリア] 下表のとおり 上段：～9月30日 下段：10月1日～

	基本展示	企画展示	セット券	年間パスポート	
当日券	一般	510円 520円	その都度定める	基本展示+企画展示 料金の2割引	1,640円 1,670円
	高校生以下	無料	その都度定める (無料を基本)	設定なし	設定なし
	学生(大学、各種専門学校等)	300円 310円	その都度定める (無料を基本)	基本展示+企画展示 料金の2割引	1,020円 1,040円
	障がい者及びその付添者	無料	無料	設定なし	設定なし
	学校、児童福祉施設としての利用	無料	無料	設定なし	設定なし
	県民の日の記念事業の日	無料	正規価格	設定なし	—
	家庭の日(毎月第3日曜日)	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	—
	団体割引 (20名以上)	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	設定なし
前売券	設定なし	正規価格の2割引	正規価格の2割引	設定なし	

1.4 利用者数

令和元年度の開館日数は283日で、当館利用者数は、以下のとおりである。

また、詳細な利用者統計に関しては、Ⅲ 資料 2 事業成果一覧 に掲載する。

- 1) 入館者数 247,029人 ※博物館への入館者総数(無料スペースのみの利用者を含む)
- 2) 展示観覧者数 191,881人 ※基本展示及び企画展示の観覧者総数(無料観覧者数を含む)
(うち、基本展示 78,744人 企画展示 113,137人)
- 3) こども体験展示室利用者数 53,349人
- 4) 資料閲覧室利用者数 入室者数 3,495人 資料閲覧者 1,025人
- 5) 学校による利用者数 171校 7,321人(引率者を除く)
- 6) 各種イベント等参加者数 5.3 学習支援活動事業に記載

1.5 歳入歳出決算

●歳入

単位：円

項目	令和元年度決算額
観覧料収入	30,226,053
企業からの協力	350,000
施設活用による収入(ミュージアムショップ等)	5,677,872
その他事業関連収入(資料利用収入等)	1,101,219
公的団体等からの外部資金の獲得	4,000,000
外部資金を活用した基金からの繰入	10,721,400
県費	472,735,617
合計	524,812,161

※企業パートナーシップ 6,240千円、コーポレーション・デー600千円、個人からの寄付 3,000千円の合計 9,840千円の歳入は、別途、文化振興基金に積立て。

●歳出

単位：円

項目	令和元年度決算額
事業費(総合博物館展示等事業費)	175,054,357
維持管理費・一般管理費(総合博物館管理運営費)	120,163,412
人件費(職員・嘱託員・業務補助職員)	229,594,392
合計	524,812,161

1.6 三重県総合博物館協議会

- 1) 目的 三重県総合博物館協議会は、三重県総合博物館の経営や、調査研究、資料の収集・保存、展示やワークショップなどの博物館活動、並びに、博物館活動を通じた人材育成や地域づくりについて、委員の方々に専門的立場や利用者の観点から意見・提言をいただき、博物館の事業推進に活かすことを目的として設置した。
- 2) 設置根拠 博物館法第20条、三重県総合博物館条例第14条
- 3) 設置年月日 平成26年4月19日(土)
- 4) 委員 県内の大学、経済界、報道機関、文化・教育機関、博物館関係者等で構成。
石川保典 中日新聞社三重総局 総局長(令和元年9月19日まで)
岩崎奈緒子 京都大学総合博物館 教授
大西かおり 特定非営利活動法人大杉谷自然学校 校長〔副会長〕
岡野友彦 皇學館大学文学部 教授
加藤美紀 松阪市立西黒部小学校 校長、三重県小中学校長会 幹事(令和元年7月25日から)
川岡加寿子 名張市立桔梗が丘南小学校 校長、三重県小中学校長会 副会長(令和元年7月24日まで)

齋藤彰一	株式会社三重銀行 顧問	
須田俊明	日本放送協会津放送局 局長(令和元年7月24日まで)	
染川香澄	ハンズ・オン・プランニング 代表	
高井健司	地方独立行政法人大阪市博物館機構 事務局次長	
館 健造	日本放送協会津放送局 局長(令和元年7月25日から)	
田部眞樹子	特定非営利活動法人三重県子どもNPOサポートセンター 理事長	
中尾正己	三重県総合博物館 ミュージアムパートナー	
中村忠明	公益財団法人伊賀市文化都市協会 理事長	
西岡慶子	株式会社光機械製作所 代表取締役社長	
前田智之	中日新聞社三重総局 総局長(令和元年9月20日から)	
山下治子	株式会社アム・プロモーション 雑誌ミュゼ編集長・常務取締役	
山田康彦	三重大学教育学部 特任教授〔会長〕	(敬称略：五十音順)

5) 協議会

①第1回三重県総合博物館協議会

- 1 日時 7月31日(水)13時30分～16時
- 2 会場 三重県総合博物館レクチャールーム
- 3 出席委員 岩崎奈緒子、大西かおり、岡野友彦、加藤美紀、齋藤彰一、染川香澄、高井健司、館 健造、中尾正己、中村忠明、山下治子、山田康彦
- 4 内容
 - 報告事項
 - (1) 三重県総合博物館の活動と運営
 - 1) 前回の協議会でご指摘いただいた意見への対応状況
 - 2) 入館者数及び展示観覧者数
 - 3) 基本展示観覧者数の推移
 - 4) 企画展の開催結果
 - 5) 企画展示観覧者数の推移
 - 6) MieMu 展示アンケートの結果
 - 7) 交流創造活動事業等
 - 8) 企業との連携
 - 9) 調査研究事業・収集保存事業
 - 10) 公文書館機能
 - 11) 平成30年度内部及び外部評価結果
 - 12) 平成31年度予算
 - その他
 - (1) 三重県総合博物館の5年間の総括と今後の方向性について
- 5 会議の公開 会議は公開で行い、傍聴者は3名

②第2回三重県総合博物館協議会

- 1 日時 令和2年2月18日(火)13時30分～16時
- 2 会場 三重県総合博物館レクチャールーム
- 3 出席委員 岩崎奈緒子、大西かおり、岡野友彦、加藤美紀、齋藤彰一、高井健司、館 健造、田部眞樹子、中尾正己、中村忠明、前田智之、山下治子、山田康彦

4 内容

報告事項

(1) 三重県総合博物館の活動と運営

- 1) 前回の協議会でご指摘いただいた意見への対応状況
- 2) 入館者数及び展示観覧者数
- 3) 基本展示観覧者数の推移
- 4) 企画展の開催結果
- 5) 企画展示観覧者数の推移
- 6) 展示アンケートの結果
- 7) 交流創造活動事業等
- 8) 企業との連携
- 9) 調査研究事業・収集保存事業
- 10) 公文書館機能

その他

- (1) 三重県総合博物館の次期計画について
- (2) 令和2年度の博物館活動の取組について

- 5 会議の公開 会議は公開で行い、傍聴者は0名

1.7 三重県総合博物館協議会評価部会

1) 目的 三重県総合博物館協議会に、三重県総合博物館の活動と運営に対して評価を実施するために設置

2) 設置根拠 三重県総合博物館協議会評価部会設置要綱に基づき設置。

3) 設置年月日 平成28年7月20日

4) 委員

齋藤彰一 株式会社三重銀行 顧問

高井健司 地方独立行政法人大阪市博物館機構 事務局次長

山下治子 株式会社アム・プロモーション 雑誌ミューゼ編集長・常務取締役

外部有識者

亀山裕美子 評価士

吉岡 基 三重大学大学院生物資源学研究所 教授

(敬称略：五十音順)

5) 評価部会

① 三重県総合博物館協議会評価部会

1 日時 6月27日(木)13時～16時

2 会場 三重県総合博物館 会議室

3 出席委員 齋藤彰一、高井健司、山下治子

外部有識者 亀山裕美子

4 内容

1) 平成30年度内部評価結果の説明

2) 各戦略の評価と今後に向けての改善点

5 会議の公開 会議は非公開で行った。

② 外部評価報告会

1 日時 7月31日(水) 11時～12時

2 会場 三重県総合博物館会議室

3 出席委員 高井健司

外部有識者 亀山裕美子

4 内容

- 1)平成 30 年度外部評価結果の報告
- 2)次期計画策定に向けた第 2 期中期計画(平成 29 年度から令和元年度)の振り返りと「改善点」

1.8 新型コロナウイルスによる感染症の発生に伴う休館等の状況

- 令和 2 年 2 月 27 日(木) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、3 月 22 日(日)までこども体験展示室の閉室を決定。
- 2 月 29 日(土) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、3 月 15 日(日)までの休館を決定。
- 3 月 12 日(木) 国の動向や感染状況等をふまえ、引き続き感染拡大防止に努めることが重要であることから、3 月 31 日(火)までの間、休館の延長を決定。
ミニ企画展「さわって みる ミュージアム」、トピック展「天然記念物ネコギギと山の鳥たち」(いずれも 4 月 5 日(日)まで開催予定)を中止。休館期間中、予定していた各種催しについても中止を決定。※4.2.3 トピック展示ほか参照
- 3 月 18 日(水) ホームページに「MieMu@ほーむ」を開設。
- 3 月 28 日(土) 国の動向や感染状況等をふまえ、県民の皆さんの文化にふれる機会の提供や生涯学習の推進のため、4 月 1 日(水)から、感染拡大防止の対策を講じた上で、基本的な機能である展示の再開を発表。
感染拡大防止の観点から、こども体験展示室については引き続き閉室を決定。

2 調査研究事業

2.1 研究概要

1)事業の趣旨・目的

博物館の使命やビジョンを達成するため、調査研究方針に基づいて活動を推進し、その成果を、展示等により情報発信する。さらに、それらを活用することによって、人づくりや地域づくりに貢献する。

2)事業の概要

館内外の連携・共同によるプロジェクト研究と学芸員がそれぞれ取り組む専門研究の 2 つのカテゴリーにより研究計画を立てて調査研究を実施している。

(1)プロジェクト研究

三重の自然と歴史・文化を総合的に紹介している基本展示で取り上げたテーマのうち、研究を深化させることによって、当館の特色を発揮できるものを調査研究テーマとして設定し、学芸員及び外部研究者が連携・共同して取り組んでいる研究

藤谷 彰：雲井コレクション戦時資料に関する調査・研究

藤谷 彰：県内歴史資料の所在確認と災害対応に関する調査・研究

星野利幸：基本展示のデータの整備・深化

大島康宏：石田氏寄贈資料に関する調査・研究

大島康宏：離島の自然調査事業

太田光俊：[基本展示 5-4]人の交流の深化・発展

田村香里：公立学校に保管されている標本資料の状況把握

人文系全員：天台真盛宗関連資料の調査・研究

(2)専門研究

学芸員が専門分野や博物館活動に関する研究能力を維持・発展させていくためにテーマを設定して取り組んでいる研究

藤谷 彰：桑名藩政史の研究
 星野利幸：三重を中心とした名所と名所絵に関する研究
 星野利幸：県内条里制に関する基礎的研究
 稲垣玲弥：こども体験展示室におけるこどもの興味関心についての研究
 北村淳一：タナゴ亜科魚類が獲得した新奇形質の適応的多様化機構
 北村淳一：木曾川氾濫原の魚類群集構造の時空間動態
 北村淳一：ミュージアムの新たな評価手法構築に関する実践研究—社会的価値と事業改善に着目して(三重県総合博物館の評価手法構築と関連)
 北村淳一：農業農村における希少生物等調査(基本展示平野のくらしと関連)
 北村淳一：圃場整備水路の魚類群集と管理(基本展示平野のくらしと関連)
 中川良平・津村善博：地球探検隊(MPのメンバーから募る)とともに進む県内の化石・鉱物・岩石調査
 中村千恵・田村香里：子どもたちと協働した地域の魅力に関する調査・研究
 中村千恵・田村香里・稲垣玲弥：「さわって・みる」資料に関する調査・研究
 大島康宏：伊賀市北部および伊勢湾岸地域の昆虫類調査
 大島康宏：博物館における昆虫を題材とした次世代育成と地域ネットワークの構築
 大島康宏：昆虫類(とくにチョウ目タテハチョウ科昆虫)の分類、系統学的研究
 大島康宏：県内昆虫相の解明および紀伊半島の昆虫を題材とした生物地理学的研究
 大島康宏：自然史系博物館資料の研究(令和2年度夏季企画展準備)
 太田光俊：織豊期宗教勢力の分析手法についての研究
 太田光俊・大西 到：御木本幸吉と真珠に関する基礎的研究
 佐野 明：三重県産哺乳類の生息確認記録データベースの作成
 佐野 明：三重県におけるコウモリ類の生息実態に関する調査
 瀧川和也：仏像展に関わる調査・研究
 田村香里：ミュージアムフィールドにおけるフクロウの生態調査・研究
 田村香里・稲垣玲弥・甲斐由香里：脊椎動物の標本を活用した学習教材の開発
 津村善博：津市美杉町に産する球状岩についての研究
 津村善博：三重県内の中央構造線の露頭調査研究
 宇河雅之・服部早希：三重に関わる刀剣・刀工の調査・研究

3) 研究成果の刊行

- ・三重県総合博物館研究紀要 第6号
- ・三重県総合博物館資料叢書 No. 6(伊勢無足人由緒書)
- ・展覧会図録 三重県総合博物館 第23回企画展「ボタニカル・デザイン—植物のかたち、その観察—」
- ・展覧会図録 三重県総合博物館 第25回企画展「三重の仏像 ～白鳳仏から円空まで～」
- ・事業報告書 「多様な個性でつむぐ地域の学び創造事業 活動の記録」, みえむプロジェクト実行委員会

2.2 研究成果一覧

1) 発表論文等

- 藤谷 彰, 2019. 桑名藩の在地代官について—近世前期から中期にかけて—. 三重県総合博物館研究紀要, 6: 1-13.
- Iwahori, A., Kitamura, J., and Kawamura, K. 2019. Genetic characteristics of the Japanese serow *Capricornis crispus* in the Kii Mountain Range, Central Japan. Zoological Science, 36: 306-315.

- Nagata, N. and Kitamura, J. 2019. The complete mitochondrial genomes of two endangered bitterling *Acheilognathus tabira tohokuensis* and *A. tabira erythropterus*(Cyprinidae, Acheilognathinae). Mitochondrial DNA Part B, 4: 2865-2866.
- Ogura-Tsujita, Y., Yamamoto, K., Hirayama, Y., Ebihara, A., Morita, N. and Imaichi, R. 2019. Fern gametophytes of *Angiopteris lygodiiifolia* and *Osmunda japonica* harbor diverse Mucoromycotina fungi, Journal of Plant Research, 132: 581-588.
- 大島康宏. 2019. 昆虫学で「学ぶ」きっかけを -三重県総合博物館での取り組み-, Japanese Journal of Entomology (New Series), 22: 106-212.
- 大島康宏. 2020. 三重県尾鷲市におけるオオシモフリスズメ(チョウ目;スズメガ科)の記録, 三重県総合博物館研究紀要, 6: 7-10.
- Tominaga, K., Nagata, N., Kitamura, J., Watanabe, K., and Sota, T. 2019. Phylogeography of the bitterling *Tanakia lanceolate* (Teleostei: Cyprinidae) in Japan inferred from mitochondrial cytochrome b gene sequences. Ichthyological Research, 67: 105-116.
- Watanabe, J., Koizumi, A., Nakagawa, R., Takahashi, K., Tanaka, T., Matsuoka, H., Published online: 20 Jan 2020. Seabirds (Aves) from the Pleistocene Kazusa and Shimosa groups, central Japan. Journal of Vertebrate Paleontology. doi: 10.1080/02724634.2019.1697277.

2) 著書・編著等

- 大野照文. 2020. 第10章 人類の知恵の進化と新学習指導要領—博物館からの視点. 山極壽一・村瀬雅俊・西平直(編). 未来創成学の展望 逆説・非連続・普遍性に挑む. pp.225-249. ナカニシヤ出版, 京都
- 北村淳一・内山りゅう. 2020. 日本のタナゴ 生態・保全・文化と図鑑. 山と溪谷社, 東京. 224pp.

3) 報告・研究ノートなど

- 太田光俊. 2019. ミクロストーリーが提示する視点と可能性—松浦武四郎を例にして—. 歴史学フォーラム 2018 実行委員会(編)民衆と国家の生き残り方〜微視と巨視の歴史学(歴史学フォーラム 2018 の記録, 2019). pp.44-49. 歴史学フォーラム 2018 実行委員会, 大阪.

4) 普及的著作等

- 藤谷 彰. 2019. 伊賀郷土の由緒書「伊賀無足人由緒書」. 中日新聞博物館だより. 中日新聞(広域三重), 4月14日11面
- 藤谷 彰. 2019. 津藩に関する研究をまとめました. みえんしず(三重県総合博物館情報誌), 25: 6.
- 藤谷 彰. 2019. 公文書館機能について 三重県総合博物館の取り組み. みえんしず(三重県総合博物館情報誌), 26: 5-6.
- 服部早希. 2019. 新収蔵資料紹介「雲井コレクションにみる戦争と戦時下の暮らし」. みえんしず(三重県総合博物館情報誌), 26: 4.
- 星野利幸. 2019. 中学用英語教科書 英語2. 中日新聞博物館だより. 中日新聞(広域三重), 8月10日17面
- 星野利幸. 2020. 第27回企画展名所発見、再発見! 浮世絵でめぐる三重の魅力. みえんしず(三重県総合博物館情報誌), 28: 1-3.
- 井上有希. 2019. 公文書館機能について三重県総合博物館が所蔵する「県庁文書」の成り立ち. みえんしず(三重県総合博物館情報誌), 27: 5-6.
- 甲斐由香里. 2019. 企画展示室のちょうどよい環境づくり. みえんしず(三重県総合博物館情報誌), 27: 4.
- 北村淳一. 2020. ヤリタナゴの樹脂封入標本. 中日新聞博物館だより. 中日新聞(広域三重), 2月8日17面
- 北村淳一. 2020. ちょこっと水族展示始めました. みえんしず(三重県総合博物館情報誌), 28: 6.

- 森田奈菜. 2019. 第23回企画展ボタニカルデザイン-植物のかたち、その観察-. みえんしず (三重県総合博物館情報誌), 24: 1-3.
- 森田奈菜. 2019. 旧博物館名残のハマオモト. 中日新聞博物館だより. 中日新聞 (広域三重), 9月7日 19面
- 森田奈菜. 2019. 美術館×博物館の試み～「増山雪斎展」を通じて. みえんしず (三重県総合博物館情報誌), 27: 3-4.
- 中川良平. 2019. 亜炭の地層. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 4月3日 12面
- 中川良平. 2019. 子ゾウとシカの足跡化石. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 4月10日 14面
- 中川良平. 2019. 馬野溪の石灰岩. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 5月8日 14面
- 中川良平. 2019. 火山灰の地層. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 5月22日 12面
- 中川良平. 2019. 蛙目年度. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 6月5日 12面
- 中川良平. 2019. 放散虫化石熱受ける. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 6月19日 12面
- 中川良平. 2019. 泥質片麻岩. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 7月3日 20面
- 中川良平. 2019. 喰代Ⅱ火山灰層. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 7月10日 12面
- 中川良平. 2019. ワニの足跡化石. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 7月17日 14面
- 中川良平. 2019. 香落溪の柱状節理. MieMu 発トピック伊賀 夏休み集中講座①. 中日新聞 (伊賀), 8月6日 12面
- 中川良平. 2019. 古琵琶湖層群. MieMu 発トピック伊賀 夏休み集中講座⑤. 中日新聞 (伊賀), 8月10日 16面
- 中川良平. 2019. 摩崖仏の彫られた花こう岩. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 9月4日 12面
- 中川良平. 2019. 阿波層群とその時代. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 9月11日 14面
- 中川良平. 2019. サンバーの角. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 9月18日 14面
- 中川良平. 2019. ミエゾウ真泥標本. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 9月25日 14面
- 中川良平. 2019. 平田のスポン化石. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 10月9日 10面
- 中川良平. 2019. 平田のミエゾウ足跡化石. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 12月11日 16面
- 中川良平. 2019. 平田のトレンチ跡. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 12月18日 14面
- 中川良平. 2020. 阿波層群榎野層. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 1月8日 12面
- 中川良平. 2020. ミエゾウ真泥標本. 中日新聞博物館だより. 中日新聞 (広域三重), 1月12日 17面
- 中川良平. 2020. ニヶ岳の溶結凝灰岩. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 1月15日 14面
- 中川良平. 2020. ニヶ岳の山粕層群. MieMu 発トピック伊賀. 中日新聞 (伊賀), 1月22日 16面
- 中村千恵. 2019. 特集第24回企画展・開館5周年記念特別展この男がジブリを支えた。近藤喜文展, みえんしず (三重県総合博物館情報誌), 25: 1-3.
- 中村千恵. 2020. 多様な個性でつむぐ地域の学び創造事業を振り返ってーフロー体験の視点からー, 多様な個性でつむぐ地域の学び創造事業活動の記録. pp. 13-14. みえむプロジェクト実行委員会, 津.
- 中村千恵・太田光俊. 2020. ワークシート「御師三日市大夫次郎屋敷を楽しむ」3種 (安倍五郎兵衛さん、おいとさん、笹井伊助さん), 三重県総合博物館, 津.
- 大西 到. 2019. 鳥の名前がついたウグイスガイ. 中日新聞博物館だより. 中日新聞 (広域三重), 5月11日 19面
- 大西 到, 太田光俊, 田村香里. 2020. 企画展「1960年代の熱気を未来につなぐ」での発見と成果, みえんしず (三重県総合博物館情報誌), 28: 5.

- 大島康宏. 2019. 「ミニ企画展 博物館の舞台ウラ～新着資料が活用されるまで～」を開催しました. みえんしす, 25: 4.
- 大島康宏. 2019. 日本一小さいハッチョウトンボ. MieMu 発トピック伊賀 夏休み集中講座②. 中日新聞 (伊賀), 8月7日 12面
- 大島康宏. 2019. 樹液に集まる昆虫. MieMu 発トピック伊賀 夏休み集中講座③. 中日新聞 (伊賀), 8月8日 14面
- 大島康宏. 2019. アサギマダラ. 中日新聞博物館だより. 中日新聞 (広域三重), 11月9日 17面
- 太田光俊. 2019. 旅の巨人松浦武四郎を育んだ三重. 総特集=松浦武四郎-アイヌ民族を愛した探検家- (ユリイカ 2019年8月臨時増刊号歴史学, 2019. pp. 101-104. 青土社, 東京).
- 太田光俊. 2019. 作善日記. 中日新聞博物館だより. 中日新聞 (広域三重), 10月12日 17面
- 太田光俊. 2020. 御師・三日市大夫次郎屋敷復元模型のワークシート作成～歴史資料と展示の距離を考える～, 多様な個性でつむぐ地域の学び創造事業活動の記録. pp. 5-6. みえむプロジェクト実行委員会, 津.
- 佐野 明. 2020. 泡の中に産卵モリアオガエル. 中日新聞博物館だより. 中日新聞 (広域三重), 3月14日 17面
- 瀧川和也. 2019. 『乙酉掌記』松浦武四郎. 中日新聞博物館だより. 中日新聞 (広域三重), 6月8日 19面
- 瀧川和也. 2019. 勝因寺の釣り鐘. MieMu 発トピック伊賀 夏休み集中講座⑦. 中日新聞 (伊賀), 8月15日 14面
- 瀧川和也. 2020. 企画展「三重の仏像～白鳳仏から円空まで～」を開催しました. みえんしす (三重県総合博物館情報誌), 28: 4.
- 田村香里. 2019. ニホンノウサギの足跡. 中日新聞博物館だより. 中日新聞 (広域三重), 7月13日 19面
- 田村香里. 2019. 赤目のオオサンショウウオ. MieMu 発トピック伊賀 夏休み集中講座④. 中日新聞 (伊賀), 8月9日 14面
- 田村香里. 2020. 「標本にさわる」学習の取組とその課題について, 多様な個性でつむぐ地域の学び創造事業活動の記録. pp. 9-10. みえむプロジェクト実行委員会, 津.
- 田村香里, 中村千恵. 2019. 地域とつながる移動展示「たんけん! はっけん! 紀北町」, みえんしす (三重県総合博物館情報誌), 24: 4.
- 津村善博, 中川良平. 2019. フィールドワーク「河原の石を調べよう」からわかる地域の地質, みえんしす (三重県総合博物館情報誌), 25: 5.
- 宇河雅之. 2019. 昭和・平成をふりかえる～植木等とテレビの登場. みえんしす (三重県総合博物館情報誌), 24: 5-6.
- 宇河雅之. 2019. 盆地の暮らし. MieMu 発トピック伊賀 夏休み集中講座⑥. 中日新聞 (伊賀), 8月14日 12面
- 宇河雅之. 2019. 火縄. 中日新聞博物館だより. 中日新聞 (広域三重), 12月7日 21面

5)招待講演・学会発表等

- 福田知子・大島康宏・中村剛之. 2020. 03. 08. エゾクロモチソウと近縁種(ユキノシタ科チシマアワブキ属)への訪花昆虫調査. 日本生態学会第67回全国大会. 名城大学. [ポスター発表].
- 林 寿樹・北村淳一・小北智之. 2019. 9. 22. タナゴ亜科魚類における雌繁殖形質の多様性は適応進化

- の産物か？. 日本魚類学会第 52 回年会. 高知大学. [口頭発表]
- 林 寿樹・三品達平・北村淳一・小北智之. 2020. 3. 6. 繁殖寄生と関連した産卵管長の多様化におけるトランスクリプトーム基盤. 日本生態学会第 67 回全国大会. 名城大学. [口頭発表]
- 平山 廉・高橋啓一・中川良平・河部壮一郎・遠藤秀紀・安藤佑介. 2020. 2. 8 日本の鮮新統産スッポン科に関する考察. 日本古生物学会第 169 回例会, 東京大学. [口頭発表].
- 北村淳一・加藤雅之・野口亮太・池谷幸樹・永山滋也・森 誠一. 2019. 10. 13. 木曾川河道内氾濫原における淡水魚類（主にイタセンパラ）の生息に影響する要因. 第 69 回魚類自然史研究会. 福山市生涯学習プラザ. [口頭発表]
- 北村淳一・加藤雅之・野口亮太・池谷幸樹・永山滋也・森 誠一. 2019. 11. 7. 木曾川河道内氾濫原における淡水魚類の生息に影響する要因. 第 22 回河川生態学術研究発表会. 東京大学農学部弥生講堂. [ポスター発表] **最優秀賞受賞**
- 北村淳一・加藤雅之・野口亮太・池谷幸樹・永山滋也・森 誠一. 2019. 11. 30. 木曾川河道内氾濫原におけるイタセンパラの生息に影響する要因. 第 9 回全国タナゴサミット in 栗原市. くりはら交流プラザエポカ 21. [口頭発表]
- 北村淳一・加藤雅之・野口亮太・池谷幸樹・永山滋也・森 誠一. 2020. 3. 8. 木曾川の河道内氾濫原における淡水魚類の分布に影響する要因. 日本生態学会第 67 回全国大会. 名城大学. [ポスター発表]
- 栗山広宣・平田真二・川田千尋・北村淳一. 2019. 9. 28. 利根川下流域の河道内氾濫原において試験的に創出した恒久水域におけるイシガイ科二枚貝類等生物の定着と本川からの通水頻度等物理環境との関係性. 応用生態工学会第 23 回大会. 広島大学. [口頭発表]
- Ohshima, Y., Morita, N. and Fukuda, T. 2019. 09. 04. Insect pinning project in collaboration with museum and university. International Symposium of ‘Network of Natural History Museums’ as a Tool for Promoting Research, Collection Building, Education and Outreach: Case Studies from Asian Regions. Kyoto University Museum. P-9.
- 佐々木 亨・源 由理子・佐久間大輔・北村淳一. 2019. 12. 21. 事業計画のロジックモデルを作成するワークショップーロジックモデル作成の要点とWS進行の仕方ー. 日本文化政策学会第 13 回研究大会. さいたま市文化センター. [企画フォーラム]
- 山崎裕治・北村淳一・池谷幸樹・森 誠一. 2020. 3. 8. 木曾川ワンド群におけるイタセンパラ局所集団の遺伝的動態. 日本生態学会第 67 回全国大会. 名城大学. [ポスター発表]

2.3 研究協力者

1) 制度の概要

三重の自然と歴史・文化及び博物館活動に関する研究を目的として、館の研究活動に資するため、館外の研究者を三重県総合博物館研究協力者として、平成 31 年 4 月 1 日から委嘱している。委嘱期間は 1 年とし、再任は妨げない。

2) 研究協力者

岸田早苗	齋宮歴史博物館	平成 31 年 4 月 26 日～令和 2 年 3 月 31 日
天野秀昭	齋宮歴史博物館	平成 31 年 4 月 26 日～令和 2 年 3 月 31 日
中野 環	三重県立特別支援学校玉城わかば学園	平成 31 年 4 月 26 日～令和 2 年 3 月 31 日
松本 功	三重県立四日市農芸高等学校	平成 31 年 4 月 26 日～令和 2 年 3 月 31 日
間潤 創	国立文化財機構文化財活用センター	平成 31 年 4 月 26 日～令和 2 年 3 月 31 日

3 資料収集・保存

当館では、前身の三重県立博物館収蔵資料を引継ぎ、三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承するとともに、基本展示室、企画展示等で、三重の自然と歴史・文化に関するさまざまな資料を展示することを目的に資料を収集・保存している。

3.1 資料一覧概要

〈自然分野〉 428,328 点		
地学資料	18,836 点	化石（恐竜化石・ほ乳類化石等）、岩石標本、鉱物標本等
動物資料	285,292 点	ほ乳類、鳥類、昆虫類、魚類、両生類、は虫類、貝類、クモ類、カニ類、異尾類・棘皮類、海岸動物など形態:はく製、仮はく製、骨格標本、乾燥標本、液浸標本、含浸標本など ※飼育標本：特別天然記念物オオサンショウウオ 1 匹
植物資料	124,175 点	さく葉標本、コケ植物標本、菌類標本、植物レプリカ、樹脂標本
理工資料	25 点	風力計、自記湿度計、自記寒暖計、蒸発計、日照計等
〈人文分野〉 171,145 点		
考古資料	514 点	古墳出土資料等
美術工芸資料	2,757 点	絵画書跡、版画（浮世絵ほか）、工芸品（陶磁器）、工芸品（武器・武具など）
歴史資料	86,623 点	古文書類、典籍・古記録類、絵図・地図類、貨幣、引札、絵はがきなど
民俗資料	6,141 点	衣食住関連、信仰関連生業、生産関連、交通・運輸・通信関連、芸能・娯楽関連、社会生活関連、年中行事関連資料など
歴史的公文書	75,110 点	行政文書、絵図地図等、行政刊行物
計 599,473 点		令和 2 年 3 月末現在

3.2 資料収集

1) 資料購入

購入日	資料名・点数
令和 2 年 2 月 19 日	伊勢二見ヶ浦 諸国名所百景ほか 4 点、合計 5 点
令和 2 年 2 月 19 日	二代歌川広重 諸国名所百景ほか 1 点、合計 2 点
令和 2 年 3 月 5 日	青木家文書 1,800 点

2) 資料寄贈

寄贈日	資料名	点数	内容	寄贈者
7 月 1 日	植物標本	55 点	平成 23、24 年度新名神自然環境保全検討業務で作成された標本群。	団体
7 月 4 日	動物標本	1 点	ニホンジカ本はく製	個人
8 月 3 日	歴史資料 宮崎家文書	7,555 点	紀州藩領九木浦に居住した九鬼一族の宮崎家に伝来した資料群	個人
10 月 3 日	歴史資料	4 点	聖火こけし / オリンピック東京大会記念公式メダル（銅） / アサヒグラフ臨時増刊皇太子御結婚記念画報 / アサヒグラフ増刊東京オリンピック	個人
11 月 2 日	歴史資料	1 点	機弾銃	個人

11月30日	歴史資料 村上家 文書	1式	津藩藤堂家の藩校有造館採用の剣術、神力一 刀流の流派相伝目録を中心とした資料	個人
12月6日	動物標本	12点	オオコノハズクはく製他(伊賀自然の会鳥類標本)	個人
令和2年1月7日	歴史資料	1点	三重県立蚕糸学校入学願書(昭和3年度)	個人
令和2年1月24日	歴史資料	12点	伊勢御神楽之図等	個人
令和2年3月12日	動物標本	4点	カワウソノ/コシギ本はく製、ジンダイドジョウ標 本	団体
令和2年3月27日	図書資料	159冊	内閣文庫所蔵史籍叢刊	個人

3.3 歴史的公文書の移管

1) 公文書館機能

- ①県の歴史的公文書(原課で作成された期限満了の5年以上の公文書を文化振興課で選別し、総合博物館へ移管した公文書をいう)の受入・整理・修復・保存・閲覧・展示・調査研究
 - ②行政資料・古文書などの収集・保存・閲覧・展示・調査研究
 - ③調査研究成果の発信(HP・研究紀要等刊行物の発刊)
 - ④レファレンスへの対応
 - ⑤学習会・講演会・講習会等の開催
 - ⑥歴史的公文書等の保存・活用のための市町等との連携など
- ※①⑥が公文書館独自機能。②～⑤は博物館機能でもある。

2) 歴史的公文書の移管の概要

保存期限5年以上の公文書のうち期限が満了した公文書は、原課から環境生活部文化振興課が引き継ぎ、評価選別が行われる。選別された歴史的公文書は随時当館へ移管し、整理保存処置を行って公開閲覧に供している。

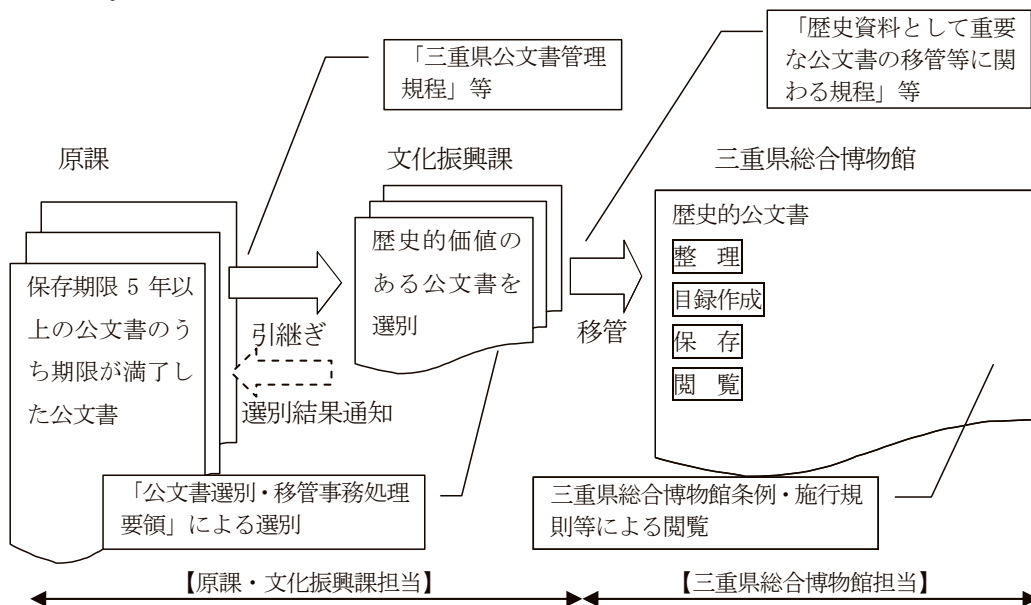


図 移管の手続きの概要

3) 歴史的公文書の移管数

令和2年3月に文化振興課から歴史的公文書等を移管した(361冊)。

4) 三重県公文書等管理条例の制定と準備

令和元年12月23日の県議会で三重県公文書等管理条例が制定され、令和2年4月に施行される。これ、まで博物館資料として扱ってきた歴史的公文書が、本条例が定める特定歴史公文書として位置づけられ

るため、事前準備として目録作成やデータベースの整備等を進め、条例施行への対応を行った。

5) 三重県公文書等管理条例施行後の体制

三重県公文書等管理条例の令和2年4月1日施行にあわせ、新たに三重県環境生活部文化振興課に設置される歴史公文書班が博物館に駐在し、特定歴史公文書の管理、利用請求、レファレンス等を担当することになる。

なお、これまで博物館が所管してきた歴史的公文書のうち行政刊行物を除き、特定歴史公文書として位置づけられた資料は、博物館資料の対象外となる。

3.4 資料保存

資料燻蒸

当館では収蔵庫等の定期燻蒸は原則として行わず、目視点検で虫菌害の進行が疑われる、あるいは点検自体が困難である新規収蔵資料等について、収蔵庫搬入直前に殺虫処理を行う方針をとっている。原則として二酸化炭素処理による殺虫、又は酸化エチレンによる殺虫燻蒸(0.5%)を行い、明らかにカビ被害が発生・進行している場合には酸化エチレンによる殺菌燻蒸(1%)を行う。

令和元年度には酸化エチレンによる殺虫処理を4回行った。

4 展示

4.1 基本展示

「基本展示室」と名付けた常設展示では、三重県がどんなところか、三重県の多様で豊かな自然と歴史・文化が持つ多彩な魅力や特色を、360°連続する三重の美しいパノラマに包まれた展示空間の中で一体的に紹介している。“三重がもつ「多様性の力」”をテーマとして、「大地のなりたち」「多様で豊かな自然」「三重をめぐる人・モノ・文化の交流史」「自然とともに生きる」の4つのコーナーで紹介している。

4.2 企画展示

4.2.1 企画展

1) 第23回企画展「ボタニカル・デザイン—植物のかたち、その観察—」

【会 期】 4月20日(土)～6月16日(日) <開催日数:51日>

【会 場】 企画展示室(800㎡)・交流展示室(200㎡)

【主 催】 三重県総合博物館

【協 力】 株式会社 赤塚植物園

【後 援】 三重県博物館協会

【助 成】 公益財団法人 岡田文化財団

【概 要】 植物は、動物のように自由に移動することができない。動けないからこそ、花やタネ、葉の形に工夫をこらし、子孫を残そうとしてきた。この企画展では、植物のさまざまな「かたち=デザイン」に焦点をあて、植物の形の意味を考え、その面白さを紹介した。また、第2会場では、さまざまな形の植物を集めたミニ植物園を開園した。MieMu初の、植物をテーマにした企画展とした。

(主な資料)

クマガイソウ標本、コカナダモ標本、アカマツ標本、訪花昆虫映像、標本作製道具一式、果実断面拡大模型[ミュージアムパーク茨城県自然博物館蔵]、種子標本各種、鳥類はく製各種、コケ植物樹脂封入標本[国立科学博物館蔵]、ヒイラギ標本、センニンソウ標本、セイタカアワダチソウ標本、イシモチソウ標本、イイタカムシトリスミレレプリカ、オオタニワタリ標本、アリ植物液浸標本[個人蔵]、カワゴケソウ科液浸標本[個人蔵]、ホウキモロコシ標本、座敷箒[個人蔵]、棕櫚箒、アブラナ科作物レプリカ[ミュージアム

パーク茨城県自然博物館蔵)、あけびかご[個人蔵]、わらびかご[個人蔵]、柳行李、竹かご、唐草模様風呂敷、しめ飾り、おたふく面、植物生態展示[株式会社赤塚植物園協力]
 展示資料点数 約1,360点

【観覧料】 一般800円、大学生480円、高校生以下無料

【観覧者数】 10,084人(うち高校生以下:4,126人)

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
ギャラリートーク	4月21日(日)	企画展示室・交流展示室	25	当館職員 森田奈菜
	5月12日(日)		40	
	6月9日(日)		51	
記念講演会「バナナはどこからやってきた？」	4月27日(土)	レクチャールーム	64	山口 進(自然写真家・ジャーナリスト)
計			180	

【刊行物】ポスター(B2版)、チラシ(A4版)、展示図録(A4版64頁)

【担当】森田奈菜、大島康宏、中川良平



展示風景



B2 ポスター

2) 第24回企画展 開館5周年記念特別展 この男がジブリを支えた。近藤喜文展

【会期】 7月6日(土)～9月16日(月・祝) <開催日数:64日>

【会場】 企画展示室(800㎡)

【主催】 近藤喜文展実行委員会(三重県総合博物館、中京テレビ放送)

【共催】 中日新聞社

【後援】 近畿日本鉄道、三重交通

【企画制作協力】 スタジオジブリ、三鷹の森ジブリ美術館

【概要】 近藤喜文は、新潟県五泉市に生まれ育った日本屈指のアニメーターで、高畑勲・宮崎駿両監督から厚く信頼を寄せられていた人物である。彼が急逝する前に手がけた唯一の長編監督作品「耳をすませば」は、今もなお多くの人に愛されている。本展では、近藤喜文が描いたキャラクターデザインやアニメーション原画、イメージボード、スケッチ等多数展示し、清潔な人柄と温かな眼差しから生まれた近藤喜文が描き出すジブリ作品の世界を観覧いただいた。

(主な資料)

近藤喜文の仕事を大きく前半(「ルパン三世」「赤毛のアン」など)と、後半(「火垂るの墓」「おもひでぽろぽろ」など)にわけ、その変遷を原画など直筆の資料で紹介した。特に監督作品「耳をすませば」については、絵コンテ、キャラクターデザイン、レイアウト、原

画、セル画、映像(テレビCM用)と、アニメーションの制作工程のほとんどの部分を網羅する形で展示した。

展示資料点数 約 664 点

【観覧料】 一般 1,300 円、大学生 800 円、小中高生 500 円、未就学児無料

【観覧者数】 74,296 人(うち高校生以下: 18,267 人)

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
スタジオジブリ展示プロデューサーによるギャラリートーク	7月6日(土)	企画展示室	68	田中千義(スタジオジブリ 展示プロデューサー)
映画「耳をすませば」 零役・声優 本名陽子 さんトークショー&上映会	7月27日(土)	三重県文化会館 中ホール	486	本名陽子(声優)、田中 忍(三重映画フェスティバル実行委員会 会長)
「千と千尋の神隠し」 のカオナシと一緒に写真 を撮ろう!	8月3日(土)	学習交流スペース	457	カオナシ(スタジオジブリ)
	8月16日(金)		393	
	8月25日(日)		974	
	8月30日(金)		360	
近藤喜文さんの描いた 絵に色をぬってみよう!	8月10日(土)	レクチャールーム	109	当館職員
	8月11日(日)		60	
	8月12日(月・振)		203	
	8月13日(火)		143	
	8月14日(水)		145	
	8月15日(木)		87	
	8月16日(金)		125	
8月17日(土)	136			
トークショー「アニメーター 近藤喜文」	8月24日(土)	レクチャールーム	103	田中千義(スタジオジブリ 展示プロデューサー)・西岡純一(スタジオジブリ 広報部長)・高橋 望(日本テレビ放送網株式会社)
計			3,849	

【刊行物】ポスター(B2版)、チラシ(A4版)

【担当】中村千恵、大西 到、稲垣玲弥



展示風景



A4 チラシ (表面)

3) 第25回 企画展 開館5周年記念特別展 三重の仏像～白鳳仏から円空まで～

- 【会 期】 10月5日(土)～12月1日(日)＜開催日数：50日＞
- 【会 場】 企画展示室(800㎡)
- 【主 催】 三重県総合博物館
- 【後 援】 三重県博物館協会
- 【助 成】 公益財団法人 岡田文化財団、公益財団法人 花王芸術・科学財団、独立行政法人 日本芸術文化振興会
- 【協 賛】 三重県商工会議所連合会
- 【概 要】 三重県は大和地方に隣接し、かつて都のあった京都からも比較的近いことから、県内には多くの優れた仏像が伝存している。また、近年は仏師の活動がうかがえる発見など、調査研究による新知見の蓄積が進んでいる。この特別展では、平安・鎌倉期の仏像を中心に、秘仏、本尊を含む選りすぐりの三重の仏像を一堂に会し、その魅力をさまざまな角度から紹介した。MieMu 初であり、三重県内で16年ぶりに開催する本格的な仏像展となった。

(主な資料)

[重要文化財] 慈恩寺・阿弥陀如来立像、普賢寺・普賢菩薩坐像、常福寺・千手観音立像、光善寺・薬師如来及び両脇侍像、和具観音堂・如来坐像、勝因寺・虚空蔵菩薩坐像、市場寺・四天王立像、善教寺・阿弥陀如来立像、新大仏寺・如来坐像、同・俊乗上人坐像

[その他] 南陽寺・釈迦如来坐像(三重県指定文化財)、世義寺・愛染明王坐像(三重県指定文化財)、和具観音堂・十一面観音立像(三重県指定文化財)、浜城区・円空作大日如来坐像(津市指定文化財)、三蔵寺・円空作聖観音立像(志摩市指定文化財)

展示資料点数 約80点

【観 覧 料】 一般1,000円、大学生600円、高校生以下無料

【観覧者数】 19,699人(うち高校生以下：4,137人)

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
記念講演会「三重の仏像について」	11月17日(日)	レクチャールーム	146	伊東史朗(和歌山県立博物館 館長・三重県文化財保護審議会委員)
講演会「松阪市安楽寺の快慶仏について」& ギャラリートーク	10月14日(月・祝)	レクチャールーム	119	寺島典人(津市歴史博物館 学芸員)
ミニレクチャー&ギャラリートーク	10月6日(日)	企画展示室	30	当館職員 瀧川和也
	10月13日(日)		26	
	10月26日(土)		25	
	11月2日(土)		28	
	11月24日(日)		56	
	11月30日(土)		49	
計			479	

○岐阜県博物館交流企画 講演会

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
仏像が移動する?—安置場所が変わる事情—	10月20日(日)	レクチャールーム	57	守屋靖裕(岐阜県現代陶芸美術館 学芸員)

○三重のまなび2019・まなびいすとセミナー

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
今日からできる「こだわり仏像鑑賞」～たのしい仏像のみかた～	11月24日(日)	三重県文化会館 レセプションルーム	240	村松哲文(駒澤大学仏教学部禅学科 教授)

○「なむあみだ仏っ！—蓮台 UTENA—」コラボ企画

(協力：合同会社 DMM GAMES・株式会社 ビジュアルワークス)

行事名	開催日	会場	人数	備考（講師等）
スタンプラリー	10月5日(土)～ 12月1日(日)	専修寺、蓮光院、四天王寺、津観音、当館	約300	—
パネル展	11月9日(土)～ 12月1日(日)	交流展示室	約3,000	—
計			約3,300	

【刊行物】ポスター(B2版)、チラシ(A4版)、図録(A4判144頁)、ワークシート(A4判4頁)

【担当】瀧川和也、宇河雅之



展示風景



B2 ポスター

4) 第26回 企画展 1960年代の熱気を未来につなぐ ～出来事でふりかえる60年の歩み～

【会期】12月21日(土)～令和2年2月24日(月・振休)＜開催日数：52日＞

【会場】企画展示室(800㎡)

【主催】三重県総合博物館

【後援】三重県博物館協会

【概要】2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催が近づくにつれ、前回開催(1964年)当時への興味や関心も高まると考えられる。その頃の日本では、高度経済成長と呼ばれる経済的、物質的な発展とともに、人々の生活も急激に変化した。私たちが古い写真などにある種の「なつかしさ」を感じる時、その原点は1960年代にあると思われる。現在にいたる約60年間の出来事を、モノや映像・写真等でふりかえり、新たな時代を活力あるものにするためのヒントをさぐる展示とした。

(主な資料)

四輪では幻の名車スバル450、スバル360、三輪ではダイハツミゼット、マツダK360、二輪ではスバルラビット、ホンダジュノオ、スーパーカブ、ホンダCB450Pなどの実車、鈴鹿サーキット開設によるモータースポーツの振興におけるパネル、名阪国道開通で盛んになる伊賀流忍者を中心とした観光などを紹介したパネル、伊勢湾台風にとまなう近畿日本鉄道名古屋線の軌間拡幅工事とその後の名阪直通特急の運転や紀勢本線の特急くろしお号の運行開始など現在の鉄道網が形作られたその頃の様子映像や写真、三重県内の高度経済成長期の建物のパネル、建築学の古典を含む蔵書(東畑建築事務所蔵清林文庫)の一部、60年代当時の県内高等学校生物部の活動記録や御在所岳に開設された「カモシカ園(のちの日本カモシカセンター)」のはく製、当時家庭に広がった電

気洗濯機を中心にテレビや扇風機、電話などの実物、経済学者シュンペーターの論文原稿、吉田茂の書簡を含む東畑精一の旧蔵書(三重県立図書館東畑文庫)

展示資料点数 約 307 点

【観覧料】 一般 500 円、大学生 300 円、高校生以下無料

【観覧者数】 8,703 人(うち高校生以下：2,995 人)

【関連講座等】

行事名	開催日時	会場	人数	備考(講師等)
講演会 60年代の基礎をつくった軌間拡幅～映画『伸びゆく近鉄』をよみとく～	令和2年1月12日(日)	フレンテみえセミナー室C	150	福原稔浩(近鉄グループホールディングス株式会社広報部)
講演会 60年代の基礎をつくった軌間拡幅ギャラリートーク	令和2年1月12日(日)	企画展示室	71	福原稔浩(近鉄グループホールディングス株式会社広報部)
ギャラリートーク	12月22日(日)	企画展示室	20	当館職員 大西 到・太田光俊・田村香里
	令和2年1月19日(日)		32	
	令和2年2月16日(日)		27	
ミニレクチャー お伊勢参りの今昔～60年代の変化をよみとく～	令和2年2月24日(月・振休)	レクチャールーム	23	当館職員 太田光俊
プラスチックレール鉄道おもちゃ運転会～誕生はこの頃～	12月21日(土)	交流展示室	219	鉄道おもちゃ博物館(三重のまんなか・まちかど博物館)
	12月22日(日)		203	
手裏剣あそび体験～当時は忍者が大ブーム～	令和2年1月5日(日)	交流展示室	85	伊賀流忍者博物館
	令和2年2月23日(日・祝)		118	
	令和2年2月24日(月・振休)		105	
せっけんをつくってみよう	令和2年1月19日(日)	実習室	26	当館職員 大西 到
かつおぶしを削って料理をつくろう～三重のお米と伊勢茶を使って～	令和2年1月26日(日) ① 10時30分～ ② 11時30分～ ③ 12時30分～	実習室	72	皇學館大学チャレンジプロジェクト、旭化成株式会社製造統括本部鈴鹿製造所、井村屋株式会社、有限会社深緑茶房、みえの米ブランド化推進会議、三重県農林水産部農産園芸課
実走可能な旧車がMieMuに登場	令和2年2月22日(土)	エントランス	55	Honda Cars 津
	令和2年2月23日(日)		127	
	令和2年2月24日(月・振休)		94	
計			1,427	

○関連イベント

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
オリンピックの聖火リレー～56年の時を越え～	令和2年1月11日(土)～1月13日(月・祝)	交流展示室	約2,000名	三重県地域連携部国体・全国障害者スポーツ大会局スポーツ推進課

【刊行物】ポスター(B2版)、チラシ(A4版)

【担当】大西 到、太田光俊、田村香里



展示風景



B2 ポスター

4.2.2 交流展

令和元年度は交流展を実施しなかった。

4.2.3 トピック展示ほか

1) ミニ企画展「博物館の舞台ウラ ～新着資料が活用されるまで～」 ※平成30年度からの継続展示

会 期	3月2日(土)～4月5日(金) <会期：30日 うち令和元年度日数 4日>
会 場	企画展示室 (200 m ²)
内 容	学芸員が日頃取り組んでいる博物館の基本業務「資料を収集し、保存処理して整理し、活用するために永久に保存する」過程を紹介するために、実際に収集・寄贈された資料を展示した。また、VR(バーチャルリアリティ)を活用し、資料保存の観点から一般の方が立ち入ることのできない収蔵庫の内部にいるような体験をしていただくことで、県民の財産である資料の保存管理の様子を紹介した。
主な資料	岩石・鉱物コレクション(個人からの寄贈資料)、平倉演習林昆虫調査コレクション(三重大学からの寄贈資料)地租改正反対一揆に関する資料群(個人からの寄贈資料および歴史的公文書)、東海道に関する浮世絵資料(当館収蔵資料)
観覧者数	355人 ※令和元年度観覧者数 <会期のべ観覧者数3,215人>
担 当	大島康宏



展示風景



A4 チラシ(表面)

2) ミニ企画展 さわって みる ミュージアム ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

会 期	令和2年3月14日(土)～4月5日(日) <会期:20日 うち令和元年度日数 15日>
会 場	企画展示室(200㎡)
主 催	みえむプロジェクト実行委員会、三重県総合博物館
協 力	三重県立盲学校、三重県総合博物館ミュージアムパートナー
助 成	平成31年度文化庁地域と共働した博物館創造活動支援事業
内 容	平成31年度文化庁地域と共働した博物館創造活動支援事業の助成を受けて行った「多様な個性でつむぐ地域の学び創造事業」の成果報告展示である。三重県立盲学校の子どもたちと行ってきた「さわって」「みて」楽しむ博物館資料のあり方を、広く発信することを目的とし、博物館資料にさわったりじっくり観察したりできる展示を計画した。また、伊勢市立早修小学校6年生から協力を得た基本展示室・御師屋敷模型のワークシートの公開に合わせて、子どもたちが調べた伊勢の街についても展示予定だった。
主な資料	ニホンジカはく製、ニホンノウサギはく製、イノシシはく製、ツキノワグマはく製、ニホンジカ皮革、イノシシ皮革、三重県立盲学校児童の生きもの調べに関する発表資料、伊勢市立早修小学校児童の伊勢の街に関する発表資料など
観覧者数	—
担 当	田村香里、稲垣玲弥、太田光俊、中村千恵

関連事業

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
はく製を触って観察してみよう	令和2年 3月14日(土) 3月15日(日) 3月20日(金・祝) 3月21日(土) 3月22日(日) 3月28日(土) 3月29日(日)	企画展示室	中止	当館職員 田村香里・稲垣玲弥・中村千恵
見て体験しよう! 展示室の裏側(VR体験)	令和2年3月20日(金・祝)	企画展示室	中止	—
ワークシートを使って江戸時代の旅を学ぼう	令和2年3月28日(土)	基本展示室	中止	当館職員 太田光俊・中村千恵
さわって! 足跡あてクイズ	令和2年3月28日(土)	学習交流スペース	中止	ユニバーサルミュージアムグループ(三重県総合博物館ミュージアムパートナー)
計			—	



展示風景



A4 チラシ(表面)

3) トピック展 天然記念物ネコギギと山の鳥たち ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

会 期	令和2年2月29日(土)～4月5日(日) <会期：32日 うち令和元年度日数 27日>
会 場	交流展示室 (200 m ²)
主 催	三重県総合博物館
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・天然記念物ネコギギ 亀山市といなべ市の河川に生息するネコギギを、両市が施設で保護増殖してきた個体を水族展示し、両市のこれまでの生息環境保全の取り組みをパネルで紹介する予定であった。 ・山の鳥たち 伊賀自然の会より寄贈された伊賀地域周辺の鳥類のはく製12体を展示する予定であった。
主な資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ネコギギ (水族展示) ・オオコノハズク アカショウビン他 鳥類はく製12体
観覧者数	—
担 当	北村淳一、稲垣玲弥



A4 チラシ

4.3 こども体験展示室

こども体験展示室は小さな子どもでも博物館を身近に感じ、楽しみながら学びを得られる展示室である。展示室の中は、やってみるコーナー、しらべるコーナー、つたえるコーナー、未就学児コーナーの4つのコーナーにわかれており、それぞれの場所で子どもたちが自ら展示を探してみつけ、興味をもったものを調べ、発見したことを発表できる。この一連の流れは博物館の学芸員の仕事の調査・研究・展示発表と同じであり、その体験ができるようになっている。

今年度はイベントとして展示資料の色に注目して探す「色をさがしてみよう」と展示資料の色を使って虹を作る「虹をつくろう」を開催した(開催期間7月26日(金)～12月15日(日))。また、第25回 企画展 開館5周年記念特別展「三重の仏像～白鳳仏から円空まで～」にあわせて「なにこれボックス」の内容を更新した。使用を停止していた展示室内のはしごを撤去し、令和2年3月、新たに展示ケースを設置した。

令和2年2月27日(木)より新型コロナウイルス感染拡大防止のため閉室とした。

4.4 三重の実物図鑑

三重の実物図鑑は昆虫や植物、動物、伝統工芸品など三重の自然と歴史・文化に関する基本的な資料を、図鑑のようにじっくりと間近で見ることができる展示室である。

1) 自然分野

自然に関する資料は、図鑑のような分類展示を意識し、動物、植物、岩石・鉱物、化石ごとに展示している。また、映像やグラフィック、触れる標本など、生物の生態を伝える展示手法を加えて、身近な三重の魅力を再発見できるよう展示している。令和元年度は、常設の展示に加えて、次の取組を行った。

- 【昆 虫】 県民とともに実施しているミュージアムフィールドの昆虫調査において、参加者が各自のテーマで調査した成果をドイツ箱にまとめて展示した。
- 【脊 椎 動 物】 令和2年の干支である子(ネズミ)にちなみ、ネズミの仲間のはく製のほか、和名に「ネズミ」がつく魚類を展示した。
- 【植 物】 令和2年の干支である子(ネズミ)にちなみ、和名に「ネズミ」のつく植物を展示した。
- 【岩石・鉱物】 話題性のある資料について、パンフレット等を設置して紹介(随時)また、令和2年の干支である子(ネズミ)にちなみ、「火鼠の皮衣」と言われた石綿や絶滅したネズミの化石を展示した。

2) 人文分野

当館所蔵の三重の歴史と文化に関する資料を中心にテーマを設定し、「特集展示」として展示を行っている。資料保存の観点や季節・企画に応じた展示替えを行った。

【特集展示】

展示タイトル	展示期間	展示資料	担当者
明治前期の三重のできごと	4月16日(火) ～5月19日(日)	「県庁新築地一件 地理課」「県庁新築仕様書綴 営繕係」「伊賀国阿拝山田郡新町村区画図」「郡町村分合取調書 桑名・員弁・三重・朝明・鈴鹿」、有節萬古 腥臙脂釉桜唐草文桃形湯冷、有節萬古木型成作赤土色絵秋草文急須、「県内物産博覧会綴」「物産博覧会規則」など16点	藤谷 彰
幕末維新を生き た旅の巨人・松 浦武四郎 再び	5月21日(火) ～7月7日(日)	「蝦夷漫画」「夕張日誌」「石狩日誌」「樺太日誌」「樺太日誌」「西蝦夷日誌」「東蝦夷日誌」「庚辰游記」「乙酉掌記」「丙戌前記」「丙戌前記」など約20点	太田光俊
雲井コレクション にみる戦争と 戦時下のくらし	7月9日(火) ～9月8日(日)	子ども用茶碗、紙製のランドセル、鉄兜、軍用手票、国民服(子ども用)、愛国貯金箱、大日本国防愛国婦人会たすき、ガラス製のナイフ、防毒面、出征兵士赤たすき、M69型焼夷弾など87点	服部早希
古文書にみる大 名の世界～桑名 藩松平家文書か ら～	9月10日(火) ～10月14日 (月・祝)	〔書状〕(異国船浦賀表渡来時の固めにつき)、〔書状〕(異国船浦賀表渡来時の固めにつき)、〔添書〕(卯年之萬之助義四日市表ニ家族并臣下一同城外入事)、〔覚〕(御移替被為濟候御祝儀惣出仕のため着衣・作法につき)、心得書(殿中の作法につき)、〔書付〕(大塩平八郎の一件につき)、〔留書〕(桜田門の変の様子)など20点	藤谷 彰
三重の弥生時代	10月17日(木) ～12月15日(日)	六大A遺跡(津市)や村竹コノ遺跡(松阪市)の弥生土器、宮山遺跡(いなべ市)や納所遺跡(津市)の石斧・石包丁、津市野田の祭祀用銅鐸レプリカ、北野遺跡(明和町)の銅鐸型土製品、宮山遺跡(いなべ市)の石斧の製作工程材料、狩猟用矢じりなど	藤谷 彰、共催：三重県埋蔵文化財センター
新春企画 三重のネズミた ち ※	12月17日(火) ～令和2年 1月26日(日)	アカネズミなどネズミの仲間の剥製標本、鼠がデザインされた萬古焼、和漢三才図会、ファウナヤポニカ、北斎漫画など	稲垣玲弥・中村千恵
石器は語る ～南伊勢地域の 旧石器・縄文時 代～	令和2年 1月28日(火) ～4月12日(日)	高山英行氏収集考古資料から、旧勢和村および周辺地域57遺跡での採集資料(旧石器時代から縄文時代の石器と土器中心)約1,600点を展示した。あわせて、多気町・明和町・玉城町内の遺跡で採集した旧石器時代の資料を展示した。	宇河雅之、協力：田村陽一

※あわせて、館内を探検しながらネズミに関係する様々な展示資料を見つけるイベント「MieMu でネズミにチューもくしよう！」を実施した(令和2年1月4日(土)～1月26日(日))。

4.5 オオサンショウウオ生態展示

館内の観察水槽にてオオサンショウウオのさんちゃんを飼育し生態展示を行っている。このオオサンショウウオ(さんちゃん)は平成4年に名張市美旗の小波田川にて保護し、当館の前身にあたる県立博物館で飼育していたものを平成26年2月に現施設に移動し飼育している。

毎月第2土曜日の午前11時から給餌公開を実施した。参加人数等は 5.3.1 講座 を参照。

4.6 その他の展示

交流創造エリアの中心的な役割を果たすスペースである、学習交流スペースなどを利用し、多様な主体との連携を軸に展示活動などを行った(5.4.6 その他の諸機関・諸団体参照)。当館主催事業は次の通り。

事業名	展示期間	内容
国の天然記念物の希少淡水魚「イタセンバラ」の水族展示	9月27日(金)～ 11月3日(日・祝)	2階 エントランスにおいて、90cm水槽を用いて、コイ科タナゴ亜科の淡水魚類で国の天然記念物で国内希少野生動植物種の「イタセンバラ」を展示した。国による保護の取組や生態をパネルで紹介した。
共同研究の成果「希少淡水魚ヤリタナゴの遺伝的な地域の特徴」についての水族展示	11月21日(木) ～令和2年 1月12日(日)	2階 エントランスにおいて、90cm水槽を用いて、コイ科タナゴ亜科の淡水魚類で三重県に生息する「ヤリタナゴ」を展示した。本種を用いた共同研究の成果論文や生態をパネルで紹介した。

4.7 屋外展示

1) ミュージアムフィールド

基礎データ 面積 ミュージアムフィールド全体 約28,400㎡

(観察の林 約18,800㎡、交流の広場 約4,370㎡、駐車場ゾーン 約5,230㎡)

(1) 観察の林

三重県総合博物館の建設に際して、周辺地域でも開発等で減少している里山残存林を、博物館活動での活用を目的として保存した。里山残存林であったため放置され、藪山となっていた林床の下草等を刈り取る最低限の手を加えた状態で管理している。

主な構成樹種 高木層 ツブラジイ、コナラ、アベマキ、ヤマザクラ、ヤマモモ、ハゼノキ
 亜高木層 シロダモ、カクレミノ
 低木層 ミミズバイ、ネズミモチ、ヒサカキ、アオキ
 草本 ネザサ、ベニシダ、ヤブミョウガ

(2) 交流の広場

植栽した芝生の広場を中心とするエリア。周辺には「木のずかん」と称するゾーンを設けて、屋内展示等で紹介している三重の植生やくらしにかかわりのある樹木を植栽。また、県内産の岩石や各河川の砂利を用いた通路等を設置している。

・交流の広場の植栽

ドングリのなかま ウバメガシ、ウラジロガシ、シリブカガシ、ツクバネガシ、スダジイなど
 薬になる植物 ニッケイ、キハダ、ナツメ、クコ、カリン、テンダイウヤクなど
 布などを染める植物 クチナシ、シャリンバイなど
 くらしの中の植物 ミツマタ、コウゾ、キリ、シナノキ、トチノキ、カキ、ザクロなど
 マツやスギのなかま スギ、ヒノキ、モミ、ツガ、カヤ、イヌガヤ、コウヤマキ、イチイなど
 虫があつまる植物 カラタチ、マグワ、イボタノキ、シダレヤナギなど
 サクラのなかま カンヒザクラ、エドヒガン、ソメイヨシノ、オオシマザクラ、カスミザクラ
 ツツジのなかま アカヤシオ、シロヤシオ、ヤマツツジ、ヒカゲツツジ、コアブラツツジ
 ベニドウダン、サツキ、モチツツジなど

- ・県内産岩石を用いた石のベンチ
- ・県内河川礫を用いた階段洗い出し
- ・モウソウチクの残置林
- ・野外学習スペース

4.8 移動展示

県内各地域において、三重の多様で豊かな自然と歴史・文化や当館の楽しみ方を知っていただく機会をつくるために移動展示を開催している。今年度は三重県立盲学校で開催した。

1) さわって みる ミュージアム

会 期	11月5日(火)～11(月) <開催日数：6日>			
会 場	三重県立盲学校（三重県津市高茶屋4-39-1）			
主 催	みえむプロジェクト実行委員会・三重県総合博物館			
共 催	三重県立盲学校			
内 容	三重県立盲学校100周年記念事業に合わせて、当館所蔵の触れる資料とともに、県内に生息する哺乳類について小学部児童が調べた成果を合わせ、「さわって・みる・ミュージアム」として展示した。また、当館ミュージアムパートナー ユニバーサル・ミュージアムグループによる足跡をさわって、動物の種類をあてるワークショップも開催した。			
主な資料	ニホンジカ、ツキノワグマ、ニホンノウサギ、イノシシのはく製と頭骨、ニホンジカとニホンノウサギのフン、ツキノワグマとイノシシのフン模型、タヌキ抱っこ標本、三重の触地図、毛皮製品、ニホンジカとイノシシの鳴き声			
観覧者数	427人			
関連事業				
行事名	開催日	会場	人数	講師等
ワークショップ 「哺乳類の足跡を調べよう」	11月5日(火) ～11日(月)	三重県立盲学校	253	当館職員 田村香里・中村千恵・稲垣玲弥、三重県立盲学校教諭、(11/9のみ) 当館ミュージアムパートナーユニバーサル・ミュージアムグループ
担 当	田村香里、中村千恵、稲垣玲弥			

5 交流創造活動事業

5.1 事業の趣旨・目的

三重の自然と歴史・文化に関する知りたい、学びたい、調べたいなどのさまざまなニーズに対応するとともに、県民・利用者、諸団体、館の相互交流の場となることにより、新たな創造や発信へとつなげるために、閲覧レファレンス活動事業、学習支援活動事業、諸団体との交流・連携事業を展開する。

5.2 閲覧レファレンス活動事業

5.2.1 レファレンス活動

三重の自然と歴史・文化、博物館利用に関する質問や疑問、相談に応じている。展示を楽しむだけでなく、さまざまな分野の専門家と日常的に出会うことができる場を用意し利用者と情報交換できる場となっている。

5.2.2 資料利用(閲覧・特別利用)

公文書館機能をもつ当館では、資料閲覧室において、歴史的公文書をはじめとする収蔵資料の閲覧に対応している。資料閲覧室には、三重の自然と歴史・文化に関する参考図書、三重県行政文書複製物(一部閉架)、三重県公報複製物(一部閉架)等が配架されており自由に閲覧可能である。収蔵庫の収蔵資料、書庫の収蔵図

書の閲覧については、事前予約が基本となるが閲覧することができる。また、所定の手続きを行うことにより、収蔵資料の写真掲載等の資料特別利用や資料貸出についても対応を行っている。

1) 資料閲覧室の利用内訳

	区分	資料内容	利用者数	閲覧点数
閉架収蔵 資料閲覧 内訳	自然分野	動物 / 植物 / 鉱物その他	17	153
	人文分野	考古資料 / 絵図・地図 / 刷り物 / 絵葉書 / 歴史資料 / 絵画・墨蹟 / 陶磁器 / 民俗その他	10	62
		写真資料 / 映像資料	0	0
		古文書（一紙物・整理済文書群 / 典籍類）	29	410
		歴史的公文書（行政文書・選別移管公文書 / 絵図・地図等） 〔うち行政利用（原課職員による業務閲覧）3人4点〕	38	349
	歴史的公文書（行政刊行物）	1	4	
図書	図書（閉架図書）	19	41	
① 閉架収蔵資料閲覧（利用者数は資料内容毎の重複を差し引いた値）			108	1,019
② 開架資料閲覧		図書 / 複製物（三重県行政文書・三重県公報） / 映像等	917	
③ その他利用 ※			2,470	
資料閲覧室入室者数合計（①+②+③）			3,495	

※その他利用：レファレンスサービス、室内展示観覧、室内見学等のみの利用

2) 資料特別利用一覧

	資料名	点数	申請者	利用目的	利用内容	申請日
1	伊勢参宮 宮川の渡し	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	4月1日
2	改良カマド / 電気炊飯器 / 茶碗 / 鉄製羽釜 / 鍋 / 飯杓子 / 七輪 / 筆箱 / 矢立 / 炭火アイロン / 火熨斗 / ちゃぶ台 / 食器一式	14	団体	学術上の調査研究、教育活動	熟覧、撮影	4月4日
3	長田三郎兵衛改津御城下分間絵図	1	団体	出版物等への掲載	転載	4月6日
4	狂歌 東海道五十三次 桑名 / 御蔭参宮文政神異記（阿波国から参宮したおさん犬） / 伊勢参宮 宮川の渡し	3	団体	テレビ放送等への利用	画像データ	4月11日
5	伊藤又五郎家文書 長野家奉行人連署状	1	団体	テレビ放送等への利用	撮影	4月12日
6	伊勢古市備前屋踊りの図（国貞） / 伊勢古市踊図（周廷）	2	団体	出版物等への掲載	画像データ	4月24日
7	岩戸神楽の起頭	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	5月7日
8	改良カマド / 羽釜	3	団体	教育活動、出版物等への掲載	画像データ	5月10日
9	モササウルス全身骨格	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	5月13日
10	浮絵駿河町呉服屋図	1	団体	教育活動、出版物等への掲載	画像データ	5月13日
11	郭外官地絵図 安濃郡津 贄崎砲台	1	団体	テレビ放送等への利用	画像データ	5月22日
12	浮絵駿河町呉服屋図	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	6月11日
13	ニホンカモシカ	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	6月20日
14	小学少年双六	1	団体	出版物等への掲載	転載	6月24日
15	吊り手水	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	6月25日

16	アルミ製ランドセル	1	団体	教育活動	画像データ	7月4日
17	モササウルス全身骨格	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	7月4日
18	松本幸雄 貝類標本	1	個人	学術上の調査研究、 教育活動、出版物等 への掲載	熟覧、撮影	7月11日
19	上木本・紀伊木本間省営自動車運輸 実施関係書 / 尾鷲・上木本 上木本・ 木本駅間自動車道路平面図 / B型旅 客自動車10分の1縮尺図	3	団体	展示活動	熟覧、撮影	7月19日
20	山海愛度図会 伊賀煙草入	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	7月29日
21	日本山海名産図会（海女漁の様子） / 光氏磯辺遊の図 / 三重県水産図解 （鮑漁之図 / 蜆婦焚火ニ躰ヲ温タメ 休息ノ図） / 三重県水産図説（鮫漁 蜆婦之図）	5	団体	テレビ放送等への利 用	画像データ	8月7日
22	三重県水産図説（鮫漁蜆婦之図）	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	8月20日
23	鳥居古墳出土遺物等の写真（銅板押 出一光三尊像ほか6点）	7	個人	出版物等への掲載	転載	8月24日
24	伊勢参宮 宮川の渡し	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	9月1日
25	高師小僧	1	個人	学会での研究発表	画像データ	9月18日
26	県立第四中学校建築一件綴 内務部 第二課	1	団体	学術上の調査研究	複製・複写	9月18日
27	明治元年ヨリ全四年マデ建言書類 （一括袋）	1	個人	出版物等への掲載	翻刻	9月20日
28	道標（ミュージアムフィールド）	1	団体	教育活動	熟覧、採拓	9月23日
29	伊勢参宮 宮川の渡し	1	団体	テレビ放送等への利 用	画像データ	9月25日
30	三重県古墳出土鏡目録 / 漢式鏡	2	個人	学術上の調査研究	熟覧、撮影	10月1日
31	田中繁三氏旧蔵文書	167	団体	学術上の調査研究	熟覧、撮影、施 設での公開	10月3日
32	四日市港近傍町村之図	1	団体	展示活動	画像データ	10月10日
33	夫婦岩図 / 光氏磯辺遊の図 / 二見浦 曙図 / 二見ヶ浦之光景	4	団体	展示活動	画像データ	10月17日
34	浮絵駿河町呉服屋図	1	個人	出版物等への掲載	画像データ	10月20日
35	恐竜の胃石（ギザストーン） / トバ リュウ大腿骨 / トバリユウ復元図 / 恐竜の糞石	4	団体	出版物等への掲載	画像データ	10月24日
36	柳瀬家文書 / 神富殖産会社資料 / 丹 羽家文書 / 三重県行政文書 ほか	173	個人	学術上の調査研究	撮影	10月26日
37	主図合結記（伊勢国桑名）	1	団体	出版物等への利用	画像データ	10月29日
38	田中繁三氏旧蔵文書	2	個人	学術上の調査研究	熟覧、撮影	11月2日
39	御成敗式目	1	個人	学術上の調査研究	熟覧	11月2日

40	浮絵駿河町呉服屋図	1	団体	出版物等への掲載	転載	11月14日
41	トバリユウ右大腿骨 / トバリユウ想像図 (図: 岡本泰子)	2	団体	出版物等への掲載	転載	11月22日
42	伊勢古市踊図	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	11月29日
43	当世開花別品競 女子師範学校	1	団体	学術上の調査研究	画像データ	11月30日
44	膳 (箱膳)	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	12月3日
45	三重県下頑民暴動之図 / 浮絵駿河町呉服屋図 / 豊饒御蔭参之図	7	団体	教育活動	画像データ	12月3日
46	伊勢参宮 宮川の渡し	1	団体	テレビ放送等への利用	画像データ	12月3日
47	伊勢名所 朝熊岳ケーブルカー	1	団体	テレビ放送等への利用	画像データ	12月5日
48	浮絵駿河町呉服屋図	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	12月6日
49	豊饒御蔭参之図	1	団体	出版物等への掲載	転載	12月9日
50	夫婦岩図 / 光氏磯辺遊の図 / 二見浦曙図 / 二見ヶ浦之光景	4	団体	展示活動	画像データ	12月17日
51	浮絵駿河町呉服屋図	1	団体	出版物等への掲載	転載	12月17日
52	でかいぞ ミエゾウ! ~化石が語る巨大ゾウの世界~ (図録表紙)	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	12月27日
53	奉願上口上 (幸福数馬大夫と唱えたき旨頑) / (家来ならびに兼業者の処置につき書付)	2	個人	学術上の調査研究	翻刻	令和2年 1月8日
54	三重県下頑民暴動之事件	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	令和2年 1月9日
55	トバリユウ (ティタノサウルス形類) 右大腿骨	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	令和2年 1月10日
56	豊饒御蔭参之図	1	団体	出版物等への掲載	転載	令和2年 1月15日
57	豊饒御蔭参之図	1	団体	出版物等への掲載	転載	令和2年 1月15日
58	浮絵駿河町呉服屋図	1	団体	テレビ放送等	画像データ	令和2年 1月15日
59	豊饒御蔭参之図	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	令和2年 1月23日
60	伊勢古市備前屋踊りの図	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	令和2年 1月23日
61	御師の館 (三日市太夫復元模型) / 御師のもてなし (300年前の献立再現)	2	団体	出版物等への掲載	画像データ	令和2年 2月3日
62	四日市港近傍町村之図	1	団体	出版物等への掲載	画像データ	令和2年 2月5日
63	浮絵駿河町呉服屋図	1	団体	テレビ放送等	画像データ	令和2年 2月6日
64	明治5年伊勢無足人帳 (2冊) / 来田家文書「記録二」 / 刀衣服御赦免之者由緒改帳 / 津藩無足人郷土江刀衣服免許状被下者取調帳 / 乍恐以書付由緒申上候	5	団体	テレビ放送等への利用	撮影	令和2年 2月7日

65	史蹟名勝天然記念物関係書類 三重県 / 三重県国宝調 三重県 / 古墳調・名勝史蹟調	3	団体	展示活動の事前調査	熟覧、撮影	令和2年 2月13日
66	東海道分間絵図 亀山付近 / 東海道分間絵図 宮付近	2	団体	出版物等への掲載	画像データ	令和2年 2月17日
67	伊賀国阿拝郡各村絵図 伊賀国阿拝郡上野村	1	個人	出版物等への掲載	画像データ	令和2年 2月19日
68	伊勢参宮 宮川の渡し	1	団体	講演会チラシ・ポスター掲載等広報利用	画像データ	令和2年 2月20日
69	浮絵駿河町呉服屋図 ほか	25	団体	出版物等への掲載	画像データ	令和2年 3月5日
70	豊饒御蔭参之図	1	団体	出版物等への掲載	転載	令和2年 3月9日
71	三重県水産図解（鰹釣り之図 / 鮫漁之図）	2	団体	出版物等への掲載	画像データ	令和2年 3月13日
72	西国三十三所名所図会九「石舞台」 / 西国三十三所名所図会九「酒船石」	2	団体	テレビ放送等への利用	画像データ	令和2年 3月13日
73	陵墓地所官国幣社官庁牢檻等調目録并図面等書類図面参拾入 ほか	6	団体	展示活動の事前調査	熟覧、撮影	令和2年 3月22日
	合計	499				

3) 資料貸出一覧

	利用資料名	点数	申請者	目的	期間
1	災害の概況 昭和40年度～平成15年度（欠号あり） / 伊勢湾台風による災害の概況と対策－昭和34年11月10日 / 昭和29年8月以降発生のもう雨・台風による災害の概況と対策 / 台風13号による災害の概況と対策（その一）	33	環境生活部文化振興課県史編さん班	『三重県史』編さんにおける調査	4月26日 ～7月12日
2	災害の概況 昭和61年度 / 同 平成9年度～平成14年度	7	環境生活部文化振興課県史編さん班	『三重県史』編さんにおける調査	5月20日 ～5月31日
3	対調整班（近畿圏）（3冊の3）阪神・淡路大震災に関する緊急要望H7年2月 / 予備監査復命書（82冊の10）阪神大震災支援（三重県保健所保健婦の手記）（津保健所）	2	環境生活部文化振興課県史編さん班	『三重県史』編さんにおける調査	6月14日 ～7月12日
4	改良カマド / 電気炊飯器 / 茶碗 / 鉄製羽釜 / 七輪 / 筆箱 / 矢立 / ちゃぶ台 / 茶釜 ほか	12	鈴鹿市教育委員会	企画展「今の道具 ゴーっと昔の道具」における展示	6月24日 ～9月30日
5	ミエゾウ レプリカ（椋川標本 / 明標本 / 服部川産足跡化石）	3	みよし市歴史民俗資料館	夏季企画展「東海の化石から探る、生きものの4億年」における展示	7月1日 ～10月20日
6	チョウの標本（8箱）	8	伊丹市昆虫館	企画展「アルマス～フェアブル先生のひみつ基地～」における展示	10月31日 ～令和2年 1月31日
	合計	65			

5.3 学習支援活動事業

博物館の利用者に、三重の自然と歴史・文化や博物館の活動に対する興味・関心を持つきっかけや深める機会を提供することを目的として、講座やワークショップ、フィールドワークなどの学習支援活動を実施している。

5.3.1 講座

1) 学芸員フリートーク

第2土曜日に当館の学芸員がそれぞれの専門分野について講演し、来館者が気軽に参加できる講座。

行事名	開催日	会場	人数	講師
身近な植物の観察	5月11日(土)	レクチャールーム	11	当館職員 森田奈菜
三重県の森が危ない！立ち枯れる森の木々	7月13日(土)		37	当館職員 佐野 明
津藩家臣団と知行制	9月7日(土)		34	当館職員 藤谷 彰
三重の仏像 展覧会を通じてわかったこと、考えたこと	11月9日(土)		64	当館職員 瀧川和也
古代の志志郡について	令和2年1月11日(土)		30	当館職員 星野利幸
はく製はこわい？触れる資料づくりの取組から	令和2年3月14日(土)		中止	当館職員 田村香里
計			176	

2) 基本展示スポットガイド

隔月で基本展示の1コーナーを担当学芸員が展示解説する講座。令和元年度は全6回開催。

行事名	開催日	会場	人数	講師
基本展示スポットガイド	4月13日(土)	基本展示室	2	当館職員 宇河雅之
	6月8日(土)		16	当館職員 津村善博
	8月10日(土)		4	当館職員 北村淳一
	10月12日(土)		5	当館職員 太田光俊
	12月14日(土)		7	当館職員 大西 到
	令和2年2月8日(土)		20	当館職員 大島康宏
計			54	

3) 館長と調べる三葉虫のひみつ

行事名	開催日	会場	人数	講師
館長と調べる三葉虫のひみつ	4月28日(日)	実習室	13	当館館長 大野照文
	8月24日(土)		12	
	12月22日(日)		17	
計			42	

4) 同定会

海や山、自宅や学校で見つけた動物、植物、化石などの標本を持ち寄って、各分野の専門家と一緒に名前を調べるイベント。

行事名	開催日	会場	人数	講師
標本の名前を調べてみよう(同定会)	8月18日(日)	レクチャールーム	67	[昆虫]乙部 宏(三重昆虫談話会)・当館職員 大島康宏、[植物]当館職員 森田奈菜、[貝類]中野 環(三重貝なかま)、[脊椎動物]当館職員 北村淳一・田村香里・佐野 明、[岩石・鉱物]当館職員 津村善博、[化石]当館職員 中川良平

5) さんちゃんのお食事会

館内で飼育しているオオサンショウウオの給餌を公開し、観察する講座。毎月第2土曜日に実施

行事名	開催日	会場	人数	講師
さんちゃんのお食事会	4月13日(土)	オオサンショウウオ観察水槽前	58	当館職員 田村香里・北村淳一・稲垣玲弥
	5月11日(土)		64	
	6月8日(土)		71	
	7月13日(土)		59	
	8月10日(土)		106	
	9月14日(土)		115	
	10月12日(土)		6	
	11月9日(土)		49	
	12月14日(土)		34	
	令和2年1月11日(土)		51	
	令和2年2月8日(土)		63	
令和2年3月14日(土)	中止			
計		676		

6) わくわくワークショップ

1ヶ月に1回程度実施する自由参加型の講座。

行事名	開催日	会場	人数	講師
植物標本づくり	4月21日(日)	学習交流スペース	32	当館職員 稲垣玲弥
葉っぱのこすりだし図鑑	5月5日(日)		64	当館職員 稲垣玲弥
花をデザインしよう	6月16日(日)		32	当館職員 稲垣玲弥
ぶんぶんごまをつくろう	7月21日(日)		105	ミュージアムパートナーおもしろ博物館グループ
どんぐり図鑑をつくろう	10月20日(日)		25	当館職員 稲垣玲弥
伊勢型紙でポストカードをつくろう	11月17日(日)		36	当館職員 稲垣玲弥
まつぼっくりでクリスマスツリーをつくろう	12月1日(日)		52	当館職員 稲垣玲弥
さんちゃんをつくろう	令和2年3月15日(日)		中止	ミュージアムパートナーおもしろ博物館グループ
計		346		

7) おとなのためのコケ講座

コケについての座学とともに、ミュージアムフィールドで採集したコケを顕微鏡で観察し、同定方法などを学ぶ講座。

行事名	開催日	会場	人数	講師
おとなのためのコケ講座	10月19日(土)	実習室 ミュージアムフィールド	11	当館職員 森田奈菜

8) 正月かざりづくり体験

ミュージアムパートナーおもしろ博物館づくりグループとの連携イベントで、なわをなうところからしめ縄状の正月かざりをつくる体験講座。

行事名	開催日	会場	人数	講師
正月かざりづくりをつくろう	12月15日(日)	交流活動室	15	ミュージアムパートナーおもしろ博物館グループ、当館職員 宇河雅之・中村千恵

5.3.2 フィールドワーク

1) さがしてみよう！磯の生物

熊野灘沿岸の磯にすむ生物の観察

行事名	開催日	会場	人数	講師
さがしてみよう！磯の生物	9月28日(土)	志摩市志摩町の海岸	12	三重大学 木村妙子、当館職員 北村淳一

2)文化財探訪

学芸員や専門家と一緒に、県内の文化財を訪ね歩く行事

行事名	開催日	会場	人数	講師
特別展関連イベント「近長谷寺十一面観音をたずねて」	11月10日(日)	多気町近長谷寺	15	当館職員 瀧川和也・星野利幸・中村千恵

3)宮川の石を調べよう

行事名	開催日	会場	人数	講師
宮川の石を調べよう	12月1日(日)	度会町宮川流域	47	当館職員 中川良平・津村善博

4)身近な冬鳥を観察しよう

鳥類の剥製を館内でじっくり観察してから、博物館周辺の野外で鳥類を観察する自然観察会

行事名	開催日	会場	人数	講師
身近な冬鳥を観察しよう	12月8日(日)	総合博物館内および博物館周辺の池	19	日本野鳥の会三重 平井正志、三重県環境情報学習センター 木村京子、当館職員 田村香里・北村淳一・稲垣玲弥
	令和2年3月8日(日)	総合博物館内および安濃川河口	中止	

5)山粕層群の化石をたずねて

行事名	開催日	会場	人数	講師
山粕層群の化石をたずねて	令和2年1月26日(日)	津市美杉町太郎生	23	当館職員 中川良平・津村善博

5.3.3 MieMu の日

開館日である4月19日を「MieMuの日」と銘打ち、毎年「MieMuの日」前後の日曜日に記念イベントを実施し、利用者の皆さんや地域の方々に日頃の感謝を伝える取組を行っている。本年度については開館5周年を記念して「5周年祭」と銘打ち、次の催しを行った。

実施日時： 4月21日(日)午前9時から午後7時まで

当日の特典：「家庭の日」にあたるため、すべての展示を2割引

イベント：

行事名	会場	概要	人数
オレンジグッズを身に付けて、MieMuに行こう！	エントランスホール	オレンジ色の衣服等を身に付けて来館いただいた方全員にMieMuオリジナル缶バッジをプレゼントした。	286
MieMu5年間の歩み展示	学習交流スペース他	5年間の企画展やイベント等のポスターで、これまでの歩みを振り返った。	—
お絵かきバス	駐車場	バスに好きな絵を描くイベントを実施した。 協力：公益財団法人 三重県バス協会、三重交通株式会社、三重県地域連携部交通政策課 ※同ブースにおいて、子ども制服試着コーナー(協力同)、オリジナルのりもの缶バッジ作りコーナー(協力：三重県地域連携部交通政策課)を同時開催。	110 ※オリジナル缶バッジは160
ワードラリー	基本展示室・企画展示室	基本展示室と企画展「ボタニカル・デザイン」を観覧して、植物にまつわる言葉を集めてキーワードを完成させるワードラリーを実施した。	253
わくわくワークショップ「押し葉標本をつくってみよう！」	学習交流スペース	ミュージアムフィールドの植物を使って押し葉の植物標本の作り方を紹介した。	32

5.3.4 情報誌

博物館の展示や資料、活動に関する情報を発信するために、博物館情報誌「みえんしす」を刊行した。

- ・三重県総合博物館情報誌「みえんしす」(第25号～第28号)

25号(7月3日発行) 特集 第24回企画展・開館5周年記念特別展

この男がジブリを支えた。近藤喜文展

26号(10月1日発行) 特集 第25回企画展・開館5周年記念特別展

三重の仏像～白鳳仏から円空まで～

27号(12月17日発行) 特集 第26回企画展

1960年代の熱気を未来につなぐ～出来事でふりかえる60年の歩み～

28号(令和2年3月17日発行) 特集 第27回企画展

名所発見、再発見!～浮世絵でめぐる三重の魅力～

5.3.5 人材育成支援活動

1) 博物館学芸員実習

各大学における「博物館学芸員資格」の必須科目「博物館実習」を希望する学生の受け入れを行った。

① Aコース

[実習生] 皇學館大学(5名)、愛知学院大学(2名)、中京大学(2名)、日本大学(2名)、名城大学(2名)、愛知県立芸術大学、高知大学、龍谷大学(各1名)

日 程	概 要
8月14日(水)	ガイダンス、当館の概要、博物館学入門、公文書館機能について、公文書整理作業
8月15日(木)	台風のため休講 ※9月1日(日)と9月5日(木)に振替
8月16日(金)	資料調査活動(化石・哺乳類)
8月17日(土)	歴史資料の取り扱い、文書の目録作成、「同定会」準備
8月18日(日)	イベント対応(同定会、MP活動)、展示室動向調査

② Bコース (三重大学との相互協定による連携事業として実施)

[実習生] 三重大学(13名)

内訳 生物資源学部10名、教育学部3名

脊椎動物(学芸員1名)、昆虫・植物(学芸員2名)、地学(学芸員2名)、淡水魚(学芸員1名)、総合(人文系・自然系含む)(学芸員3名)の5班にわかれ、各学芸員の指導の下、それぞれ5日間の実習を行った。

2) インターンシップ

博物館での就業経験を希望する学生の受け入れを行った。

[実習生] 三重大学(3名) 皇學館大学(1名)

日 程	概 要
8月18日(日)・24日(土)・25日(日)・31日(土)・9月1日(日)	施設の概要説明、館内案内、事業対応、情報誌『みえんしす』の記事作成(企画展「三重の仏像」紹介)、企画展「1960年代の熱気を未来につなぐ」に関する調査研究補助、三重大学(2名)
8月27日(火)・9月1日(日)・4日(水)・9月7日(土)・8日(日)	施設の概要説明、館内案内、事業対応、企画展「1960年代の熱気を未来につなぐ」に関する調査研究補助、三重大学(1名)・皇學館大学(1名)

5.4 他機関・諸団体との交流・連携事業

博物館活動の基本的な活動の視点である「協創」と「連携」に基づき、他機関・諸団体との交流と連携を深め、新たな創造と発信の機会とするために、連携のための協議、連携・協力による講演会や各種ワークショップ、展示、博物館の活用等を実施した。

5.4.1 学校

1) 遠足・社会見学等の利用

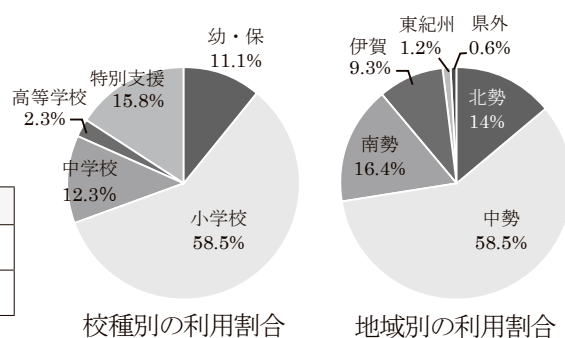
令和元年度の学校利用については幼稚園等 19 園(所)、小学校 100 校、中学校 21 校、高等学校 4 校、特別支援学校 27 校の計 171 校であった。また、地域別の利用状況については、北勢地区 24 校、中勢地区 100 校、南勢地区 28 校、伊賀地区 16 校、東紀州地区 2 校、県外 1 校であった。また、小学校 3 年生で学ぶ「昔の暮らし」の学習時期に合わせて企画展「1960 年代の熱気を未来につなぐ～出来事でふりかえる 60 年の歩み～」を開催し、会期中に展示見学のために来館した小学校 15(申し込み数)校に、学芸員が道具の使用体験を交えた解説対応を行った。

校種別の利用数

	幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援
実数	19	100	21	4	27
割合 (%)	11.1	58.5	12.3	2.3	15.8

地域別の利用校数

	北勢	中勢	南勢	伊賀	東紀州	県外
実数	24	100	28	16	2	1
割合 (%)	14	58.5	16.4	9.3	1.2	0.6



2) 教職員研修

博物館と学校教育との連携の観点から、教職員の方々に博物館の活動や施設等について知っていただき、学校教育における博物館活用を促進するために講師派遣、教員研修(個人・団体)の受入を行った。

<総合教育センター講座>

8月22日(木) 教員のための博物館の日 38名

<教員研修>

7月31日(水) 多気郡教育研究会環境教育部会

8月22日(木) 亀山市幼児教育研修会

8月24日(土) 三重県教職員組合中勢高支部教育研究大会理科部会

10月2日(水) 津市教育研究会環境部会

<教員研修(社会体験研修)>

9校の受入れ

津市立南が丘小学校	7月23日(火)、8月4日(日)	2名
津市立新町小学校	8月2日(金)、8月4日(日)	1名
津市立大三小学校	8月2日(金)、8月4日(日)	1名
津市立橋南中学校	8月2日(金)、8月4日(日)	1名
津市立神戸小学校	8月2日(金)、8月4日(日)	1名
津市立朝陽中学校	8月4日(日)、9月3日(火)	2名
三重県立伊勢工業高等学校	8月10日(土)、8月28日(水)	1名
津市立北立誠小学校	8月10日(土)、8月28日(水)	1名
津市立安濃小学校	12月24日(火)、令和2年1月5日(日)	1名

3) スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業への協力

三重県立津高等学校、三重県立松阪高等学校、三重県立上野高等学校、三重県立伊勢高等学校での探究活動の授業にT A(ティーチングアシスタント)として協力し、探究活動の支援、助言等を行った。また、

三重県立津高等学校地学部、三重県立四日市高等学校生物部、三重県立伊勢高等学校アドバンスコース選
択者に、津市美里地域の化石採集のフィールドワークを行い、当館の展示物等の資料を利用して発表を行
った。 ※詳細は8)学校への出前授業等を参照

4) 中学生の職場体験

9校の受入れを行った。

津市立西郊中学校	2年生	2名	9月4日(水)～9月6日(金)
津市立一身田中学校	2年生	2名	9月4日(水)～9月6日(金)
津市立西橋内中学校	2年生	2名	9月10日(火)～9月12日(木)
津市立朝陽中学校	2年生	2名	9月10日(火)～9月12日(木)
津市立南郊中学校	2年生	2名	9月10日(火)～9月12日(木)
津市立南が丘中学校	2年生	4名	9月11日(水)～9月13日(金)
津市立橋南中学校	2年生	2名	9月18日(水)～9月20日(金)
セントヨゼフ女子学園中学校	2年生	2名	9月18日(水)～9月19日(木)
津市立久居東中学校	2年生	4名	9月25日(水)～9月27日(金)

5) 高校生の職場体験

1校の受入れを行った。

三重県立みえ夢学園高等学校	2年生	2名	7月31日(水)～8月2日(金)
---------------	-----	----	------------------

6) クラブ活動

高田高等学校科学部	科学体験講座	7月23日(火)～7月24日(水)
-----------	--------	-------------------

7) 学校への移動展示

三重県立盲学校で移動展示「さわって みる ミュージアム」を行った。文化祭に参加し、触れる、体
験できる資料を展示。11月5日(火)～11月11日(月)

8) 学校への出前授業等

・教科学習総合学習等

明和町立下御糸小学校(北村)	: 5月31日(金)
松阪市立朝見小学校 (北村)	: 6月5日(水)、9月5日(木)
津市立片田小学校 (大島)	: 6月12日(水)
明和町立斎宮小学校 (北村)	: 6月13日(木)、6月21日(金)
三重県立盲学校 (田村・中村)	: 6月26日(水)
津市立修成小学校 (大西)	: 9月25日(水)
津市立南が丘小学校 (大西)	: 9月26日(木)
鳥羽市立神島小学校・中学校(大島)	: 10月2日(水)
津市立安濃小学校 (瀧川)	: 10月10日(木)
津市立一身田小学校 (津村)	: 11月15日(水)
津市立みさとの丘学園(大野・寺村)	: 11月22日(金)
四日市市立八郷西小学校(津村)	: 12月13日(金)
亀山市立加太小学校 (大野・寺村)	: 令和2年1月18日(土)
津市立藤水小学校 (宇河・大西)	: 令和2年1月21日(火)
津市立高茶屋小学校 (宇河・大西)	: 令和2年1月22日(水)
津市立養正小学校 (宇河・大西)	: 令和2年1月23日(木)
松阪市立松江小学校 (宇河・大西・寺村)	: 令和2年1月30日(木)
津市立敬和小学校 (宇河・大西)	: 令和2年2月4日(火)
東員町立三和小学校 (宇河・大西)	: 令和2年2月5日(水)

津市立南立誠小学校（宇河・大西）：令和2年2月6日(木)
 津市立新町小学校（宇河・寺村）：令和2年2月13日(木)
 津市立村主小学校（宇河・寺村）：令和2年2月14日(金)
 南伊勢町立南勢小学校(大野・寺村)：令和2年2月21日(金)

・県内学校における探究的な活動に係る支援

< 県立学校担当者会議(三重県教育委員会事務局主催) >

みえ科学探究コンソーシアム：7月4日(木)、12月2日(月)

< 授業(総合的な学習の時間等) >

三重県立津高等学校(寺村)：5月17日(金)、10月18日(金)、11月8日(金)、令和2年1月10日(金)、
 1月17日(金)、1月24日(金)、2月1日(土)

三重県立松阪高等学校(寺村)：6月3日(月)、6月5日(水)、9月9日(月)、9月11日(水)、9月18
 日(水)、9月19日(木)、10月21日(月)、10月23日(水)、10月31日(木)、
 12月11日(水)、令和2年1月14日(火)、1月16日(木)、1月17日(金)、1
 月23日(木)、1月24日(金)、2月12日(水)、2月19日(水)

三重県立伊勢高等学校(寺村)：5月16日(木)、6月27日(木)、7月11日(木)、11月28日(木)、
 12月19日(木)、令和2年1月16日(木)、2月6日(木)

三重県立上野高等学校(寺村)：7月5日(金)、9月25日(水)、11月20日(水)、令和2年2月12日(水)

< SSH運営指導委員会 >

三重県立松阪高等学校(大野)：6月20日(木)

三重県立上野高等学校(寺村)：6月29日(土)

< 博物館資料を用いた探究的な活動 >

一志層群化石採集(寺村)

三重県立津高等学校、県立四日市高等学校 6月22日(土)、6月23日(日)

三重県立伊勢高等学校 令和2年1月11日(土)

津市立みさとの丘学園 11月22日(金)

5.4.2 大学

1) 三重大学

三重大学とは、「三重県総合博物館と国立大学法人三重大学との相互協力協定」(平成26年2月締結)に基づき、三重の自然と歴史・文化などのかけがえのない地域資源を活かし、文化振興と地域づくりに寄与することを目的として、相互協力による連携事業に取り組んでいる。また、連携の協議機関として、連絡調整会議を設置し、定期的に事業調整・協議を行っている。

① 連携事業

(1) 研究

事業名	期間等	会場	概要	人数	担当者
ウミガメ類の研究	平成27年度～ (継続中)	当館・ 県内海 岸各地	伊勢湾・熊野灘に漂着したウミガメ類の研究(担当：標本収集、解剖、X線撮影、骨格標本作成、標本保存)	—	生物資源学部三重大学サークル「かめつぶり」、吉岡基(生物資源学部)、当館職員 北村淳一・田村香里

スナメリ類の研究	平成 27 年度～ (継続中)	当館・ 県内海 岸各地	伊勢湾に漂着したスナメリ類の研究(担当:標本収集、解剖、X線撮影、骨格標本作成、標本保存) ※平成 30 年度～スナメリネットワークの活動も含む。	—	生物資源学部三重大学サークル「かめつぷり」、吉岡 基(生物資源学部)、当館職員 北村淳一・田村香里
三重県総合博物館収蔵庫への APG 体系導入について	平成 30 年度～	当館	三重県総合博物館収蔵庫への APG 体系導入について	—	福田知子(教養教育院)、当館職員 森田奈菜
花粉媒介の昆虫類に関する研究	平成 30 年度～	当館	チシマイワブキ属の 3 種について花粉媒介を行う昆虫類を関係について研究する。日本生態学会で報告も行った。	—	福田知子(教養教育院)、当館職員 大島康宏
当館収蔵資料を用いた地域の昆虫層の変化に関する研究	平成 31 年度～	当館・ 県内各 所	当館収蔵昆虫資料(整理作業を含む)を用い、現在の調査と比較することで、県内各所の自然環境の変遷を調査する。	—	塚田森生(生物資源学研究科)、福田知子(教養教育院)、当館職員 大島康宏

(2) 博物館実習

事業名	期間等	会場	内容	人数	担当者
博物館実習 B コース	10 月～12 月 ※各学生ごとに調整し各 5 日間	当館	学芸員資格取得にかかる実習	13	当館職員 大西 到・森田奈菜

(3) インターンシップ

事業名	期間等	会場	内容	人数	担当者
インターンシップ	8 月 15 日(水)～8 月 31 日(土)の内 5 日間	当館	博物館での就労経験	3	当館職員 太田光俊

(4) 博物館学芸員養成課程授業〔授業協力〕

事業名	期間等	会場	内容	人数	担当者
人文学部博物館実習の見学・技術実習	6 月 12 日(水)・6 月 19 日(水)・26 日(水)	当館	①バックヤード等の施設見学、②保存環境に関する施設・設備見学、③歴史資料の資料取扱の研修	各 20	清水みき(人文学部非常勤講師)、当館職員 星野利幸

(5) その他

事業名	期間等	会場	概要	人数	連携先など
ジュニアドクター育成塾	平成 30 年度～ (継続中)	—	小学校 5・6 年生および中学生を対象に特別な教育プログラムを提供し、その能力等の更なる伸長をめざすもの。 ※令和元年度については、広報協力のみ	—	後藤太郎(教育学部)、当館職員 中村千恵

三重県総合博物館協議会 評価部会の外部委員	平成 30 年度～ (継続中)	当館	三重県総合博物館の活動と運営について、平成 30 年度の取組実績をもとに評価を行う。	—	吉岡 基 (生物資源学研究科)、当館職員 北村淳一
教養教育「生物学」のゲストスピーカー	5 月 21 日(火)・23 日(木)・24 日(金)	三重大学	博物館活動と標本	—	福田知子(教養教育院)、当館職員 大島康宏
教養教育・教養統合科目・地域理解・日本理解「三重 学 食と観光実践」における博物館見学対応	6 月 15 日(土)	当館	博物館見学と展示のトピックの詳細説明	17	鈴木幸子 (地域人材教育開発機構)、当館職員 太田光俊
チェンマイ大学 (タイ) 看護学部の学生の訪問	5 月 29 日(水)	当館	館内見学 (内タイ研修生 7 名)	13	成田有吾 (医学部)、当館職員 太田光俊
館内見学	7 月 17 日(水)	当館	研究室による見学	37	木村妙子 (生物資源学研究科)、当館職員 北村淳一
教養教育・教養統合科目・地域理解・日本理解「日本理解特殊講義 三重の歴史と文化」	7 月 24 日(水)	三重大学	歴史学から見る「三重の食」	29	鈴木幸子 (地域人材教育開発機構)、当館職員 太田光俊
第 10 回みえ水産フォーラム講演会「海のいきもの不思議」	8 月 25 日(日)	当館	小学生の親子を対象にした、専門家による分かりやすい報告。(会場への一般来場者数 70 名)	—	吉岡 基 (生物資源学研究科)、三重地域産学官連携水産研究連絡会議 (三重県農林水産部、国立研究開発法人水産研究・教育機構増養殖研究所、三重大学大学院生物資源学研究科)、当館職員 太田光俊
みえむ未来創成フォーラム 2019「三重の自然」	10 月 27 日(日)	当館	オーストリア・ウィーン大学教授ヨハン・ホーエネガー氏の講演と、三重県内各地の実践の報告 (会場への一般来場者数 38 名)	—	坂本竜彦 (生物資源学研究科)、当館館長 大野照文ほか ※ 5.4.5 4) 参照
館内見学	11 月 8 日(金)	当館	科学技術振興機構の「さくらサイエンスプログラム」の一環としての、ホーチミン市師範大学学生・教員の見学	11	後藤太一郎 (教育学部)、当館職員 大西 到

体験！実感！三重の自然！～自然環境リテラシー学のすすめ～	12月14日(土)・15日(日)	当館	三重大学共生環境学科・東北マリンサイエンス拠点事業による事業（三重県総合博物館・三重大学地域創生戦略企画室共催）。（会場への一般来場者数194名）	—	坂本竜彦（生物資源学研究科）、当館職員 太田光俊・佐野 明
教育実地研究基礎	12月21日(土)～令和2年2月24日(月・振休)	当館	教育学部社会科教育コース1年次学生、教育実地研究基礎受講生に来館者対応の補助を体験していただき、子どもとの接し方などへの考察を深める。	16	藤田達生（教育学部）、当館職員 太田光俊
教育特別研究ⅠB（大学院講義）での展示見学	令和2年1月11日(土)	当館	教育学研究科の各専攻生が三重県総合博物館を見学し、基本展示等を活用した授業案を考案し、発表する。	6	荻原 彰（教育学部）、当館職員 中村千恵
分子で探る海の恵み～三重大学大学院生物資源学研究科生物圏生命科学専攻 海洋生命分子化学講座 修士論文発表会～	令和2年2月13日(木)	当館	生化学・分子生物学などの手法を用い、さまざまな海の生物資源の活用などに迫る。通常大学内で行う修士論文の発表会を三重県総合博物館内で実施し、多くの皆さんに大学の教育とその成果を知っていただくための博物館活用の試行例とした。	55	加納 哲（生物資源学研究科）、当館職員 太田光俊
みえむ熊野市かがくこうさくフェスタ	令和2年2月23日(日)	熊野市文化交流センター	学校等の教育機関と連携して、参加体験型の学習プログラムを通じて地域の子もたちに自然や科学をに興味を持ってもらう機会を提供した。 ※5.4.5 4) 参照	1,387	坂本竜彦（生物資源学研究科）、当館職員 寺村善樹

②連絡推進会議

三重大学博学連携推進室 梅川逸人、荻原 彰、塚本 明、大井隆弘、吉岡 基、萩 誠一、家田勝也

当館 大野照文、星野利幸、宇河雅之、寺村善樹、太田光俊、中村千恵

- ・第1回 日時 6月7日(金) 場所 当館会議室
- ・第2回 日時 10月16日(水) 場所 当館会議室
- ・第3回 日時 令和2年3月31日(火) 場所 電子メール審議

※特に今年度は今後の博学連携におけるインターンシップ事業活用について協議した。

2) 皇學館大学

皇學館大学とは、「三重県総合博物館と皇學館大学との相互協力協定」（平成25年2月締結）に基づき、三重の地域振興のため、双方の知的資産を活用して連携し、三重に関連する地域資源を探索・保存継承・活用発信を行うとともに、地域に伝わる伝統や文化を尊重し、次世代に活躍する人材を育成することを目的として、相互協力による連携事業に取り組んでいる。また、連携の協議機関として、連絡調整会議を設置し、定期的に事業調整・協議を行っている。

①連携内容

(1) 共同研究

事業名	期間等	会場	内容	人数	担当者
皇學館大学 佐川記念神道博物館の所蔵資料を用いた調査・研究	平成 29 年度～ (継続中)	当館	神道博物館所蔵の鏡鑑類コレクションの科学的分析などの共同研究	—	岡田芳幸(神道博物館・共同研究員)、当館職員 甲斐由香里

(2) 博物館実習

事業名	期間等	会場	内容	人数	担当者
博物館実習 A コース	8 月 14 日(水)～8 月 18 日(日)	当館	学芸員資格取得にかかわる実習	5	当館職員 大西 到・森田奈菜

(3) 博物館学芸員養成課程授業など

事業名	期間等	会場	内容	人数	担当者
博物館概論	春学期中 半 日	当館	1 年次春学期、見学(学生各自)	71	岡田芳幸(非常勤講師)、当館展示・交流事業課
博物館教育論	4 月 20 日(土)～6 月 16 日(日)	当館	2 年次春学期、企画展「ボタニカル・デザイン」見学(学生各自)	28	大平和典(研究開発推進機構)、当館展示・交流事業課
博物館実習	12 月 21 日(土)～令和 2 年 2 月 24 日 (月・振休)	当館	3 年次、企画展の監視業務並びに教育普及事業の補助	20	大平和典(研究開発推進機構)、当館職員 大西 到・太田光俊
博物館資料論	令和 2 年 1 月 18 日(土)	当館	1 年次秋学期、資料調査や資料整理についての考え方など講義・見学	70	岡田芳幸(非常勤講師)、当館職員 藤谷 彰
博物館資料保存論	令和 2 年 1 月 26 日(日) 午後	当館	3 年次秋学期、甲斐学芸員による講義と収蔵庫・展示室案内	17	岡野友彦(文学部)、当館職員 甲斐由香里

(4) 授業などでの施設利用

事業名	期間等	会場	内容	人数	担当者
インターンシップ	8 月 27 日(火)～9 月 8 日(日) の内 5 日間	当館	3 年次、企画展時の準備作業を行った。	1	一路侑杜(学生支援部就職担当)、当館職員 太田光俊
参拝見学	11 月 26 日(火)	当館	文学部 4 年次	246	学生支援部教務担当、当館職員 太田光俊
古文学学	令和 2 年 2 月 19 日(水)、 20 日(木)、21 日(金)	当館	2 年～大学院、実物資料としての古文書を用いた読解力の向上及び資料整理体験	50	岡野友彦(文学部)、当館職員 藤谷 彰・太田光俊

(5) その他(探求・保存継承・活用発信)

事業名	開催日	会場	概要	人数	担当者
ワークショップ「寄生バチはどうやって昆虫を食べるか観察・実験してみよう」	8月14日(水)	当館	生物学ゼミ生による昆虫ワークショップ(WSは70名、会場への来場164名)	234	中松 豊(教育学部)・ 当館職員 大島康宏
かつおぶしを削って料理をつくろう～三重のお米と伊勢茶を使って～	令和2年 1月26日(日)	当館	家庭科ゼミ生による食に関するワークショップ 昔ながらのかつおぶし削り器を使ってかつおぶしを作り、おにぎりとおおさ汁を作り、試食	10組 3回	駒田聡子(教育学部)・ 当館職員 太田光俊

②連絡推進会議

- 皇學館大学研究開発推進センター 大島信生、中松 豊、大平和典、浦野綾子、大井恵子
当館 大野照文、瀧川和也、藤谷 彰、大島康宏、太田光俊
- ・第1回 日時 7月11日(木) 場所 当館会議室
 - ・第2回 日時 11月6日(水) 場所 皇學館大学佐川記念神道博物館会議室

5.4.3 博物館

三重県内には登録博物館20館、博物館相当施設3館及び類似施設84館あり、相互に情報交換や企画展等での資料貸借などの相互協力を行っている。県内博物館の49機関67施設が加盟する三重県博物館協会の事務局が当館に置かれていることから、県内博物館との全体的な連携は主に同協会事業を兼ねて行っている。

また、県外の博物館との関係では、全国組織である日本博物館協会、同近畿支部、全国科学博物館協議会、全国歴史民俗系博物館協議会に加盟している。また、岐阜県博物館との連携事業を実施した。

1) 三重県博物館協会

三重県博物館協会は、昭和48年に三重県内の博物館園等の相互連携を密にし、博物館事業等の普及発展を図り、三重県の文化の進展に寄与することを目的として設立され、令和元年度は県内博物館の49機関67施設が加盟している。当館館長が理事に選任され、また、当館が協会事務局を引き受けている。

1 総会・理事会・運営委員会

事業名	開催日	会場	人数	内容
第1回理事会	6月5日(水)	当館交流活動室	5	三重県博物館協会役員・職員の体制、東海三県博物館研究交流会、三博協50周年事業、規約等の改正等
総会	6月21日(金)	当館レクチャールーム	22館	平成30年度事業・決算報告、令和元年度事業計画・予算、会則改定報告等
第1回運営委員会	7月3日(水)	当館交流活動室	4	三重県博物館協会運営委員長選出、令和元年度事業の実施、三重県博物館協会会費・運営の在り方等
第2回運営委員会	12月26日(木)	当館会議室	4	令和元年度事業の実施、三重県博物館協会会費・運営の在り方、三博協50周年事業等
第2回理事会	令和2年 2月14日(金)	当館会議室	7	本年度の実施が難しい事業の対応、広報PR事業の課題、三博協50周年記念事業の課題、協会の運営等
第3回理事会	令和2年 3月25日(水)	当館交流活動室	6	本年度の実施が難しい事業の対応、広報PR事業の課題、三博協50周年記念事業の課題、協会の運営、事務局長の交代等

事業名	開催日	会場	人数	講師
会員館ネットワーク強化 事業情報交換会	6月21日(金) 総会終了後に実施	当館	31	—
会員館スキルアップ研修 技術研修(展示研修)	12月3日(火)	当館	16	(特別展「三重の仏像～ 白鳳仏から円空まで～」 の撤収現場見学)
会員館ネットワーク強化 事業施設見学会	令和2年 1月28日(火)	日本オオサ ンショウウ オセンター	5	—
計			52	

事業名	開催日	会場	人数	講師
公開講座「ミュージアム・ トーク」 「生誕200年 松 浦武四郎と幕末」	令和2年 3月28日(土)	朝日町教育 文化施設 2 階視聴覚室	— (新型コロナウイルス感 染拡大防止のため中止)	山本 命(松浦武四郎記 念館)

4 博物館関係情報共有事業

令和2年3月18日(水)～19日(木)に名古屋市博物館にて開催予定の日本博物館協会主催研究協議会「防災の備え—最近の異常気象に基づく災害や地震への対策」へ加盟館園職員の派遣を予定するも新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う事業休止のため派遣せず。

5 三重県博物館協会広報PR事業

県内外への発信活動として、理事が中心となり、休眠状態になっていた協会のブログを再度展開する取組を検討

6 東海三県博物館研究交流会

愛知県博物館協会・岐阜県博物館協会・三重県博物館協会が主催

日時：11月6日(水)

会場：斎宮歴史博物館

テーマ：「博物館と観光のちょうどいい関係」

三重県の事例発表：「伊賀の忍者観光と博物館」

発表者：幸田知春(伊賀流忍者博物館 学芸員)

岐阜県の事例発表：「奥の細道むすびの地記念館と観光」

発表者：上嶋康裕(奥の細道むすびの地記念館 学芸員)

愛知県の事例発表：「観光施設としての博物館」

発表者：小野木克允(博物館明治村 学芸・催事担当主任補佐)

7 災害発生時の相互協力事業

○新型コロナウイルス感染症に伴う休館情報等の情報調査及び共有

12月以降新型コロナウイルス感染症が急速な勢いで世界に広まっており、日本国内でも感染が多数報告されている状況をふまえ、加盟館園への県主催イベントの開催基準の周知を行うほか、臨時休館情報などの収集、加盟館園への情報共有を図った。

○災害対応の物資備蓄

昨年度に続き、災害対応物資の追加備蓄を実施した。

2) 岐阜県博物館交流企画

三重県総合博物館と岐阜県博物館において、相互の資料貸借、連携企画事業の実施、講座講師の相互派遣、情報の相互発信などの連携を行うことにより、相互の魅力アップをはかるとともに利用者にとって魅力的な博物館づくりを協働して推進する。

事業名	開催日	会場	人数	講師
「植物のかたち、その観察」	10月5日(土)	岐阜県博物館	105	当館職員 森田奈菜
「仏像が移動する？－安置場所が変わる事情－」	10月20日(日)	当館	57	守屋靖裕（岐阜県現代陶芸美術館学芸員）
計			162	

5.4.4 文化交流ゾーン

三重県では、三重県総合文化センター(三重県文化会館・三重県生涯学習センター・三重県男女共同参画センター)、三重県立図書館、三重県立美術館及び当館を含む地域を文化交流ゾーンと捉え、全体としての魅力を高めることで、より多くの人を訪れ、さまざまな文化に接し、感性を高めることができる場の形成をめざしている。

このため、文化交流ゾーン各館に斎宮歴史博物館を加えた県立文化施設では、各館長による文化交流ゾーン関係館長会議、また、その実務レベルの文化交流ゾーン関係施設課長等会議を毎月定期的で開催し、連携強化を図っている。会議では、各館の運営や事業に関する情報の交換・共有をはじめ、文化交流ゾーンの利用促進に向けた全体広報、社会見学の受入や企画展・講座・イベントなどかかわる連携について協議を行い、個々の連携事業の実施につなげている。また、特に、隣接する三重県総合文化センターとは事務連絡会議、駐車場会議を開催し、相互の円滑な日常的運営に努めている。

1) 三重県総合文化センター

- ・8月4日(日)に三重県総合文化センターで開催されたM祭のサテライト会場として、次の事業を連携して実施した。

わくわくワークショップ 「ぱくぱくさんちゃん」をつくろう！ 会場：学習交流スペース
参加人数：202名

ミュージアムパートナーフェスタ MieMu であそぼう！ 参加者人数：922名

- ・企画展の開催に合わせて、次の事業を連携して実施した。

6月15日(土) そうぶんバスツアー

「アルフレッド・ハウゼ・タンゴ・オーケストラ」

『『ボタニカル・デザイナー—植物のかたち、その観察—』ガイドツアー付！』

参加人数：40名

10月5日(土) 「仏像はどんな色？仏像の絵をかくゾウ？」

講師：絵本作家 はっとりひろき

「三重の仏像～白鳳仏から円空まで～」企画展展示会場にて

参加人数：18名

- ・総合文化センター、三重県立図書館と連携して「春のそうぶんに行こうよ！こいのぼりがいっぱい！！」の開催時に、関連企画として『『おさんぼマップ』でクイズにちょうせん！』を実施した。

参加人数：581名

2) 三重県立図書館

企画展の開催に合わせ、相互利用の促進を図るための取組を行った。主に、三重県立図書館から三重県総合博物館へ来館する人の流れを生み出すことを意図して、三重県立図書館内での企画展に関するPR展示、三重県総合博物館内での紙面による関連図書の紹介などを行った。

《実施内容》

- ・第23回企画展 「ボタニカル・デザイナー—植物のかたち、その観察—」 三重県立図書館内PR展示
- ・第24回企画展 開館5周年記念特別展「この男がジブリを支えた。近藤喜文展」
三重県立図書館内PR展示

- ・第25回企画展 開館5周年記念特別展「三重の仏像～白鳳仏から円空まで～」

三重県立図書館内PR展示

- ・第26回企画展「1960年代の熱気を未来につなぐ～出来事でふりかえる60年の歩み～」

三重県立図書館内PR展示

3) 三重県立美術館

三重県立美術館で開催された「没後200年記念 増山雪斎展」にあわせて、三重県立美術館と当館の学芸員それぞれの専門知識を生かした連携事業を企画し、以下の事業を実施した。これら事業の実施報告は、三重県立美術館ニュース「HILL WIND 45」及び、三重県総合博物館情報誌「みえんしす 27号」に記した。

《実施内容》

- 4月20日(土) 植物・昆虫標本による再現展示「増山雪斎《草花蜻蛉図》に描かれた生き物
～6月16日(日) はこれだ!!」 当館 学習交流スペース
- 5月26日(日) 当館学芸員によるギャラリートーク 三重県立美術館 参加人数：85名
当館職員 大島康宏
- 6月9日(日) 美術館学芸員×当館学芸員 トークセッション 当館 学習交流スペース
パネラー 三重県立美術館学芸員 村上 敬、当館職員 大島康宏
司会 当館職員 森田奈菜
参加人数：64名

4) 三重県生涯学習センター

三重県生涯学習センターに、学校向け文化体験プログラムに講師派遣で協力した。

《実施内容》

- 令和2年1月18日(土) 亀山市立加太小学校 全学年 30名
三重県総合博物館 MieMu 「三葉虫を調べよう！」 講師 当館館長 大野照文
- 令和2年2月21日(金) 南伊勢町立南勢小学校 5・6年生 66名
三重県総合博物館 MieMu 「三葉虫を調べよう！」 講師 当館館長 大野照文

5.4.5 国県市町など

1) 三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク(みえ歴史ネット)

当館は、県・市町・関係諸機関が連携し、地域の歴史的・文化的資産の保存と活用を図ることを目的とした「三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク」の事務局を担っている(県内26市町29機関と県3機関加入)。令和元年度は、2回の会議と講演会を実施する予定であったが、2回目は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

また、伊勢市で、所在確認調査を終えた区有文書の現況確認調査を実施した。

① 会議・講演会

第1回 三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク会議

日時：12月12日(木)14:00～16:00

会場：三重県総合博物館

主な内容：今年度・昨年度の取り組み

研修「熊本地震における博物館(市町)の取り組み事例報告」(当館職員 甲斐由香里)

第2回 三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク会議及び講習会

令和2年3月12日(木)に三重県総合博物館で会議・講習会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

② 所在確認調査

第1回 日時：令和2年2月12日(水)10時～16時 調査場所：朝熊町公民館、楠部町公民館

第2回 日時：令和2年2月25日(火)13時～16時 調査場所：朝熊町公民館

2) 公文書館関係

公文書館関係機関開催の会議・研修等へ参加した。

全国公文書館長会議

日時：6月6日(木)～7日(金) 於：ベルサール九段(東京都千代田区)

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協)近畿部会総会

日時：6月15日(土) 於：京都府立京都学・歴史館(京都市)

東海北陸地区公文書等保存利用事務協議会

日時：10月18日(金) 於：愛知県公文書館(名古屋市)

国立公文書館主催アーカイブズ研修Ⅱ

日時：令和2年1月15日(水)～17日(金) 於：国立公文書館(東京都千代田区)

3) 文化財保存についての地域協力

地域にある文化財の保存・活用への協力は当館の使命としており、文化財の保存や修復方法に関する問い合わせへの回答・助言を行うとともに、必要に応じて当館の保存科学担当者が環境調査や資料分析を行った。主な内容としては、収蔵施設等の施設設備や文化財防災に関する助言・講演、温度/湿度・化学物質・生物被害等についての測定と管理についての助言及び、X線透過撮影や蛍光X線による文化財の分析であり、令和元年度は次の対応を行った。

環境調査及び文化財調査の対応件数 8件

環境管理についての助言等の件数 16件

4) みえむ未来創成フォーラム 2019「三重の自然」

三重県は、南北に長く、水深2,000mの深海から標高1,700m近くの山岳までをも含んだ多様な自然環境をもっている。この自然を背景に、各地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。

三重県総合博物館(MieMu)では、こうした三重県の自然の中で課題を持ち探究している人々から、その実践を共有することで、三重県の持つ多様な自然環境に興味・関心をさらに高め、新しい価値を創造する機会としてフォーラムを開催した。

日時：10月27日(日)

会場：当館 レクチャールーム

協力：京都大学研究連携基盤「未来創成学国際研究ユニット」

参加者数：38人

主な内容：

【あいさつ】

座長：大野照文(当館 館長)

【第1部】特別講演

テーマ：海の小宇宙で温室をつくる庭師たち

講師：ヨハン・ホーエネガー(オーストリア・ウィーン大学 教授)

【第2部】実践報告

テーマ：三重の自然をカラダ・ココロで体感・実感し、素晴らしさ・大切さ・怖さを学び、知らせ、生きる力を育む～自然環境リテラシー学の展開

講師：坂本 竜彦(三重大学大学院生物資源学研究科 教授)

テーマ：木質バイオマス発電を通じて森林環境を考える

講師：小山内 靖(三重エネウッド株式会社 取締役所長)

テーマ：皇學館大学教育学部生物学研究室の出前授業

講師：澤 友美(皇學館大学大学院教育学専攻科)

テーマ：昆虫達と向きあって

講師：西川 充希(三重県立津高等学校)

テーマ：地域との協働による探究活動「松阪市CM制作」

講師：鷺見 咲良、塩野 真由(三重県立松阪高等学校)

【まとめ】

座長：大野照文

5) みえむ熊野市かがく・こうさくフェスタ

地域の人々が地域の自然と歴史・文化の魅力を学習する機会を提供して、地域に愛着を持つ「人づくり」に取り組んでおり、学校等の教育機関と連携して、子どもたちを対象とした参加体験型の学習プログラムを通じ、自然や科学に興味をもって学ぶ機会とした。

日時：令和2年2月23日(日・祝)

会場：熊野市文化交流センター 交流ホール・多目的ルーム

協力：熊野市教育委員会、御浜町教育委員会、紀宝町教育委員会、三重県立木本高等学校、
三重大学(自然環境リテラシー学+坂本研究室)、京都大学大学院理学研究科地球惑星科学輻合
部ダジック・チーム、京都大学総合博物館、和歌山県立紀伊熊野ジオパークセンター

参加者数：1,387人

主な内容：

【三重県総合博物館】

「骨パズル」「熊野酸性岩の文鎮作り」「水晶探しとアクセサリ作り」「海岸の砂を観察しよう」

【三重県立木本高等学校】

「タネの不思議」

【京都大学大学院理学研究科地球惑星科学輻合部ダジック・チーム】

「ダジック・アース」

【京都大学総合博物館(京都大学子ども博物館)】

「石が砂になるまで」「ぐるぐる、アンモナイト」

【和歌山県立紀伊熊野ジオパークセンター】

「岩石って何からできているの?」「三重県沿岸にはどんなサンゴが暮らしている?」

5.4.6 その他の諸機関・諸団体

機関・団体名	事業名	期間	会場	概要	人数
三重県みどり共生推進課	GW イベント「森の学校 in MieMu」	4月27日(土)～5月6日(月・振休)	交流活動室ほか	木や植物にふれて楽しむことのできるワークショップを開催	488
ウミガメネットワーク	環境学習会「地域と共におすすめのウミガメ保護活動」	5月12日(日)	レクチャールーム	徳島県美波町でのウミガメの保護の取り組みの歴史や活動のきっかけや歩み、現状の課題や今後の取り組み方針などを紹介	28
高田高等学校科学部	高田高校科学部サイエンス講座	7月23日(火)・24日(水)	実習室	高校生による子どもたちを対象とした科学実験講座	121
津市郵便局	絵手紙ワークショップ	7月27日(土)	学習交流スペース	郵便局職員による絵手紙ワークショップ	45
三重県戦略企画部戦略企画総務課	平和啓発の取組	8月8日(木)～9日(金)	レクチャールーム	県内と広島県の高中生による活動発表会	110
国立研究開発法人水産研究・教育機構 増養殖研究所	第10回 みえ水産フォーラム講演会「海のいきもの不思議」	8月25日(日)	レクチャールーム	小学生の親子を対象にした、専門家による講演	70
三重県環境学習情報センター	【環境学習指導者養成スキルアップ講座】「生態学シリーズ『動物の行動』①」	9月7日(土)	レクチャールーム	大学の生態学の講義内容を、高校程度で分かりやすく解説	21
三重県環境学習情報センター	【環境学習指導者養成スキルアップ講座】「生物多様性シリーズ『身近な動物 コウモリ』」	10月5日(土)	交流活動室および野外	コウモリの生態や保護についての講話と野外観察	25

三重県農業研究所	キミも今日から〇〇ハカセ！！～農業のことがまる MieMu～	10月12日(土)	実習室	三重県農業研究所・畜産研究所の仕事の分かりやすく紹介	台風のため中止
自然史系博物館館長懇談会	自然史系博物館館長懇談会	10月18日(金)	レクチャールーム	全国の自然史系博物館の館長が一堂に会して、課題を話し合う	18
日本赤十字社三重県支部	日本赤十字社展 ー赤十字 人道の軌跡ー	10月19日(土) ～11月4日(月)	交流展示室	日本赤十字社三重県支部創立130周年記念事業として展示を実施	12,803
紀伊半島野生動物研究会	ミニシンポジウム	11月2日(土)	レクチャールーム	紀伊半島の野生生物に関するシンポジウム	38
OTONAMIE	タイアップ企画 「OtonaMieMu」 トークセッション 「OTONAMIE【Spin on】 Sessions ～生き抜く切り替え～」	11月23日 (土・祝)	レクチャールーム	創造的な生き方を実践されている皆さんを通じて“みらい”を生きるヒントを模索するトークライブ	35
ウミガメネットワーク	ウミガメ報告会2019	11月24日(日)	実習室	アカウミガメの産卵や子ガメの孵化・脱出、ウミガメの死体漂着の状況、海岸清掃とウミガメロードの活動について、写真や標本を交えた報告及びウミガメの骨格標本作製の作業工程紹介、実演	21
三重県教育委員会、三重県指定文化財等所有者連絡協議会、三重県総合博物館	第37回三重県文化財講習会	11月27日(水)	レクチャールーム	県内の文化財に携わる団体等を対象とした講習会	96
三重県環境学習情報センター	【環境学習指導者養成スキルアップ講座】 「生態学シリーズ『動物の行動』②	11月30日(土)	レクチャールーム	大学の生態学の講義内容を、高校程度で分かりやすく解説	20
三重県教育委員会	みえ科学探究フォーラム	令和2年 2月15日(土)	レクチャールーム	小学生から高校生までの校種を超えた科学好きの輪を広げ、科学に対する興味関心を高めることを目的に開催	271

[みえ出前トーク]

依頼元	開催日	会場	概要	人数	担当
菰野町教育委員会	5月18日(土)	菰野町役場庁舎 4階会議室	よもやま歴史教室講演「菰野藩士の江戸参勤とくらし～龍崎守道日記から～」	92	当館職員 藤谷 彰
ときめき高虎会	11月24日(日)	津センターパ レス	ときめき高虎会 歴史講演会 「藤堂藩の家臣団形成と領国経営～藤堂高虎時代を中心に～」	35	当館職員 藤谷 彰
計				127	

5.5 他機関・団体への協力(職員の諸団体への協力活動)

他機関や団体から依頼を受けて各種委員や講師依頼等を受けて実施した講演や講座について学芸員ごとに講演、講座などの内容(テーマ)、依頼元、開催場所、実施日について記載した。

5.5.1 委員、講師等の依頼

大野照文(三重県総合博物館館長)

[賞]

京都市教育功労者

[委員等]

- 1 京都大学 名誉教授
- 2 三重県博物館協会 理事
- 3 三重県立津高等学校のスーパーサイエンスハイスクール研究開発に係る運営指導委員会 委員
- 4 三重県立松阪高等学校のスーパーサイエンスハイスクール研究開発に係る運営指導委員会 委員
- 5 四日市市文化振興審議会 委員
- 6 公益財団法人益富地学会館 理事
- 7 公益財団法人体質研究会 理事
- 8 公益財団法人日本博物館協会 参与
- 9 公益財団法人稲盛財団第1回「こども科学博」 企画監修者
- 10 京都府 社会教育委員
- 11 福井県立恐竜博物館運営協議会 委員
- 12 京都国立近代美術館新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会 委員
- 13 京都大学と京都府教育委員会の連携事業検討委員会 委員
- 14 大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学運営諮問会議 委員
- 15 京都市立堀川高等学校 学術顧問
- 16 京都市立日吉ヶ丘高等学校 学術顧問
- 17 兵庫県立尼崎小田高等学校に係るスーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会 委員
- 18 福井県立大学恐竜学研究所教員選考委員会 委員
- 19 福井県立大学古生物関連学部の設置に関する有識者会議 委員
- 20 宇治田原町教育委員会奥山田ハートフル化石広場運用検討委員会 委員
- 21 豊田市博物館展示・収蔵環境等設計委託設計者選定に関わるプロポーザル 委員
- 22 京都造形芸術大学 特別講師
- 23 福井県立大学 非常勤講師
- 24 南山大学人類学博物館評価委員会 委員
- 25 放送大学三重学習センター面接授業 講師
- 26 京都府総合教育センター平成31年度小中学校教員理科研修 講師

[講師等]

- 1 ザ・フレンドシップフォースオブ三重来館対応、三重県総合博物館(4月4日)
- 2 上野工業団二十日会 講演「地域と博物館の未来」講師、グリル・ストーク(4月19日)
- 3 奈良県立青翔中学校・高等学校講義「学びをより楽しくする方法」講師、三重県総合博物館(5月30日)
- 4 三重県退職校長会 講演『「教える」から「学ぶ」へのモードチェンジで人生が変わる』講師、三重県教育文化会館(6月1日)
- 5 放送大学面接授業「観察対話検証で鍛える科学探究力」講師、放送大学三重学習センター(6月1日～2日)
- 6 高雄市文山高級中學職員訪問対応、三重県総合博物館、美里一志層群化石露頭(6月8日)
- 7 朝日土木株式会社安全大会講話「ヒトの知恵の進化と安全」講師、霞ヶ浦会館(6月21日)
- 8 免許更新講習「コミュニケーション・スキルアップの3日間」講師、京都造形芸術大学(7月29日)
- 9 京都府教育委員会平成31年度小中学校教員理科研修講師、京都大学(7月30日～8月1日)
- 10 稲盛財団第1回子ども科学博「キツキ相談室」講師、みやこめっせ(8月3日)
- 11 京都大学京都大学総合博物館夏休み学習教室・体験 EXP2019 ワークショップ「大人のための学習教室」

- 体新書』講師，京都大学総合博物館（8月3日）
- 12 免許更新講習「コミュニケーション・スキルアップの3日間」講師，京都造形芸術大学(8月12日)
 - 13 ワークショップ「三重県総合博物館 大野館長による 古代生物『三葉虫』のおはなし」講師，みえこどもの城(8月17日)
 - 14 福井県立大学集中講義「地圏環境学」講師，福井県立大学(8月19日～8月22日)
 - 15 第10回みえ水産フォーラム講演会講演「海といきものつながり」講師，三重県総合博物館(8月25日)
 - 16 国際教育学会公開シンポジウム「学ぶ心と教育を支える環境」司会、京都大学百周年時計台記念館(8月31日)
 - 17 令和元年度ミュージアム・エデュケーション研修・利用者が能動的に学ぶプログラム体験「大人の学習教室『貝体新書』：多様性をキーワードに楽しむワークショップ」講師，東京都美術館(9月26日)
 - 18 令和元年度金沢大学資料館特別講演会講演「大学博物館と地域博物館での体験から考える博物館の役割」講師，金沢大学附属図書館 中央図書館(10月9日)
 - 19 京都大学国際シンポジウム「未来創成の展望」 Evolution and Mind Session 座長，京都大学百周年時計台記念館(10月25日)
 - 20 京都大学ジュニアキャンパス「未来目標に基づく現状革新に向けて」学術対話(その2)「知の越境による‘癒し’のイノベーション」座長，京都大学百周年時計台記念館(10月26日)
 - 21 ワークショップ「三葉虫を調べよう」講師，松阪市立大河内小学校(10月30日)
 - 22 ワークショップ「三葉虫を調べよう」講師，伊勢市立中島小学校(11月1日)
 - 23 令和元年度佐保会三重県支部総会・公開講演会 講演「博物館で学ぶ知恵の進化」講師，三重県総合博物館(11月16日)
 - 24 花山天文台 90 周年 音楽映像祭 トークセッションコーディネーター，京都大学百周年時計台記念館(11月24日)
 - 25 令和元年度ミュージアム・マネジメント研修プログラム体験・講義V「大人の学習教室『貝体新書』 答えはひとつではない」講師，東京国立博物館附属黒田記念館(11月29日)
 - 26 科学へジャンプイン東京 2019 ワークショップ「三葉虫」講師，筑波大学附属視覚特別支援学校(12月15日)
 - 27 ワークショップ「三葉虫を調べよう」講師，筑波大学附属視覚特別支援学校(12月16日)
 - 28 ワークショップ「三葉虫を調べよう」講師，城陽市立深谷小学校(12月18日)
 - 29 ワークショップ「三葉虫を調べよう」講師，亀山市立加太小学校(令和2年1月18日)
 - 30 ワークショップ「三葉虫を調べよう」講師，南伊勢町立南伊勢小学校(令和2年2月21日)

藤谷 彰（主幹・課長代理・学芸員）

[講師等]

- 1 よもやま歴史教室講演「菰野藩士の江戸参勤とくらし～龍崎守道日記から～」(5月18日)
- 2 歴史講演会「藤堂藩の家臣団形成と領国経営～藤堂高虎時代を中心に～」，ときめき高虎会（11月24日）

星野利幸（課長・学芸員）

[講師等]

- 1 歴史教養講座「古代の伊勢ブランド品 伊勢水銀」，朝日町歴史博物館（12月14日）

稲垣玲弥（嘱託学芸員）

[講師等]

- 1 亀山市教育委員会幼児教育研修会「身近な自然と子どもをつなぐ教育・保育について」，亀山市総合保健福祉センター（8月22日）

甲斐 由香里 (学芸員)

[講師等]

- 1 鯨船に使用される船飾り取扱い講座, 四日市市 (7月14日)
- 2 熊本地震における博物館(市町)の取り組み事例報告, 三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク会議 (12月12日)

北村淳一 (主査・学芸員)

[委員等]

- 1 木曾川水系イタセンパラ保護協議会委員 (国土交通省中部地方整備局)
- 2 木曾川イタセンパラ事業環境影響検討会委員 (国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所)
- 3 利根川下流における人と自然が調和する川づくり委員会委員 (国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所)
- 4 榎田川自然再生推進会議委員 (国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所)
- 5 国内希少野生動植物種の指定候補に係る優先度等の再検討に関する意見交換会(汽水・淡水魚類)委員(環境省)
- 6 農業農村整備事業環境アドバイザー協議会委員 (三重県農林水産部農業基盤整備課)
- 7 祓川環境保全全体会議座長
- 8 祓川環境美化推進協議会推進委員
- 9 希少野生動植物種保存推進員 (環境省)
- 10 自然史レガシー継承・発信実行委員会実行委員
- 11 亀山市ネコギギ保護指導委員 (亀山市教育委員会)

[講師等]

- 1 総合学習(水生生物調査), 明和町立下御糸小学校 (5月31日)
- 2 総合学習(水生生物調査), 松阪市立朝見小学校 (6月5日)
- 3 総合学習(水生生物調査), 明和町立斎宮小学校 (6月13日、6月21日)
- 4 多気郡教育研究会環境教育部会 (7月31日)
- 5 三重県教職員組合中勢高支部教育研究大会理科部会 (8月24日)
- 6 津市教育研究会環境部会 (10月2日)

森田奈菜 (主任・学芸員)

[委員等]

- 1 希少野生動植物種保存推進員 (環境省)

[講師等]

- 1 レッドヒルヒーサーの森 昆虫ガイドツアー(植物関連を担当)(2回実施), 株式会社赤塚植物園(6月1日)
- 2 三重県立美術館×三重県総合博物館トークセッション 司会, 三重県立美術館 (6月9日)
- 3 JSR親子自然観察会 in 築山緑地, JSR株式会社 (11月3日)

中川良平 (主査・学芸員)

[委員等]

- 1 日本洞窟学会事務局員

[講師等]

- 1 悠々セミナー「伊賀の3億年 ～地層の成り立ちと生き物の歴史～」, ハイトピア伊賀 (7月23日)

大西 到 (主幹・学芸員)

[講師等]

- 1 キャリア教育について, 津市立修成小学校 (9月25日)
- 2 ユニバーサルデザイン施設について, 津市立南が丘小学校 (9月26日)

大島康宏 (主査・学芸員)

[委員等]

- 1 日本鱗翅学会自然保護委員
- 2 日本鱗翅学会評議員
- 3 自然史レガシー継承・発信実行委員会実行委員
- 4 蜻蛉研究会編集委員
- 5 希少野生動植物種保存法推進員 (環境省)
- 6 NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク標本救済ネットワークスワーカー

[講師等]

- 1 博物館活動と標本, 三重大学 (5月21日、5月23日、5月24日)
- 2 三重県総合博物館昆虫担当学芸員によるギャラリートーク, 三重県立美術館 (5月26日)
- 3 レッドヒルヒーサーの森 昆虫ガイドツアー (2回実施), 株式会社赤塚植物園 (6月1日)
- 4 三重県立美術館×三重県総合博物館トークセッション パネラー, 三重県立美術館 (6月9日)
- 5 自然観察会・昆虫, 津市立片田小学校 (6月12日)
- 6 昆虫博士と夏の虫を探しに行こう! 夏の虫探し探検隊, 伊賀の里モクモク手作りファーム (8月8日、8月15日、8月22日)
- 7 アサギマダラってどんな虫? (2回実施), 鳥羽市立神島小・中学校 (10月2日)
- 8 JSR 親子自然観察会 in 築山緑地, JSR 株式会社 (11月3日)

太田光俊 (主査・学芸員)

[講師等]

- 1 藩校有造館の学びを支えたもの～蔵書と学習の実態～, ときめき高虎会 (7月7日)
- 2 読めると楽しい! 古文書入門 ～昔の人はどう学んだか, 令和元年度 第18期人材育成講座「地球塾」(鳥羽市教育委員会生涯学習課) (9月21日)
- 3 古文書解読講座, 鳥羽市立図書館 (10月18日、11月15日、12月27日、令和2年1月17日、令和2年2月21日)

佐野 明 (主査)

[委員等]

- 1 絶滅の恐れのある野生生物の選定・評価検討委員会委員 (環境省)
- 2 希少野生動植物種保存推進員 (環境省)
- 3 三重県生物多様性保全アドバイザー (三重県農林水産部)
- 4 日本哺乳類学会保護管理専門委員会委員 (日本哺乳類学会)
- 5 日本哺乳類学会和文誌編集委員 (日本哺乳類学会)

[講師等]

- 1 三重県環境学習情報センター「環境学習指導者養成 スキルアップ講座」, 総合博物館 (10月5日)

瀧川和也（課長・学芸員）

[委員等]

- 1 いなべ市文化財保護委員会委員
- 2 第66回桑名市民展審査員（美術工芸）
- 3 四日市市文化財保護審議会委員
- 4 鈴鹿市文化財調査会委員
- 5 亀山市文化財保護委員会委員
- 6 津市文化財保護委員会委員
- 7 伊賀市文化財保護委員会委員
- 8 名張市文化財調査会委員

[講師等]

- 1 三重の仏像 ～白鳳仏から円空まで～，斎宮歴史博物館友の会（4月20日）
- 2 三重の仏像 ～白鳳仏から円空まで～，河芸町郷土会（6月9日）
- 3 伊勢の仏師定栄と鳥羽に残るその子孫の作品について，鳥羽市校長会（8月2日）
- 4 熊野勸心十界曼荼羅の役割とその芸術性～三重・熊野とその広がり，熊野市民大学（9月8日）
- 5 奈良の大仏 ー東大寺・法隆寺を行くー，津市立安濃小学校（10月10日）
- 6 三重の曼荼羅研究はここから始まった，津市南河路自治会（11月16日）
- 7 仏像をみる人のために ー仏像のかたちと技法ー，いなべ市教育委員会（11月23日）
- 8 熊野観心十界曼荼羅について～その役割と広がり～，伊賀市西柘植市民センター（令和2年1月23日）
- 9 三重の仏像 ー平安・鎌倉時代を中心にー，第49回三重大学歴史研究会大会（令和2年2月1日）

田村香里（主査・学芸員）

[講師等]

- 1 みえむプロジェクト実行委員会 出前講座「動物のはく製をさわろう」，総合博物館（5月17日）
- 2 みえむプロジェクト実行委員会 出前講座「動物をさわって調べよう」，県立盲学校（6月26日）

津村善博（嘱託学芸員）

[委員等]

- 1 三重県環境影響評価委員（三重県環境生活部）
- 2 鈴鹿亀山道路環境調査アドバイザー（三重県県土整備部）（6月5日～令和3年3月31日）
- 3 津市文化財保護審議会委員
- 4 松阪市文化財保護審議会委員

[講師等]

- 1 出前講座「津市一志町付近の地質や地盤のようすと地震」，津市一志農村環境改善センター（7月2日）
- 2 松阪市民大学「見どころいっぱい松阪の地形。地質」，松阪公民館（10月26日）
- 3 出前講座「一身田小学校付近の土地のようす」，一身田小学校（11月6日）
- 4 出前講座「八郷西小学校付近の土地のようす」，八郷西小学校（12月13日）

6 企業との連携

6.1 事業の趣旨・目的

博物館活動の基本的な活動の視点の一つである多様な主体との連携を進めるにあたり、三重県の経済・産業・雇用・文化などの面で大きな役割を担っている企業・団体との交流と連携に取り組んでいる。金銭的な支援だけでなく、新たな創造と発信の機会とするために、講演会や各種ワークショップ、パネル展示等を共催して実施している。

- ・寄附 企画展示の充実や、展示・収蔵資料の保存や修繕など、博物館の活動全般に対する金銭的な支援
- ・企業パートナーシップ 一定額を会費として支払うことにより、博物館の利用に関する各種の特典を受けられる。
- ・コーポレーション・デー 任意の日在一定額の協賛をすることで、その日の来館者全員の基本展示観覧料が無料になり、合わせて企業PRなどができる。

6.2 パートナー企業数 ※重複あり

- ・寄附支援企業 84社
- ・企業パートナーシップ会員 162社

6.3 連携事業

1) コーポレーション・デー

企業名・団体名	実施日	主なイベント
一般財団法人三重県環境保全事業団	9月7日(土)	事業団の事業内容パネル展示、ゴミの分別を学ぼう、親子で楽しめる工作コーナー等
国土交通省中部運輸局三重運輸支局、一般社団法人三重県自動車会議所、一般社団法人日本自動車連盟三重支部 他	9月28日(土)	各種安全運転・シミュレーター体験、パトカー、白バイと記念撮影、お絵かきバス等
一般社団法人三重県トラック協会青年部会	11月10日(日)	大型トラック乗車体験、交通安全シミュレーター、騎士竜戦隊リュウソウジャーショー等
株式会社百五銀行	令和2年1月25日(土)	金融・通貨の昔と今、お金と銀行のことわかるかな? ○×クイズ、ストラックアウト等

※コーポレーション・デー:多くの方に博物館に親しんでいただくきっかけとして、企業等の協賛により、特定の日の基本展示観覧料を無料化。協賛企業等は、チラシの配布など自らの広報活動を実施できる制度。

2) 展示・イベント

企業・団体名	展示・イベント名	実施期間	主なイベント内容
株式会社赤塚植物園	第23回企画展 ボタニカル・デザイン	4月20日(土)～ 6月16日(日)	植物展示
公益社団法人三重県バス協会	MieMuの日5周年 お絵かきバス	4月21日(日)	お絵かきバス
株式会社赤塚植物園	レッドヒルヒーターの森 昆虫ガイドツアー	6月1日(土)	昆虫ガイドツアー
中部電力株式会社三重支店	夏休み親子電気実験教室	7月30日(火)	発電の仕組みとその実験、工作
株式会社伊賀の里 モクモク手づくりファーム	昆虫観察会	8月8日(木)	昆虫観察
日本キャボットマイクロエレクトロニクス株式会社	科学教室	8月20日(火)	化石レプリカ作り
東邦ガス株式会社	東邦ガスの出前受業 地球環境と天然ガス	8月21日(水)	超低温の世界を体験

公益社団法人三重県バス協会	バスの絵入選作品の展示と表彰式	9月28日(土)	バスの絵入選作品の展示と表彰式
JSR株式会社	JSR 親子自然観察会 in 築山緑地	11月3日(日・祝)	工場見学と自然観察会
旭化成株式会社 井村屋グループ株式会社 有限会社深緑茶房 みえの米ブランド推進会議	かつおぶしを削って料理をつくろう	令和2年 1月26日(日)	三重のお米と伊勢茶を使っておにぎりづくりを体験

3) 講話

企業・団体名	講話日	講話内容(テーマ)
上野工業団二十日会	4月19日(金)	当館館長 大野照文「地域と博物館の未来」
日本クレーン協会三重支部	5月17日(金)	当館職員 太田光俊「お伊勢参りの今昔」
朝日土木株式会社安全大会	6月21日(金)	当館館長 大野照文「ヒトの知恵の進化と安全」
独立行政法人水資源機構 木津川ダム総合管理所	11月26日(火)	当館職員 佐野 明「三重の森林が危ない！ 立ち枯れる森の木々」

4) ショップ関係

	商品
MieMu オリジナル商品	MieMu あられ・キャンディー、関の戸、さんちゃんタオル、クッキー、昆虫標本キット、花炭等
企画展商品	ボタニカル展：ハーバリウムキーホルダー・ボールペン、ワックスチャーム、ガーゼハンカチ、リーフメモ・ふせん、フラワーメモ・ふせん、メガネケース、ポーチ、マスキングテープ、花材等 三重の仏像展：各種お香、御朱印帳、仏像はんこ・クリアファイル、なむあみクリアファイル、一筆せん、クリスタルチャーム、NEO 仏像文具等 1960年代展：ブロックメモ、ポチ袋、マスキングテープ、メモパッド、ボールペン、ステッカー、缶バッジ、リングノート、ドキュメントホルダー等

7 利用者との協創

7.1 事業の趣旨・目的

三重県総合博物館の基本的な活動の視点である「県民・利用者との協創」に基づく取組として、旧県立博物館時代の「サポートスタッフ」を発展的に継承し、開館とともに活動を開始した「三重県総合博物館ミュージアムパートナー」の活動への支援、平成27年度から展開する「ボランティア」活動を継続して行った。

7.2 三重県総合博物館ミュージアムパートナー

旧県立博物館時代の平成18年度に結成され新博物館整備活動にもかかわった「サポートスタッフ」を母体に、博物館とともに活動し、支える外部団体として「ミュージアムパートナー」が発足した。当館学芸員が活動を支援し、独自の講座・観察会を実施し、三重の自然と歴史・文化について調査・観察、情報発信する活動を行っている。また、サポートスタッフ時代から様々な分野で活動していたグループ活動を引き継ぎ、5グループが活動を行っている。

1) 会員数 171組 311名(令和2年3月31日現在)

2) 主な活動内容

- ・会員を対象とする講座、フィールドワーク等の事業を実施
- ・会報を発行
- ・博物館活動への参加・協力、博物館との連携によるワークショップ等の実施
- ・仲間とともに興味・関心を深めることができるグループ活動(歴史、民俗、染織、おもしろ博物館、ユニバーサルミュージアムの5グループ)
- ・総会(年1回)、事務局会議(月1回)、役員会(会長が招集)、グループ代表者会議を開催

3) 活動内容

企画展内覧会・展示解説会

行事名	開催日	会場	人数	担当職員
第23回企画展「ボタニカル・デザインー植物のかたち、その観察ー」	4月19日(金)	企画展示室・交流展示室・レクチャールーム	26	当館職員 森田奈菜
第24回企画展 開館5周年記念特別展「この男がジブリを支えた。近藤喜文展」	7月6日(土)		50	当館職員 中村千恵
第25回企画展 開館5周年記念特別展「三重の仏像～白鳳仏から円空まで～」	10月4日(金)		46	当館職員 瀧川和也
第26回企画展「1960年代の熱気を未来につなぐ～出来事でふりかえる60年の歩み～」	12月20日(金)		26	当館職員 大西 到
計			148	

学芸員と行く地域観察会

行事名	開催日	会場	人数	講師
名張市赤目溪谷の自然と延寿院	7月15日(月・祝)	名張市内	16	当館職員 瀧川和也・田村香里・佐野 明
答志島の自然観察	10月20日(日)	鳥羽市内	20	当館職員 大島康宏・森田奈菜・佐野 明
神島の自然と薬師堂の文化財	令和2年 1月13日(月・祝)	鳥羽市内	14	当館職員 瀧川和也・佐野 明
計			50	

鉱物さがし、化石をたずねて

行事名	開催日	会場	人数	講師
菅島でいろいろな鉱物を探そう	6月22日(土)	鳥羽市内	19	当館職員 中川良平・津村善博
伊賀の化石	令和2年 1月19日(日)	伊賀市内	16	当館職員 中川良平・津村善博
計			35	

学芸員ミニ講座

行事名	開催日	会場	人数	講師
小さな化石の探し方	5月12日(日)	実習室・レクチャールーム	15	当館職員 中川良平
動く大地をみるー中央構造線のはなしー	9月8日(日)		38	当館職員 津村善博
タナゴ亜科魚類の生態	12月8日(日)		18	当館職員 北村淳一
仏像の見方～かたちと技法～	令和2年 2月9日(日)		46	当館職員 瀧川和也
計			117	

バックヤードツアー

行事名	開催日	会場	人数	担当職員
バックヤードツアー	8月10日(土)	当館バックヤード	7	当館職員 中村千恵・瀧川和也
	10月26日(土)	当館バックヤード	6	当館職員 中村千恵・甲斐由香里
計			13	

ナイトミュージアム ※台風接近のため、10月12日(土)の予定を順延して開催

行事名	開催日	会場	人数	担当職員
ナイトミュージアム	10月14日(月・祝)	当館館内	15	当館職員 中村千恵

博物館めぐり

行事名	開催日	会場	人数	担当職員
京都大学総合博物館	9月14日(土)	京都市内	21	当館館長 大野照文、 当館職員 大西 到・ 田村香里
神宮徴古館・農業館・古市参宮街道資料館	令和2年 2月23日(日・祝)	伊勢市内	12	当館職員 宇河雅之
計			33	

初心者のための博物館資料取扱講座

行事名	開催日	会場	人数	講師
自然系 哺乳類・鳥類標本	6月9日(日)	実習室	10	当館職員 稲垣玲弥
人文系	11月24日(日)	資料閲覧室	5	当館職員 宇河雅之
計			15	

こだわり講座

行事名	開催日	会場	人数	講師
参勤交代(津～江戸)	5月19日(日)	交流活動室	17	藤原 主
トドとアザラシとアニサキスのはなし	8月11日(日)		26	高橋千佳
アマトーク～三重県民がみた隠岐の秘境・海士の魅力～	令和2年 1月26日(日)		23	水谷憲二
計			66	

まちあるき歴史ウォーク

行事名	開催日	会場	人数	担当職員
奈良街道を歩く 津の巻	11月17日(日)	津市内	14	当館職員 藤谷 彰
伊賀街道を歩く 久居の巻	令和2年 3月15日(日)	津市内	中止	当館職員 藤谷 彰
計			14	

ミュージアムパートナーフェスタ “MieMu であそぼう!”

行事名	開催日	会場	人数	備考
オープン展示 ミュージアムパートナー紹介, ワードラリー	8月4日(日)	当館2・3階のオープンスペース 実習室 交流活動室	700	当日入館者数 3,865人
ワークショップ おもしろ博物館グループ「ぶんぶんゴマをつくろう」※第1ギャラリー			364	
展示 歴史グループ「昔の地震」			176	
ワークショップ 染織グループ「ダンボール織」			28	
展示 民俗グループ「おやつさまざま」			60	
展示・体験 ユニバーサルミュージアムグループ「さわって石をみわけよう」			—	
展示 地球探検隊			—	
展示・体験 ホネ探「骨格標本とホネパズル体験コーナー」			294	
展示 総合博物館「みんなでつくろう! ミュージアムフィールドの実物昆虫図鑑」			—	
個人展示			—	
計			1,622	

ホネ探

行事名	開催日	会場	人数	備考・担当職員
骨格標本とホネパネル体験	8月18日(日)	レクチャールーム	224	当館職員 田村香里・稲垣玲弥

総会・会議等

行事名	開催日	会場	人数	備考
総会	4月14日(日)	レクチャールーム	25	
事務局会議	毎月第2日曜日	交流活動室など	120	原則毎月第2日曜日に実施
定期発送作業	毎月第4木曜日		60	
グループ代表者会議	適宜開催		—	事務局会議と同時開催
ミュージアムパートナーフェスタ“MieMuであそぼう”実行委員会	適宜開催		—	事務局会議と同時開催
計			205	

グループ活動

<歴史グループ>

毎月第1土曜日に輪読会を開催した。江戸時代の版本『北畠物語』をテキストとした輪読を行い、各自の古文書読解能力の向上をはかるとともに、各自の興味関心に基づく研究報告を行った。毎週木曜日は文書整理の会を開催した。ここでは、館蔵資料を整理しつつ、古文書読解能力及び目録作成能力の向上を図るように活動した。

<民俗グループ>

毎月第1土曜日に例会を開くほか、月3回ほど活動している。9年に及ぶ三重県内の伊勢講聞き取り調査の成果「三重・伊勢講のいま 一民俗グループによる調査報告」の編集作業が概ね終了し、令和2年内の刊行を目指す。また、平成30年度からは三重県内のお菓子調査にも取り組んでいる。さまざまな行事に振る舞われるお菓子、そこにしかないお菓子、今はもう見られなくなったお菓子など、できる限り多くのお菓子を探し、聞き取り調査をして、各地のお菓子を味わいながら議論した。

<染織グループ>

かつて伊勢木綿、松阪木綿と呼ばれ全国的に有名であった三重県の織物や藍染めなどについて、多くの方に知っていただくことをめざしている。博物館の里山で藍などを栽培し、それをういた染色に力を入れている。また、「染める」や「織る」という現代では馴染みの薄い作業を身近に感じてもらうため、体験講座を開催している。メンバー各々が自分の研究や興味を深め、グループ内で発表しあうことや、染めの実験もしている。このほか、藍染めなどのコースターやアクセサリーをミュージアムショップで販売する取り組みを始めた。

<おもしろ博物館グループ>

博物館で子どもから大人まで楽しむことができる体験学習やモノづくり教室の企画や運営を行うグループである。令和元年度の主な活動は、毎月第3日曜日午前中に活動打合せを行い、7月・3月の第3日曜日に当館事業「わくわくワークショップ」において簡単な工作教室等を実施した。その他にも、8月には県総合文化センターで行われるM祭!で、開催中の近藤喜文展に合わせてアニメーションの原理を取り入れた「ぶんぶんごまをつくろう!」を実施した。12月には恒例となっている当館事業「正月かざりづくり」の講師を務めた。

<ユニバーサルミュージアムグループ>

ワークショップや実践的な活動を通じて、障がいをお持ちの方とともに博物館を楽しむための方法について考えている。令和元年度は、昨年度の取組によって完成させた、バリアフリーの施設設備を紹介するパンフレットを実際に使用し、実態に合わせた修正を行った。これは公共施設につい

て学ぶ小学生が来館した際や、夏休みの自由研究でバリアフリーをテーマにする小・中学生への配付で好評を得ている。

また、館内においては、基本展示室や企画展の触れる展示に点字を施すなどの活動を行った。

館外に対しては、目の不自由な方に博物館の魅力を伝える取組も継続的に行い、博物館が実施している盲学校での移動展示に参加しワークショップを開催した。

※この他にも、グループ活動の一環として博物館資料の整理等(歴史グループによる古文書整理、民俗グループによる民俗資料整理など)に取り組んでいる。

学芸員の調査研究補助

<みんなであつこう！ミュージアムフィールドの実物昆虫図鑑>

ミュージアムフィールドの昆虫相解明を目指し、学芸員の調査研究の補助をしている。令和元年度の参加者は31名。月に2回の調査では、自然環境ごとに設定した10のルート歩きながら、確認したチョウの種、その個体数を記録するチョウのルートセンサスを実施している。チョウの他にも確認した昆虫を記録し、採集した個体は標本にして博物館へ収蔵している。この調査の成果は、当館の展示室「三重の実物図鑑」内に展示しているほか、参加者はこの調査に関連したテーマで学会等において発表している。担当学芸員の発表は2.2研究成果一覧を参照。

担当学芸員：大島康宏(昆虫担当)・森田奈菜(植物担当)

<地球探検隊>

県内の化石産地・鉱物産地等の現状を確認することを目的として、ミュージアムパートナーから募集したメンバーと月1回程度の活動を行った。

担当学芸員：中川良平・津村善博(地学担当)

<ホネ探>

当館学芸員とともに、哺乳類や鳥類を中心とした脊椎動物の剥製標本や骨格標本を作製している。令和元年度は月に1回の活動日とは別に鳥類の日を設け、月に2回活動を行った。11月に紀北町に死亡漂着したザトウクジラを骨格標本にするため、現地にて解剖と骨格回収作業を5回(12月8日、令和2年1月18日、2月11日、3月6日、3月22日)実施し、ホネ探参加者のべ33名のほか、博物館職員や三重大学、県尾鷲建設事務所など、のべ計61名が活動に参加した(令和2年3月31日時点)。その他、同定会(8月18日)にあわせ、同会場内にて骨格標本の展示と骨パズル(参加者224名)などのイベントを実施した。

担当学芸員：田村香里(脊椎動物担当)

7.3 ボランティア

1) ボランティアの概要

「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざし、県民のみなさんとの「協創」として、平成26年末に「みえむボランティア」を募集し、博物館のスタッフとして職員とともに博物館活動を支える活動を行っている。令和元年度は活動内容を再検討し、9月より以下の4つのグループに分かれて活動した。(各グループの人数は令和2年3月31日現在)

来館者対応ボランティア 8名

ミュージアムフィールドボランティア 4名

図書資料整理ボランティア 11名

資料整理ボランティア(非公募)9名

・5月25日(土) みえむボランティア交流会・意見交換会 参加者 6名

・9月22日(日) ボランティア研修

・I博物館でのボランティア交流とは 参加者 6名

- ・ II分野別の活動について 参加者 13名
- ・ ボランティア交流会 参加者 13名
- ・ 令和2年3月28日(土) みえむボランティア交流会 中止

2) 各グループの活動状況

<来館者対応ボランティア>

来館者の案内(展示室・飲食場所・トイレ・ロッカー・交通手段など)
 ミエゾウ・オオサンショウウオのさんちゃん・三重の実物図鑑などの案内
 学校見学の際の対応補助、ワークショップ・講座などの補助
 職員向け英会話指導

<ミュージアムフィールドボランティア>

ミュージアムフィールドの除草作業や植栽管理作業を月1回の頻度で実施している。今年度はおもに、鳥居古墳とその周辺の整備作業を行なった。

<図書資料整理ボランティア>

図書の装備、データ入力、配架を月2回の頻度で実施した。

<資料整理ボランティア>

昆虫標本と植物標本、および、貝類標本の整理作業を計31回実施した。
 標本作成・整理作業には一定程度のスキルが必要なため、非公募での活動とした。

8 広報

8.1 新聞・テレビ・ラジオ

1) 新聞 掲載実績 129件

各企画展の展示内容に関する記事のほか、コーポレーション・デーなどのイベントが掲載された。

2) テレビ 報道実績 74件

3) ラジオ 報道実績 11件

8.2 雑誌

1) 雑誌・フリーペーパー

掲載実績は、雑誌が10件、フリーペーパーが65件の計75件であった。

津市近郊の情報を扱うフリーペーパーでは、定期的に情報を掲載していただける関係ができており、今後も継続していく。また読者プレゼントとして、各企画展の招待券を提供する場合もあった。

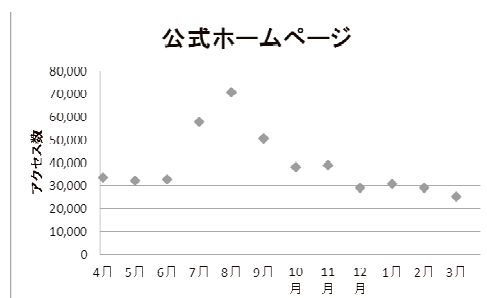
2) 社内報等その他の発行物

社内報や業界誌など、その他の発行物への掲載実績は、9件であった。

8.3 ホームページ

1) 月間アクセス数

月	アクセス数 (単位:回)	月	アクセス数 (単位:回)
4月	33,726	10月	38,023
5月	32,087	11月	38,907
6月	32,832	12月	29,123
7月	57,769	1月	30,655
8月	70,683	2月	29,033
9月	50,680	3月	25,183

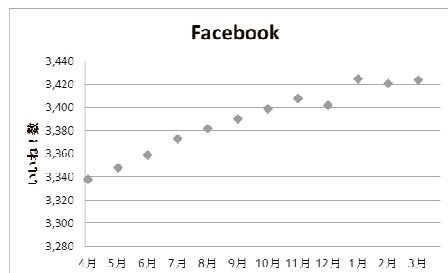


8.4 Facebook・Twitter

当館では、博物館を身近に感じより親しんでいただくことを目的として、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)のうちFacebookとTwitterの運用を行っている。

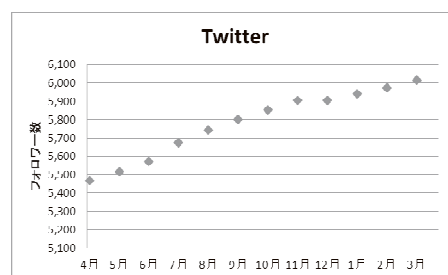
1)Facebook 月間の「いいね！」数

月	いいね！数	月	いいね！数
4月	3,338	10月	3,399
5月	3,348	11月	3,408
6月	3,359	12月	3,402
7月	3,373	1月	3,425
8月	3,382	2月	3,421
9月	3,390	3月	3,424



2)Twitter 月間のフォロワー数

月	フォロワー数	月	フォロワー数
4月	5,469	10月	5,855
5月	5,515	11月	5,907
6月	5,573	12月	5,906
7月	5,674	1月	5,942
8月	5,744	2月	5,974
9月	5,803	3月	6,017



8.5 その他

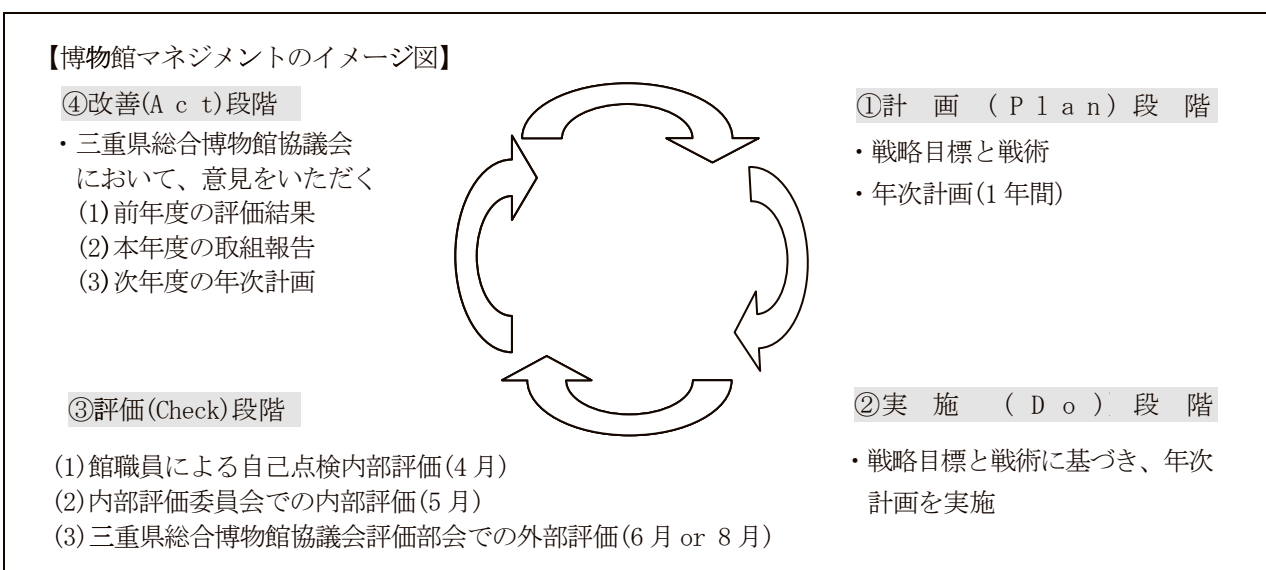
ウェブマガジンや観光三重のウェブサイトとの連携により、企画展の展示レポートなどが掲載された。また、JAF(一般社団法人日本自動車連盟)の機関誌にも案内や読者プレゼントを提供した。

9 博物館の評価

9.1 評価のしくみ

三重県総合博物館の活動を県民・利用者のみなさんと、「ともに考え、活動し、成長させていく」ため、最も重要な基盤となるのが「博物館マネジメント」である。

三重県総合博物館では、「博物館マネジメント」として、毎年の活動と運営を「計画(Plan)―実施(Do)―評価(Check)―改善(Act)」のサイクルとして展開していく評価と改善のしくみを構築している。



1)計画段階

- ① 短期計画

「三重県総合博物館協議会」や「アンケート」などで意見を求めながら、県の計画期間に合わせて短期計画の戦略目標と戦術を作成、公表する。

短期計画は、重点的に取り組む戦略目標と、それら戦略目標達成のために具体的に取り組む戦術を決め、各戦略・戦術の指標及び目標値を定める。

② 年次計画

短期計画のプロセスと同様に、1年間の事業計画を作成し、概要は、「三重県総合博物館年報」に掲載して公表する。

2) 実施段階

実施にあたっては、来館者アンケートを分析し、利用者による評価を集約する。

利用者数、満足度など、博物館の運営状況等を表す数値データなども集計する。

3) 評価段階

実施段階で得たアンケート等のデータを活用し、段階的に①自己点検評価、②内部評価、③外部評価を組み合わせた総合評価を行う。

①自己点検評価：前年度の戦略と戦術に基づいて実施された活動と運営について、各活動と運営を担当した職員が成果指標のデータ分析を行い、活動と運営の成果について事実確認とともに、評価と改善点を含んだ総括を行う(4月)。

②内部評価：館職員による内部評価委員会を設置し、自己点検評価者とともに、各事業について事実確認とともに、評価と改善点を含んだ総括を行う(5月)。

③外部評価：内部評価委員会でまとめた事実確認と評価、改善点を元に、外部評価として設置した三重県総合博物館協議会の評価部会が、前年度の活動と運営の成果について評価をし、改善点を付す(6月 or 8月)。

また、事業を日常的に確認し改善するために、内部において毎日朝夕2回の「日常点検報告会」と定期および臨時的戦略会議をもつ。定期戦略会議としては、月2回課長代理以上の職員による「課長会議」と学芸員による「学芸会議」を開催している。また、四半期ごとに短期計画の進捗状況を確認する「全体会議」を開催している。

4) 改善段階

前年度の活動と運営に対する評価結果と本年度の取組について、来館者アンケートと三重県総合博物館協議会などでいただいた意見を参考に、次年度の年次計画や次期短期計画の戦略目標や戦術を構築させていく。

9.2 令和元年度の戦略目標と戦術の評価結果

令和元年度の評価結果は、次の日程で実施した。

館職員の自己点検内部評価は、令和2年4月中に各戦略と戦術の担当者が評価シートをまとめた。内部評価委員会は令和2年5月14日(木)、5月21日(木)、5月27日(水)、6月9日(火)、6月12日(金)に実施し、外部評価は令和2年8月12日(水)に三重県総合博物館協議会評価部会を実施した。評価結果の概要は以下のとおりであり、各戦略目標と戦術の詳細な評価結果については、巻末の事業成果一覧に掲載した。

①内部評価結果(概要)

- ・ 展示観覧者数は、基本展示 78,744 人(目標値：65,000 人)、企画展示は 113,137 人(目標値：95,000 人)、合計 191,881 人であり、目標値 160,000 人に対して 120%の達成率となり、目標値を大幅に上回った。観覧者数が目標値の 148.6%を記録した「近藤喜文」展や 99.4%を記録した「三重の仏像」展では、初めて来館したとアンケートに回答した人が 54.7%(近藤喜文展)、42.9%(仏像展)とほぼ半数を占めた。県外からの観覧者を含む初めての観覧者が多かったものの、リピーター率はそれぞれ、45.3%(近藤喜

文展)、57.0%(仏像展)を維持することができた。

- ・ 展示観覧者数が開館以来の最大数になったことは、メディアへの情報提供や頻繁なSNSでの発信の効果が高かったと言える。特に、近藤喜文展はテレビ会社、仏像展ではゲーム会社や寺院等とのタイアップイベントも開催したことから、多面的なアプローチにより、集客につながったと考えられる。
- ・ 「ともに考え、活動し、成長する博物館」を達成するために、企業連携事業の推進、ミュージアムパートナー活動の深化、ボランティア活動を活性化させるよう運営してきた。参画企業からのMieMuに対する信頼感が醸成され、連携事業が増加傾向にあるが、館全体の業務量を勘案すると適正規模で実施することができた。ミュージアムパートナーは、参加型調査の活動や館において成果発表・公開することで、外部に魅力を伝えることができ、登録者数の増加につながった。ボランティア活動は、上半期に登録者との対話を持ち、活動内容を再検討し、下半期から82回(前年度92回)の活動を行うことができた。年度毎に結果と課題を検討し、対話とともに改善活動をしていく必要がある。
- ・ 資料保存は、定期的に収蔵庫内の清掃・点検を実施し、文化財害虫や保存環境に起因する資料の毀損もなかった。また、館内だけでなく、企画展(仏像展)で借用した資料が県内各地域の大切な文化財であるという認識を地域に伝えることができた。
- ・ 開館以来の課題であった調査研究等の充実については、研究の推進体制や時間配分などの環境整備に取り組んだ結果、学芸ゼミの定期的な開催や参加型調査での参加者確保などが実現できた。学芸員は資料の研究・調査だけでなく、多くの業務を抱えているため、研究に取り組むには、学芸員自身の研究、調査、公開資料準備等の業務マネジメントを行い、円滑に進めることが必要である。引き続き、学芸員の調査・研究を深め、研究内容を共有化し、総合博物館の強みを活かした取組を進めていきたい。
- ・ 学校利用では、市町で実施されている校長会・園長会に出向き(14回)、学校等による博物館の利用方法についてPRしたが、利用学校数は平成30年度(197校)より13%下回って171校であった。利用した学校の満足度は高いが、利用数の減少に関する分析と具体的な対策を検討する必要がある。一方で、学校が主体的に博物館に利用を求めるアウトリーチ活動は、少しずつ増加(H29年度12校→H30年度17校→H31年度21校)していることから、学校での学習活動を理解したうえで、提案することも必要である。
- ・ 平成29年度～令和元年度のMieMuの活動と運営では、当評価制度を活用した効率的な運営を目指し、業務分担の明確化・円滑化に向け努力してきた。開館時間の短縮、レファレンスカウンター業務の廃止、企画展開催回数の削減と準備態勢の見直し等で、調査研究や資料整理の時間を確保して基幹業務の充実に努めることができた。その一方で、資料の登録公開業務の取組が進まなかった。次期4年間の計画で、成果をより運営に活かし、課題が改善できるよう進めていきたい。

②外部評価結果(概要)

【評価結果】

- ・ 展覧会事業では、基本展示(65,000→78,744人)においても、企画展示(95,000→113,137人)においても、目標を大きく上回り、開館初年度に次いで多くの観覧者を獲得できたことは大いに評価できる。また、アンケートによれば、「近藤喜文」展(総観覧者数74,296人)では55%が、「三重の仏像」展(同19,699人)では43%が新規来館者であり、こうした新規来館者を基本展示に誘導できたことから、基本展示の新規来館者割合も、昨年度の44%から今年度は52%まで増加した。様々な利用者を対象とした魅力ある企画展示が、基本展示の観覧者獲得にもたいへん有効であることが明らかとなった。反面、子ども展示室の利用に関しては、年度後半のコロナ禍の影響を割りいても目標値に届かなかったこと(75,000→53,349人)は、要因分析とともに、同室のあるべき観覧者数(目標値)の再考が求められる。
- ・ 開館以来、注力してきた広報活動については、メディアへの働きかけや、今日的な手法であるSNSを使った活動を積極的に展開することで、目標とした結果(アウトプット)を達成できた。しかし、参加メディアの数が減少傾向(23→26→20社)にあることや、県民の認知度(初年度67%)が毎年上昇し昨年

度は80%にまで達したが、今年度は初めて減少(78%)に転じたことから、広報活動における新たな展開を考える時期が来ていると言える。

- ・ 博物館活動への県民や利用者の参画について、過去2年間、同じ目標値(280人)を掲げながら達成できなかったミュージアムパートナー(311人)や、前年度は激減(39→21人)したボランティア登録者(32人)において、いずれも目標を達成できたことは評価できる。年々、盛んになるコーポレーションデーをはじめとした企業連携と同様、今後の安定した事業展開を期待する。
- ・ 収蔵資料や地域の文化財等の保存・保全に当って、館内では、職員や委託事業者による日常的な清掃や管理の結果、虫害をいっさい出すことなく収蔵できた。また、地域の文化財の保全については、企画展示の開催を契機に保存状態に関する指導助言や、先端技術を使った新たな知見を得ることで貢献できた。反面、館での相談活動について、目標値の変更(60→100件)や担当者による集計方法の不一致があったにせよ、実績は41件に留まり課題が残った。
- ・ 研究活動については、昨年度辺りからようやく改善の兆しが見え、学芸ゼミでは昨年度に続き目標の12件を達成でき、参加型調査でも目標を上回る参加者(60人→103人)を獲得できた。また、データベースについても目標としたアクセス件数を上回る(5,000→5,335回)とともに、昨年度は57件にとどまった新規登録件数が1,215件と改善が図られたことは評価できる。
- ・ 利用者の学習支援については、昨年度からレファレンスカウンターへの職員の常駐が見直されたが、昨年度(384件)と同等(364件)の相談に対応できたことは、学習支援とともに、県民サービスの面からも評価できる。一方、学校利用については、盲学校での移動展示(133名)や小中学校向け「科学体験講座」(271名)など工夫を凝らした活動を展開しているものの、目標である利用校数は漸減傾向(226→200→171校)で未達成である。まずは要因を探り、効果的な方策を練ることが求められる。
- ・ この間、開館時間の見直し、企画展示等の本数の削減、レファレンスカウンターでの常駐の見直しなどを通じて、ようやく調査研究の時間が確保でき、軌道に乗り始めた。また、業務の進捗管理を徹底することで、課題の発見とその解決・回避が少しずつではあるができてきた。経営資源の効果的配分(業務改善)が持続できる館運営を期待する。

【まとめ】

当館の評価制度において2019年度は、2017年度から始まった第2期の最終年度に当たる。3カ年の戦術・戦略の評価結果について、別表に期中の変化(業務改善の進捗状況)を示した。

戦「術」については、2017年度の評定点「4, 3, 2, 1」の個数がそれぞれ「12, 1, 3, 1」であり、2019度の「12, 2, 2, 1」と酷似するのに対し、2018年度は「9, 0, 7, 1」と大きく異なる。2018年度で「2:どちらかという達成できていない」が7と多くを占めることは、戦術目標の達成度が低調であったことを物語っている。反面、今年度はこうした状況を改善し、2017年度に近い戦術目標の達成ができた。当評価制度では、戦術の評価指標を個別の事業における達成度(結果＝アウトプット)に設定していることから、2019年度は、個別の事業を順調に実施できたと評価できる。

次に、期中を通じての戦「略」について点検すると、2017年度は「4, 3, 2, 1」の個数がそれぞれ「5, 2, 0, 0」、2018年度は「2, 4, 1, 0」、2019年度は「1, 5, 1, 0」であり、2019年度は2018年度と似て相対的に低い結果となっている。当評価制度では、戦略の評価指標を事業の結果が利用者等に及ぼす影響(成果＝アウトカム)に設定していることから、機械的に判断すると、3年間を通じて館の成果は「低下した」ことになる。

そこで、2017年度と2019年度の戦術結果が酷似するにもかかわらず、戦略結果が異なる原因を考えてみたい。改めて2017年度の戦略評価を見ると、「目標値を達成しているため、達成度4」とする評定が目立つ。これは目標値と実績値をストレートに比較した結果であり、手法として間違いではない。しかし、改めて戦略と戦術の関係を見ると、例えば戦略1では「何度も利用していただくために、展示(基本展示・展覧会)を充実させます」の成果(アウトカム)を「リピーターの割合」で評定する一方で、戦略1を構成する戦術1では「何度も利用していただくために、多様なテーマによる展覧会を開催します」の結果(アウ

トプット)を「企画展示の総入館者数」で評定する。2019年度の企画展示「近藤喜文」展や「三重の仏像」展のように県外からも多くの新規来館者を得た場合、戦術1と戦略1のめざす方向(指標)は相反する。こうした戦略とそれを構成する戦術との因果関係に不整合が生じていて、両者の評価結果が矛盾する箇所がある。また、戦略の成果(アウトカム)を、達成の度合いを考慮せず「達成しているため、達成度4」と機械的に評定することも問題である。そのため、今年度の戦略の評定は、戦術と戦略の矛盾や実績値の経年変化(達成の度合い)も考慮して行った結果、2017年度との差が生じることになった。

以上から、2019年度の全体評価は、個々の事業(戦略)が順調に実施できた結果、具体的には長らくの懸案であった調査研究の充実(戦術12~14)や、コロナ禍にもかかわらず開館初年度に次ぐ観覧者を得ることができ、戦略の評定以上に大いに評価できると考える。あわせて、今期の3年間を通じて、開館時間の短縮や企画展示をはじめとする展示事業の整理・見直し、事業の定期的な進捗管理と課題回避のための機会設定など、業務の改善が確実に進んだと判断できる。引き続き、本評価制度が有効に機能することで、当館におけるいっそうの改善が進み、県民や利用者にとってのサービスが向上するとともに、職員にとって魅力的な職場となることを期待する。

なお、今後、本制度の効果的活用を図るため、次の留意点を指摘したい。

- ・ 制度の設計に当って、個別の事業(戦術)の効果が、戦略、中期的にめざす姿や到達点(ビジョン)、あるいは長期的にめざすそれ(ミッション)に確実に結びつくことが必須であり、その検証には、ロジックモデルの活用が効果的である。
- ・ 適正な評価指標、目標値(到達点)を設定することが求められる。指標については、以下の【付記】にも示したように、「アウトプットとアウトカムの混同や併用」が無いようにする。目標値については「挑戦的だが実現可能」であることが前提で、期中を通じて一定であることが求められる。
- ・ 明確でメリハリの効く判断基準とその統一的な運用が求められる。現行制度は3と4の区分が不明瞭なため、内部評価では、「達成したので3」や「達成したので4」、さらには「上回ったため3」など混乱が生じており、改善を要する。
- ・ 評価の最終目的が業務の改善にあることから、目標が達成できなかった事業・事項についてこそ、徹底した原因究明を行う。

【付記】

今年度も内部評価において、一部の戦術で、「結果」(アウトプット)だけではなく「成果」(アウトカム)を設定し、双方の実績を勘案して評定したケースや、目標値の変更が行われた。そのため、評価結果に齟齬を来す例が散見された。

本外部評価では、戦術については「結果」のみに依拠することとし、また、新たに変更となった目標値を基準に評定を下したことを付記します。

表1 評定点の推移(2017~2019年度)

戦略	2017年度	2018年度	2019年度	差	戦術	2017年度	2018年度	2019年度	差
戦略1 (展示)	4	3	4	1	戦術1	4	2	4	2
					戦術2	2	2	4	2
					戦術3	4	2	2	0
戦略2 (広報)	4	4	3	-1	戦術4	4	4	3	-1
					戦術5	4	4	4	0
					戦術6	4	4	4	0
戦略3 (市民参画)	4	2	3	1	戦術7	3	2	4	2
					戦術8	4	4	4	0
					戦術9	4	1	4	3

戦略4 (資料保全)	4	3	2	-1	戦術10	4	2	4	2
					戦術11	4	4	1	-3
戦略5 (調査研究)	3	3	3	0	戦術12	1	4	4	0
					戦術13	4	4	4	0
					戦術14	4	2	4	2
戦略6 (学習支援)	4	4	3	-1	戦術15	4	4	4	0
					戦術16	2	2	2	0
戦略7 (業務改善)	3	3	3	0	戦術17	2	4	3	-1
合計	26	22	21	-1		58	51	59	8
百分比	93%	79%	75%			85%	75%	87%	
「4」の個数	5	2	1			12	9	12	
「3」の個数	2	4	5			1	0	2	
「2」の個数	0	1	1			3	7	2	
「1」の個数	0	0	0			1	1	1	

「差」とした2列の値は、2018年度と2019年度の比較。

9.3 アンケート結果概要

1) 目的

博物館利用者の意見と要望、ニーズ、満足度、与えた影響を把握しながら、今後の施設利用や接遇、展示活動、交流創造活動、広報のあり方などを検討・改善し、利用しやすく地域の役に立つ博物館づくりを進めるために来館者アンケートを実施している。さらに、ビジョンや戦略目標、戦術における毎年の達成度を評価するためのデータ収集も目的としている。

2) 実施方法

展示観覧者に対するアンケートは、基本展示室、企画展示室の各展示室出口付近に机と椅子を置き、アンケート記入コーナーを設置した。机の上には、大人用と子ども用のアンケート用紙と鉛筆及びアンケート回収箱を置き、展示観覧者が自由にアンケートに記入していただけるようにした。開館中毎日実施した。

入館者に対するアンケートは、学習交流スペースに机と椅子を置き、ご意見記入コーナーを設置した。机の上には、大人用と子ども用のご意見記入用紙と鉛筆及びご意見回収箱を置き、来館者が自由にご意見を記入していただけるようにした。開館中毎日実施した。

交流創造活動参加者に関するアンケートは、事業実施前に配布資料とともにアンケートを配布し、事業終了時に記入いただくことで収集した。

3) 項目

アンケートは、基本展示用、各企画展示用、ご意見記入用、交流創造活動の4種類あり、それぞれ大人用と子ども用を用意した。

展示については、①興味を引く資料の有無とその内容、②改善点の有無とその内容、③展示から新たな考えを得たかとその内容、④展示の満足度、⑤展示を知った媒体、を聞いた。さらに、MieMuについても、①MieMuの来館回数、②MieMuを一言で表すと、③ご意見・ご要望、を聞いた。アンケート記入者の属性については、①性別、②年齢、③居住地、④今日を除いてミュージアムを訪れた回数、を聞いた(図1)。

ご意見記入用については、まずご意見・ご要望を聞き、アンケート記入者の属性及び、MieMuを知った媒体、MieMuの満足度を聞いた。

1) 基本展示アンケート

アンケートにご協力ください。アンケートのデータは、博物館運営に関する改善活動や研究以外の目的では使用いたしません。

A ご覧になった展示についてお尋ねします。

(1) ご覧になった展示に関して、次の質問について具体的なご意見などがありましたら、ご記入ください。また**裏面の平面図**にもお書きください。

- ・興味をひく資料、印象に残った展示コーナーがありましたか。
①いいえ ②はい (内容:)
- ・改善すべき展示内容や展示方法がありましたか。
①いいえ ②はい (内容:)
- ・展示を見て、何か新たな考えや刺激を得ることができましたか。
①いいえ ②はい (内容:)

(2) ご覧になった展示に満足しましたか。○を1つおつけください。
①いいえ ②どちらかという「いいえ」 ③どちらかという「はい」 ④はい

(3) この展示をなにご知りになりましたか。該当するものすべてに○をおつけください。
①ポスター、②チラシ、③新聞、④テレビ、⑤雑誌、⑥「県政だより」、
⑦館の公式ホームページ、⑧そのほかのホームページ・ブログ、
⑨館のTwitterやFacebook、⑩そのほかのTwitterやFacebook、
⑪直接、人から聞いて、⑫その他 ()

B 三重県総合博物館 Mi e Mu についてお尋ねします。

(1) 三重県総合博物館 Mi e Mu の展示を観るのは、今回が何回目ですか。○を1つおつけください。
①はじめて、②2回目、③3回目、④4回目以上

(2) Mi e Mu をひとことであらすと、どんな言葉がふさわしいですか。
三重県総合博物館 Mi e Mu は、_____です。

(3) Mi e Mu についてご意見・ご要望などがありましたら、ご自由に記入してください。

C あなたご自身 (回答者ご本人) のことをお尋ねします。もしよろしければ、ご回答ください。

() 内の該当する項目に○を1つおつけください。また、_____にはご記入ください。

(1) 性別 () (2) 年齢 _____ 歳

(3) 居住地 (①津市内: _____ 町 ②三重県内: _____ 市町 ③三重県外: _____ 都道府県)

(4) 今日を除いて過去1年間で何回、「ミュージアム」を訪れましたか。
(①0回、 ②1回、 ③2回、 ④3回、 ⑤4回以上)

*「ミュージアム」とは、Mi e Mu などの博物館のほか、美術館、科学館、動物園、水族館、資料館などを指します。
裏面もご協力ください。

大人用アンケート用紙(表面)

基本展示室で印象に残った展示と改善すべき展示の場所と内容を記入してください。
※場所はおよそでも構いませんし、内容だけの記入でも構いません。

ご協力ありがとうございました。

大人用アンケート用紙(裏面)

4) 傾向

展示アンケート

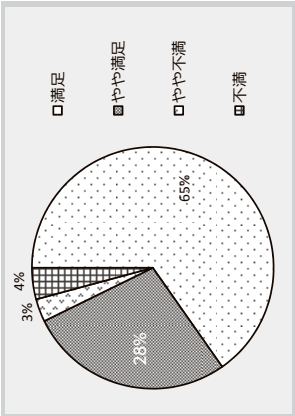
令和元年度の展示アンケート回答枚数は、基本展示 716 枚、企画展示 2,581 枚であった。なお、企画展示は年度内全ての企画展を合わせた数である。(ミニ企画展、移動展示は開催なし) 展示観覧者に対する回答率は、全体で 2% であった。

【アンケート回答者の属性】

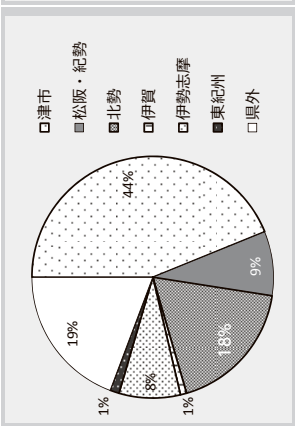
【男女比】基本展示と企画展示の1年間の合計で、女性 63.1%、男性 36.9% であった。

	【満足度】	【居住地別】	【来館回数別】	【年齢層別】
基本展示	<p>満足 63% やや満足 23% やや不満 11% 不満 3%</p>	<p>津市 31% 松阪・紀勢 24% 北勢 9% 伊賀 25% 伊勢志摩 8% 東紀州 3% 県外 0%</p>	<p>初回 52% 2回 17% 3回 8% 4回以上 23%</p>	<p>4-12 52% 13-19 15% 20-34 11% 35-49 12% 50以上 10%</p>
ポタニカル	<p>満足 70% やや満足 24% やや不満 3% 不満 3%</p>	<p>津市 15% 松阪・紀勢 46% 北勢 0% 伊賀 7% 伊勢志摩 20% 東紀州 9% 県外 3%</p>	<p>初回 23% 2回 13% 3回 8% 4回以上 56%</p>	<p>4-12 39% 13-19 22% 20-34 18% 35-49 14% 50以上 7%</p>
ジブリ	<p>満足 86% やや満足 11% やや不満 2% 不満 1%</p>	<p>津市 39% 松阪・紀勢 19% 北勢 7% 伊賀 24% 伊勢志摩 1% 東紀州 7% 県外 3%</p>	<p>初回 55% 2回 15% 3回 8% 4回以上 22%</p>	<p>4-12 26% 13-19 19% 20-34 21% 35-49 10% 50以上 24%</p>
仏像	<p>満足 79% やや満足 19% やや不満 1% 不満 1%</p>	<p>津市 31% 松阪・紀勢 28% 北勢 12% 伊賀 18% 伊勢志摩 8% 東紀州 1% 県外 2%</p>	<p>初回 43% 2回 14% 3回 9% 4回以上 34%</p>	<p>4-12 59% 13-19 17% 20-34 7% 35-49 14% 50以上 3%</p>

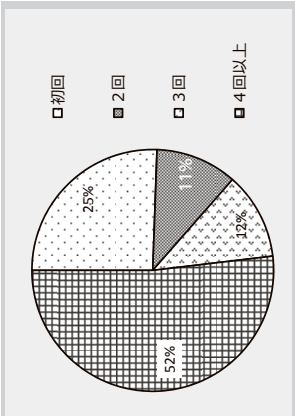
【満足度】



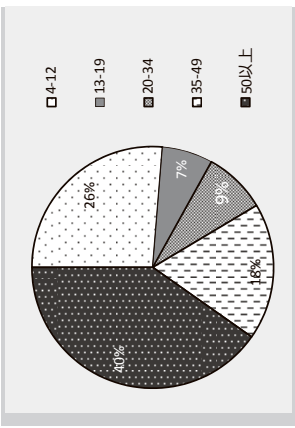
【居住地別】



【来館回数別】



【年齢層別】



1960

Ⅲ 資料

1 条例・規則

1.1 三重県総合博物館条例

三重県総合博物館条例

公布 平成二十五年六月二十八日

施行 平成二十六年四月 十九日

(設置)

第一条 三重の自然並びに歴史及び文化に関する資産を保全し、継承し、及び次代へ生かすとともに、地域社会を支える人づくり及び個性豊かで活力ある地域づくりに貢献するため、博物館法（昭和二十六年法律第二百八十五号）第十八条の規定に基づき、三重県総合博物館（以下「博物館」という。）を津市に設置する。

(事業)

第二条 博物館においては、次の事業を行う。

- 一 博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び一般の利用に供すること。
- 二 三重の自然並びに歴史及び文化に関する資産についての調査研究を行うこと。
- 三 三重の自然並びに歴史及び文化に関する資産についての講演会、観察会、見学会等を行うこと。
- 四 公文書館法（昭和六十二年法律第百十五号）の趣旨にのっとり、県が保有していた歴史資料として重要な公文書その他の記録を博物館資料として保存し、展示し、及び一般の利用に供するとともに、これに関連する調査研究を行うこと。
- 五 前各号に掲げるもののほか、三重県教育委員会（以下「教育委員会」という。）が必要と認める事業を行うこと。

(指定管理者による管理)

第三条 博物館の管理は、地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号。以下「法」という。）第二百四十四条の二第三項の規定により、法人その他の団体であつて、教育委員会が指定するもの（以下「指定管理者」という。）にこれを行わせる。

2 議会の議員、知事、副知事並びに法第百八十条の五第一項及び第二項に規定する委員会の委員（教育委員会にあつては、教育長及び委員）又は委員は、主として博物館の管理を行う指定管理者の無限責任社員、取締役、執行役若しくは監査役又はこれらに準ずべき者、支配人及び清算人（以下この項において「役員等」という。）たることができない。ただし、議会の議員以外の者が、県が資本金、基本金その他これらに準ずるものの二分の一以上を出資している指定管理者の役員等になる場合は、この限りでない。

追加〔平成二九年条例三〇号〕

(指定管理者が行う業務の範囲)

第四条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- 一 博物館の施設及び設備（以下「施設等」という。）の維持管理及び修繕に関する業務
- 二 前号に掲げるもののほか、博物館の管理に関する業務のうち、教育委員会が必要と認める業務

追加〔平成二九年条例三〇号〕

(指定管理者の指定の申請)

第五条 指定管理者の指定を受けようとするものは、次に掲げる書類を添えて、教育委員会が別に定めるところにより、教育委員会に申請しなければならない。

- 一 博物館の事業計画書
 - 二 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして別に定める書類
- 追加〔平成二九年条例三〇号〕
(指定管理者の指定)

第六条 教育委員会は、前条の規定による申請があったときは、次に掲げる基準によりその申請を審査しなければならない。

- 一 事業計画の内容が、県民の平等な利用を確保することができるものであること。
 - 二 事業計画の内容が、施設等の適切な維持管理を図ることができるものであること。
 - 三 事業計画の内容が、博物館の効用を最大限発揮できるものであり、県民サービスの向上を図ることができるものであること。
 - 四 事業計画の内容が、施設等の管理に係る経費の縮減を図るものであること。
 - 五 指定を受けようとするものが、事業計画に沿った管理を安定して行うために必要な人員及び財政的基礎を有していること。
- 2 教育委員会は、前項の規定により審査した結果、博物館を最も効果的に管理することができるものと認めたものを、議会の議決を経て指定管理者として指定する。

追加〔平成二九年条例三〇号〕
(選定委員会)

第七条 教育委員会は、前条第一項の審査を適正に行うため、教育委員会の附属機関として、指定管理者の選定に関する委員会（以下この条において「選定委員会」という。）を置く。

- 2 選定委員会は、教育委員会の諮問に応じ、次の事項について調査審議する。
- 一 審査基準及び配点表の作成に関する事項
 - 二 指定管理者の指定を受けようとするものから提出される事業計画書等の審査に関する事項
 - 三 その他指定管理者の選定を行うに当たって必要な事項
- 3 選定委員会は、委員五人以上十人以内で組織し、男女のいずれか一方の委員の数は、委員の総数の十分の四未満とならないものとする。ただし、教育委員会がやむを得ない事情があると認めた場合は、この限りでない。
- 4 委員は、博物館の管理に関し優れた識見を有する者のうちから、教育委員会が任命する。
- 5 委員の任期は、任命の日から前条第二項の規定により指定管理者を指定する日までとする。
- 6 前各項に定めるもののほか、選定委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

追加〔平成二九年条例三〇号〕
(指定等の告示)

第八条 教育委員会は、次に掲げる場合には、その旨を告示するものとする。

- 一 第六条第二項の規定により指定管理者を指定したとき。
- 二 法第二百四十四条の二第十一項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき。

追加〔平成二九年条例三〇号〕
(協定の締結)

第九条 教育委員会は、指定管理者と次に掲げる事項を定めた協定を締結するものとする。

- 一 博物館の管理に関する事項
- 二 次条に規定する事業報告書に関する事項
- 三 法第二百四十四条の二第十一項に規定する指定の取消し及び管理の業務の停止に関する事項
- 四 管理の業務を行うに当たって保有する個人情報の保護に関する事項
- 五 県が支払うべき管理費用に関する事項

六 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

追加〔平成二九年条例三〇号〕

(事業報告書の作成及び提出)

第十条 指定管理者は、毎年度終了後二月以内に、次に掲げる事項を記載した事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。ただし、年度の途中において法第二百四十四条の二第十一項の規定により指定を取り消されたときは、その取り消された日から起算して二月以内に当該年度の当該日までの間の事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。

一 博物館の管理の業務の実施状況及び利用状況

二 博物館の管理の業務に係る経費の収支状況

三 前二号に掲げるもののほか、博物館の管理の業務の実態を把握するために必要な事項

追加〔平成二九年条例三〇号〕

(業務状況の聴取等)

第十一条 教育委員会は、博物館の管理の適正を期するため、指定管理者に対して、その管理の業務又は経理の状況に関し毎年度一回又は必要に応じて臨時に報告を求め、実地について調査し、又は必要な指示をすることができる。

追加〔平成二九年条例三〇号〕

(教育委員会による管理)

第十二条 教育委員会は、法第二百四十四条の二第十一項の規定により指定を取り消し、若しくは期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき、又は指定管理者が天災その他の事由により管理の業務の全部若しくは一部を行うことが困難となった場合において必要があると認めるときは、管理の業務の全部又は一部を自ら行うものとする。

追加〔平成二九年条例三〇号〕

(休館日)

第十三条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更し、又は別に休館日を定めることができる。

一 月曜日（この日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に定める休日（以下この号において「休日」という。）に当たるときは、その翌日以後の最初の休日でない日）

二 十二月二十九日から翌年の一月三日までの日

一部改正〔平成二九年条例三〇号〕

(開館時間等)

第十四条 博物館の開館時間（次項において「開館時間」という。）は、午前九時から午後五時までとする。

ただし、入館できる時間（次項において「入館時間」という。）は、午後四時三十分までとする。

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、開館時間及び入館時間を変更することができる。

一部改正〔平成二九年条例三〇号・令和元年九号〕

(指示)

第十五条 館長は、博物館資料又は施設等の保全、館内の秩序維持その他博物館の管理上必要があると認めるときは、展示された博物館資料の観覧者（第十七条の手續をした者をいう。以下「観覧者」という。）、博物館資料の利用者（第十八条の許可を受けた者をいう。第二十一条及び第二十三条において同じ。）、施設等の利用者（第十九条の許可を受けた者をいう。第二十一条及び第二十三条において同じ。）その他の関係者に対し必要な指示をすることができる。

一部改正〔平成二九年条例三〇号〕

(入館の制限)

第十六条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、その入館を拒否し、又は退館を命じるこ

とができる。

- 一 めいてい者等他人に危害又は迷惑を及ぼすおそれのある者
- 二 博物館資料又は施設等を損傷するおそれのある者
- 三 前二号に掲げる者のほか、この条例若しくはこれに基づく教育委員会規則に違反し、又は前条の指示に従わなかった者

一部改正〔平成二九年条例三〇号〕

(観覧の手続)

第十七条 博物館に入館し、展示された博物館資料を観覧しようとする者は、教育委員会規則の定めるところにより、観覧の手続をしなければならない。

一部改正〔平成二九年条例三〇号〕

(博物館資料の閲覧等の許可)

第十八条 博物館資料の閲覧、撮影等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

一部改正〔平成二九年条例三〇号〕

(施設等の利用の許可)

第十九条 施設等を利用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

一部改正〔平成二九年条例三〇号〕

(許可の条件等)

第二十条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、前二条の許可を与えないものとする。

- 一 公益を害し、又は善良な風俗を乱すおそれがあるとき。
 - 二 博物館資料又は施設等を損傷するおそれがあるとき。
 - 三 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成三年法律第七十七号）第二条第二号に規定する暴力団をいう。次条第三号において同じ。）の利益になると認められるとき。
 - 四 博物館の事業の実施に支障を来すおそれがあるとき。
- 2 教育委員会は、博物館資料に個人に関する情報その他の教育委員会規則で定める情報が記録されている場合には、第十八条の許可を与えないことができる。
- 3 教育委員会は、前二条の許可に博物館の管理上必要な条件を付けることができる。

一部改正〔平成二九年条例三〇号〕

(許可の取消し)

第二十一条 教育委員会は、博物館資料の利用者又は施設等の利用者が次の各号のいずれかに該当するときは、第十八条若しくは第十九条の許可を取り消し、又は博物館資料の閲覧、撮影等若しくは施設等の利用を中止させることができる。

- 一 偽りその他不正の行為により許可を受けたとき。
- 二 許可を受けた目的に反して博物館資料の閲覧、撮影等を行い、又は施設等を利用したとき。
- 三 暴力団の利益になると認められるとき。
- 四 前条第三項の規定により付けられた条件に違反したとき。
- 五 前各号に掲げるもののほか、この条例若しくはこれに基づく教育委員会規則に違反し、又は第十五条の指示に従わなかったとき。

一部改正〔平成二九年条例三〇号〕

(観覧料)

第二十二条 博物館に入館し、展示された博物館資料を観覧しようとする者は、別表第一に定める額の観覧料を納付しなければならない。

- 2 前項の観覧料は、前納しなければならない。ただし、知事が特に必要があると認めるときは、この限り

でない。

一部改正〔平成二九年条例三〇号・令和元年九号〕
(使用料)

第二十三条 博物館資料の利用者又は施設等の利用者は、別表第二に定める額の使用料を納付しなければならない。

2 前項の使用料は、第十八条又は第十九条の許可の際に納付しなければならない。ただし、知事が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

一部改正〔平成二九年条例三〇号・令和元年九号〕
(原状回復義務)

第二十四条 指定管理者は、指定の期間が満了したとき、又は法第二百四十四条の二第十一項の規定により指定を取り消され、若しくは期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じられたときは、その管理を行わなくなった施設等を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、教育委員会の承認を受けたときは、この限りでない。

追加〔平成二九年条例三〇号〕
(損害賠償義務)

第二十五条 指定管理者は、故意又は過失により施設等を損壊し、又は滅失したときは、それによって生じた損害を県に賠償しなければならない。

追加〔平成二九年条例三〇号〕
(秘密保持義務)

第二十六条 指定管理者の役員及び職員並びにこれらの者であった者は、博物館の管理の業務に関して知り得た秘密を漏らし、又は自己の利益のために使用してはならない。

追加〔平成二九年条例三〇号〕
(博物館協議会)

第二十七条 博物館法第二十条第一項の規定に基づき、博物館に三重県総合博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

一部改正〔平成二九年条例三〇号〕
(組織)

第二十八条 協議会は、委員十五人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- 一 学校教育及び社会教育の関係者
- 二 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- 三 学識経験のある者
- 四 前三号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者

3 委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

5 第一項の場合において、男女のいずれか一方の委員の数は、委員の総数の十分の四未満とならないものとする。ただし、教育委員会がやむを得ない事情があると認めた場合は、この限りでない。

一部改正〔平成二九年条例三〇号〕
(会長及び副会長)

第二十九条 協議会に、会長及び副会長各一人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会の会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。

一部改正〔平成二九年条例三〇号〕

(会議)

第三十条 協議会の会議（以下この条において「会議」という。）は、会長が招集し、議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

一部改正〔平成二九年条例三〇号〕

(罰則)

第三十一条 次の各号のいずれかに該当する者は、五万円以下の過料に処する。

一 第十五条の指示に従わなかった者

二 第十六条の規定による入館の拒否又は退館の命令に従わなかった者

三 第十七条のしるべき事項をしないで入館し、展示された博物館資料を観覧した者

四 第十八条の許可を受けずに博物館資料の閲覧、撮影等を行った者

五 第十九条の許可を受けずに施設等を利用した者

六 第二十一条の規定による許可の取消し又は中止処分に従わなかった者

一部改正〔平成二九年条例三〇号〕

(他の条例との関係)

第三十二条 この条例に定めるもののほか、三重県公債権の徴収に関する条例（昭和三十九年三重県条例第十三号）に定める事項については、その定めるところによる。

一部改正〔平成二六年条例五七号・二九年三〇号〕

(委任)

第三十三条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、規則又は教育委員会規則で定める。

一部改正〔平成二九年条例三〇号〕

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成二十六年五月十八日までの間において規則で定める日から施行する。（平成二十六年二月三重県規則第三号で、同二十六年四月十九日から施行）ただし、附則第三項の規定は公布の日から、附則第四項の規定は同年四月一日から施行する。

一部改正〔平成二六年条例五七号〕

(三重県立博物館条例の廃止)

2 三重県立博物館条例（昭和三十九年三重県条例第四十九号）は、廃止する。

(準備行為)

3 この条例の施行に関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても行うことができる。

(観覧料の納付の特例)

4 平成二十六年四月一日から附則第一項本文に規定する規則で定める日の前日までの間において、知事は、別表第二に規定する観覧料であつて企画展示及び特別企画展示に係るものに限り、第十二条の規定の例により納付させることができる。

追加〔平成二六年条例五七号〕

附 則（平成二十六年三月二十七日三重県条例第五十七号）

この条例は、三重県総合博物館条例の施行の日から施行する。ただし、附則第一項の改正規定及び附則に一項を加える改正規定は、公布の日から施行する。

附 則（平成二十九年三月二十八日三重県条例第三十号）

1 この条例は、平成三十年四月一日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

2 この条例による改正後の三重県総合博物館条例（以下「新条例」という。）第三条第一項の規定による指定及びそれに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、新条例の規定の例により行うことができる。

附 則（平成三十一年三月十八日三重県条例第三十七号）

- 1 この条例は、平成三十一年十月一日から施行する。
- 2 この条例の施行の日前に三重県総合博物館条例第十八条又は第十九条に規定する許可を受けたもの又は改正前の第二十二條の規定により同条第一項の観覧料を納付したものについては、なお従前の例による。

附 則（令和元年七月二日三重県条例第九号）

- 1 この条例は、令和元年十月一日から施行する。
- 2 この条例の施行の日前に三重県総合博物館条例第十九条の許可を受けたものについては、なお従前の例による。

別表第一（第二十二條関係）

区分	観覧料			年間パスポート券による観覧
	基本展示		企画展示及び特別企画展示	
	個人	団体		
小学生、中学生、高校生及びこれらに準ずる者	—	—	展示等を行うのに要する費用を勘案してその都度知事が定める額	—
大学生及びこれに準ずる者	三一〇円	二四〇円		一、〇四〇円
一般	五二〇円	四一〇円		一、六七〇円

備考

- 一 基本展示の団体の欄に掲げる額は、観覧者が二十人以上の団体を構成している場合の当該構成員（団体の引率者を含む。）一人当たりの観覧料をいう。
- 二 特別企画展示とは、教育委員会が定める特別な企画による展示をいう。
- 三 年間パスポート券とは、交付を受けた日から起算して一年を経過する日までの間において、基本展示及び企画展示を観覧することができる券をいう。

一部改正〔平成二六年条例五七号・二九年三〇号・三一年三七号・令和元年九号〕

別表第二（第二十三條関係）

区分	使用料
博物館資料	一回につき、一点五、二三〇円以下の範囲内において知事が定める額
交流展示室	一時間につき一、九八〇円
レクチャールーム	一時間につき一、七六〇円

備考 使用時間に一時間未満の端数があるときは、その端数は一時間とする。

一部改正〔平成二六年条例五七号・二九年三〇号・三一年三七号・令和元年九号〕

1.2 三重県総合博物館条例施行規則

三重県教育委員会規則第二号
三重県総合博物館条例施行規則

公布：平成二十六年三月十七日
施行：平成二十六年四月十九日

(趣旨)

第一条 この規則は、三重県総合博物館条例（平成二十五年三重県条例第六十四号。以下「条例」という。）の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

(用語)

第二条 この規則における用語の意義は、条例で使用する用語の例による。

(入館者の遵守事項)

第三条 博物館へ入館した者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- 一 触ることのできる表示のある博物館資料を除き、博物館資料に触れないこと。
- 二 展示室、資料閲覧室で鉛筆以外のものを使用しないこと。
- 三 撮影できない表示のある博物館資料の撮影をしないこと。
- 四 所定の場所以外で喫煙又は飲食をしないこと。
- 五 その他、係員の指示に従うこと。

(博物館資料の閲覧等の許可の申請)

第四条 条例第十八条の規定により博物館資料の閲覧の許可を得ようとする者は、閲覧の形態に応じて、閲覧利用申請書（第一号様式その一からその三まで）をそれぞれ館長に提出しなければならない。

2 条例第十八条の規定により、博物館資料の撮影等の特別利用の許可を得ようとする者は、特別利用申請書（第二号様式）を館長に提出しなければならない。

3 館長は、前項を許可したときは、博物館資料特別利用許可書（第三号様式）を交付するものとする。

4 博物館資料の利用者は、善良なる管理者の注意をもって利用しなければならない。

(施設等利用の許可の申請)

第五条 条例第十九条の規定により施設等の利用の許可を得ようとする者は、施設等利用許可申請書（第四号様式）を館長に提出しなければならない。

2 館長は、前項を許可したときは、施設等利用許可書（第五号様式）を交付するものとする。

3 施設等の利用期間は、三十日以内とする。ただし、館長が特に必要と認めるときは、これを延長することができる。

(施設等の変更の禁止)

第六条 施設等の利用者は、博物館の施設等に変更を加え、又は特別の施設等を設けてはならない。ただし、館長の承認を受けたときは、この限りでない。

(利用の廃止又は中止)

第七条 施設等の利用者は、博物館の施設等の利用を廃止又は中止しようとするときは、施設等利用廃止（中止）届（第六号様式）をあらかじめ館長に提出しなければならない。

(利用者の遵守事項)

第八条 施設等の利用者は、次の各号に掲げる事項を守るとともに、善良なる管理者の注意をもって施設等を利用しなければならない。

- 一 営利行為を行わないこと。ただし、図録等の販売で館長の承認を受けたものは除く。
- 二 施設等の適正な管理及び火災防止に努めること。
- 三 その他、係員の指示に従うこと。

(資料の貸出)

第九条 博物館は、博物館資料を貸し出すことができない。ただし、当該博物館資料が学術上の調査研究又は教育の普及のために使用され、かつ、取扱上の安全性が確保されると認められるときは、博物館の運営に支障をきたさない範囲において、次の各号に掲げるものに対して貸し出すことができる。

一 博物館法（昭和二十六年法律第二百八十五号）第二条第一項の規定による博物館及び同法第二十九条の規定による博物館に相当する施設

二 三重県内の官公署

三 学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）第一条に規定する学校

四 その他館長が適当と認めるもの

2 前項ただし書の規定により、博物館資料の貸出しを受けようとする者は、資料貸出許可申請書（第七号様式）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。この場合において、当該博物館資料が博物館に寄託された資料（以下「寄託資料」という。）であるときは、当該寄託をした者（以下「寄託者」という。）の承諾書を添付しなければならない。

3 館長は、前項の許可をしたときは、資料貸出許可書（第八号様式）を交付するものとする。

4 第二項の許可を受けた者（以下「借受人」という。）は、当該貸出しに伴う一切の費用を負担しなければならない。

5 博物館資料の貸出期間は、三十日以内とする。ただし、館長が特に必要と認めるときは、この限りでない。

6 借受人は、善良なる管理者の注意をもって博物館資料を利用しなければならない。

(弁償の義務)

第十条 入館者、施設等の利用者及び借受人が故意又は過失により、博物館資料若しくは施設等を汚損し、破損し、又は亡失したときは、その修理又は補充に要する費用を負担しなければならない。

(資料の寄贈及び寄託)

第十一条 博物館に資料を寄贈及び寄託しようとする者は、資料寄贈（寄託）申請書（第九号様式）を館長に提出し、その承諾を受けなければならない。

2 館長は、前項の承諾をしたときは、資料受領書（第十号様式）を交付するものとする。

3 寄託資料は、博物館所蔵の資料と同様の取扱いをするものとする。

4 博物館は、寄託資料が火災等やむを得ない事由により汚損し、破損し、又は亡失した場合には、その責めを負わない。

5 博物館が、寄託者の申出により、寄託資料の返還を行うときは、資料受領書と引き換えに行うものとする。

(歴史資料として重要な公文書の受入れ)

第十二条 博物館は、条例第二条第四号に掲げる県が保有していた歴史資料として重要な公文書等を受け入れるものとする。

(委任)

第十三条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理及び運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成二十六年四月十九日から施行する。

(三重県立博物館条例施行規則の廃止)

2 三重県立博物館条例施行規則（昭和四十五年三重県教育委員会規則第十九号）は、廃止する。

(三重県教育委員会教育長事務専決規則の一部改正)

3 三重県教育委員会教育長事務専決規則（昭和三十一年三重県教育委員会規則十五号）の一部を次のよう

に改正する。

別表中「博物館」を「総合博物館」に改める。

(三重県教育委員会事務局組織規則の一部改正)

4 三重県教育委員会事務局組織規則(昭和四十三年三重県教育委員会規則六号)の一部を次のように改正する。

第十六条第一項第十二号中「博物館」を「総合博物館」に改める。

(知事の補助職員等に対する教育委員会の権限の一部委任等に関する規則の一部改正)

5 知事の補助職員等に対する教育委員会の権限の一部委任等に関する規則(平成二十年三重県教育委員会規則第二号)の一部を次のように改正する。

第二条第二項中「三重県立博物館」を「三重県総合博物館」に改め、「三重県立博物館条例(昭和三十九年三重県条例第四十九号)及び三重県立博物館条例施行規則(昭和四十五年三重県教育委員会規則第十九号)の改正及び廃止に関する事務」を「次に掲げる事務」に改め、「三重県立博物館条例第五条及び第七条」を「三重県総合博物館条例(平成二十五年三重県条例第六十四号)第五条及び第六条並びに三重県総合博物館条例施行規則(平成二十六年三重県教育委員会規則第二号)第四条から第九条及び第十一条」に改め、同項の次に次の各号を加える。

一 三重県総合博物館条例及び三重県総合博物館条例施行規則の改正及び廃止に関すること。

二 博物館法(昭和二十六年法律第二百八十五号)第二十一条及び三重県総合博物館条例第十五条第二項の規定に基づく博物館協議会委員の任免及び委嘱又は解嘱に関すること。

附 則(平成三十年二月二十七日三重県教育委員会規則第二号)

この規則は、平成三十年四月一日から施行する。

附 則(平成三十一年四月二十五日三重県教育委員会規則第九号)

この規則は、公布の日から施行する。

施行規則各種申請様式

第1号様式その1 (第4条関係)

三重県総合博物館 資料閲覧利用申請書
(当日閲覧用)

申請者記入欄

申請日	年 月 日		
申請者	利用証番号	氏名	
	住所		
	電話	電話(携帯)	
	E-mail		
閲覧希望日 (予約して 閲覧したい 方はご記入 ください)	第一希望日	年 月 日	
	第二希望日	年 月 日	
	第三希望日	年 月 日	
	その他		
撮影の有無	有 / 無	※下記をご覧ください。	

閲覧申請資料

No.	閲覧	分類名 資料番号	資料名等	出	納
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※三脚・フラッシュ等の機材を用いた撮影、印刷物・WEB等への掲載については、別途「特別利用」の申請が必要となります。

博物館記入欄

受付日	年 月 日
閲覧日	年 月 日
担当	
備考	

第1号様式その2 (第4条関係)

三重県総合博物館 資料閲覧利用申請書
(予約閲覧用)

申請者記入欄

申請日	年 月 日		
申請者	利用証番号	氏名	
	住所		
	電話	電話(携帯)	
	E-mail		
閲覧希望日	第一希望日	年 月 日	
	第二希望日	年 月 日	
	第三希望日	年 月 日	
	その他		
撮影の有無	有 / 無	※下記をご覧ください。	

閲覧申請資料

No.	閲覧	分類名 資料番号	資料名等	出	納
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※三脚・フラッシュ等の機材を用いた撮影、印刷物・WEB等への掲載については、別途「特別利用」の申請が必要となります。

博物館記入欄

受付日	年 月 日
閲覧日	年 月 日
担当	
備考	

第1号様式その3 (第4条関係)

三重県総合博物館 資料閲覧利用申請書
(県が保有していた歴史資料として重要な公文書等 閲覧用)

申請者記入欄

申請日	年 月 日		
申請者	利用証番号	氏名	
	住所		
	電話	電話(携帯)	
	E-mail		
撮影の有無	有 / 無	※下記(3)をご覧ください。	

閲覧申請資料

No.	閲覧	分類名 資料番号	資料名等	出	納
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

(1) 文書に含まれる個人情報等、公開できない情報についての内容審査のため、閲覧までに2週間をものとした期間を要します。
(2) 内容審査が終わり次第、博物館から閲覧日程について連絡いたします。
(3) 三脚・フラッシュ等の機材を用いた撮影、印刷物・WEB等への掲載については、別途「特別利用」の申請が必要となります。

博物館記入欄

受付日	年 月 日
閲覧日	年 月 日
担当	
備考	

第2号様式 (第4条関係)

三重県総合博物館特別利用申請書

申請者 住所 年 月 日
団体名
代表者氏名 印
電話

三重県総合博物館長 宛て

三重県総合博物館条例施行規則第4条の規定に基づき、下記の利用を申請いたします。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 教育活動のための利用 (3) 出版物等への掲載のための利用 (4) テレビ放送等への利用 (5) その他()			
内容	(1) 閲覧(実測・拓本等) (2) 画像データの利用 (3) 複製・模写(複写) (4) 撮影 (5) 転載(転載元:) (6) その他()			
利用期間	【利用期間・発行予定日・放送予定日・時間】 (発行予定日、放送予定日・時間) 年 月 日() : ~ 年 月 日() :			
利用場所	(出版物・放送等では掲載紙・番組名など)			
利用資料	資料番号	資料名	数量	備考
担当者	電話			
備考				

● 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守します。
(1) 善良なる管理者の注意をもって利用します。
(2) 施設、備品等の汚損、破損及び丢失防止に注意します。
(3) 利用後においては、現状に復し、博物館職員の見検を受けます。
(4) 利用時間を遵守します。
(5) 他の利用者の迷惑とならないように配慮します。
(6) 利用者は、申請事項以外の目的、内容に資料等を使用しません。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去します。
(7) その他、利用に際しては博物館職員の指示に従います。
● 故意または過失により、資料等もしくは施設等を汚損、破損または丢失したときは、その修理または補充に要する費用を負担いたします。
● 資料等の利用により実施した出版物、印刷物等については2部寄贈いたします。

第3号様式（第4条関係）

第 年 月 日 号

三重県総合博物館資料特別利用許可書

（申請者） 様
三重県総合博物館長

年 月 日付で申請のあった資料の利用は、下記のとおり許可します。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 教育活動のための利用 (3) 出版物等への掲載のための利用 (4) テレビ放送等への利用 (5) その他()			
内容	(1) 熟覧(実測・拓本等) (2) 画像データの利用 (3) 複製・複写(複写) (4) 撮影 (5) 転載(転載元:) (6) その他()			
利用期間 (発行予定日・放送予定日・時間)	【利用期間・発行予定日・放送予定日・時間】 年 月 日() : ~ 年 月 日() :			
利用場所 (出版物・放送等では掲載紙・番組名など)				
利用資料	資料番号	資料名	数量	備考
担当者	電話			
備考				

- 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守すること。
- (1) 善良なる管理者の注意をもって利用すること。
- (2) 施設、備品等の汚損、破損及び亡失防止に注意すること。
- (3) 利用後においては、現状に復し、博物館職員の点検を受けること。
- (4) 利用時間を遵守すること。
- (5) 他の利用者の迷惑とならないように配慮すること。
- (6) 利用者は、申請事項以外の目的、内容に資料等を使用しないこと。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去すること。
- (7) その他、利用に際しては博物館職員の指示に従うこと。
- 故意または過失により、資料等もしくは施設等を汚損、破損または亡失したときは、その修理または補充に要する費用を負担すること。
- 資料等の利用により実施した出版物、印刷物等については2部送付すること。

第4号様式（第5条関係）

第 年 月 日

三重県総合博物館施設等利用許可申請書

三重県総合博物館長 宛て
申請者 住所
団体名
代表者氏名
電 話 印

三重県総合博物館条例施行規則第5条の規定に基づき、下記の利用を申請いたします。

利用施設				
利用設備	設備・機械等	点数	設備・機械等	点数
利用日時	年 月 日 時から 年 月 日 時まで			
利用の概略	利用の目的			
	会場責任者氏名			
	観覧料等の徴収	有 / 無	円	
	図録等の販売	有 / 無	円	
	設備等の設置	有 / 無		
	利用者数			
備考				

- (1) 展覧会等で施設を使用するときは、展示資料の一覧を添付すること。
- (2) 設備等を設置するときは、概要を確認できる図面を添付すること。

第5号様式（第5条関係）

第 年 月 日 号

三重県総合博物館施設等利用許可書

（申請者） 様
三重県総合博物館長

年 月 日付で申請のあった施設等の利用は、下記のとおり許可します。

利用施設				
利用設備	設備・機械等	点数	設備・機械等	点数
利用日時	年 月 日 時から 年 月 日 時まで			
利用の概略	利用の目的			
	会場責任者氏名			
	観覧料等の徴収	有 / 無	円	
	図録等の販売	有 / 無	円	
	設備等の設置	有 / 無		
	利用者数			
備考				
利用料	円			

第6号様式（第7条関係）

第 年 月 日

三重県総合博物館施設等利用廃止（中止）届

三重県総合博物館長 宛て
住 所
団体名
代表者氏名
電 話 印

三重県総合博物館条例施行規則第7条の規定に基づき、下記の事由により博物館の施設等の利用を廃止（中止）したいので届け出ます。

利用施設				
利用設備	設備・機械等	点数	設備・機械等	点数
利用日時	年 月 日 時から 年 月 日 時まで			
廃止（中止）事由及び期日	年 月 日 時から 年 月 日 時まで 中止・廃止 (事由)			
備考				

第7号様式（第9条関係）

年 月 日

三重県総合博物館資料貸出許可申請書
三重県総合博物館長 宛て

申請者 住所
団体名
代表者氏名 印
電 話

三重県総合博物館条例施行規則第9条の規定に基づき、下記について申請いたします。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 展示活動のための利用 (3) その他()
内 容	(1) 熟覧(実測・拓本等) (2) 展示 (3) 複製・複写(複写) (4) 撮影 (5) その他()
貸出期間 (展示の場合は、 展示期間)	【貸出期間】 年 月 日() : ~ 年 月 日() : 【展示期間】 年 月 日() : ~ 年 月 日() :
利用場所 (保管・展示場所)	
貸出資料	資料番号 資料名 数量 備考
取扱責任者	電話
輸送方法	
備 考	

- 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守します。
 - (1) 資料等について善良なる管理者の注意をもって利用します。
 - (2) 施設、備品等の汚損、破損及び亡失防止に注意します。
 - (3) 使用後においては、現状に復し、博物館職員の点検を受けます。
 - (4) 貸出期間を遵守します。
 - (5) 利用者は、申請事項以外の目的、内容に資料等を使用しません。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去します。
 - (6) その他、利用に際しては博物館職員の指示に従います。
- 故意または過失により、資料等もしくは施設等を汚損、破損または亡失したときは、その修理または補充に要する費用を負担いたします。
- 資料等の利用により作成した図録・報告書等の出版物、印刷物等については2部寄贈いたします。
- 展覧会等で利用する場合、展覧会開催要項、展示会場、保管場所、警備体制、消防計画、職員体制、公開承認施設資格の有無等の資料を添付いたします。

第8号様式（第9条関係）

第 号
年 月 日

三重県総合博物館資料貸出許可書

(申請者) 様

三重県総合博物館長

年 月 日付で申請のあった博物館資料の貸出は、下記の条件の下に許可します。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 展示活動のための利用 (3) その他()
内 容	(1) 熟覧(実測・拓本等) (2) 展示 (3) 複製・複写(複写) (4) 撮影 (5) その他()
貸出期間 (展示の場合は、 展示期間)	【貸出期間】 年 月 日() : ~ 年 月 日() : 【展示期間】 年 月 日() : ~ 年 月 日() :
利用場所 (保管・展示場所)	
貸出資料	資料番号 資料名 数量 備考
取扱責任者	電話
輸送方法	
備 考	

- 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守すること。
 - (1) 貸出を受けた者(以下「借受人」という)は、貸出を受けた資料(以下「貸出資料」という)を善良なる管理者の注意をもって管理すること。
 - (2) 貸出に伴う一切の費用は、借受人が負担すること。
 - (3) 借受人は貸出資料を故意又は過失により、汚損し、破損し、又は亡失したときは、その修理又は補充に要する費用を負担すること。
 - (4) 借受人は、貸出資料を本書記載事項以外の目的、内容に使用しないこと。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去すること。
 - (5) 使用後においては、現状に復し、博物館職員の点検を受けること。
 - (6) 貸出期間を遵守すること。
 - (7) その他、利用に際しては当博物館職員の指示に従うこと。
 - (8) 資料等の利用により作成した図録・報告書等の出版物、印刷物等については2部寄贈すること。

第9号様式（第11条関係）

年 月 日

三重県総合博物館資料寄贈（寄託）申請書
三重県総合博物館長 宛て

申請者 住所
団体名
代表者氏名 印
電 話

三重県総合博物館条例施行規則第11条の規定に基づき、下記のとおり、資料を寄贈（寄託）したいので申請します。

資 料 名	数量	形状・寸法等
備 考		
寄託の場合、寄託期間	年 月 日から 年 月 日まで	

第10号様式（第11条関係）

第 号
年 月 日

三重県総合博物館資料受領書

(申請者) 様

三重県総合博物館長

年 月 日付で申請のあった資料の寄贈（寄託）は、下記のとおり、受領しました。

資 料 名	数量	形状・寸法等
備 考		
寄託の場合、寄託期間	年 月 日から 年 月 日まで	

1.3 観覧料免除要綱

三重県立美術館、斎宮歴史博物館及び三重県総合博物館観覧料減免要綱

平成26年3月28日

(趣旨)

第1条 この要綱は、三重県公債権の徴収に関する条例（昭和39年三重県条例第13号）第3条の規定に基づき三重県立美術館、斎宮歴史博物館及び三重県総合博物館（以下「博物館等」という。）の観覧料の減免について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要綱において「観覧料」とは、次に掲げるものをいう。

- (1) 三重県立美術館条例(昭和57年三重県条例第1号。次条第1項第1号において「美術館条例」という。)第22条に規定する観覧料
- (2) 斎宮歴史博物館条例(平成元年三重県条例第6号。次条第1項第1号において「斎宮条例」という。)第11条に規定する観覧料
- (3) 三重県総合博物館条例(平成25年三重県条例第64号。以下「博物館条例」という。)第22条に規定する観覧料

(減免の対象)

第3条 観覧料の免除を受けることのできる者は、次に掲げる者とする。

- (1) 教育課程に基づく教育活動として、教職員に引率されて、美術館条例別表第1に掲げる企画展、斎宮条例別表第1に掲げる特別展、企画展その他特別な催物並びに博物館条例別表第2に掲げる企画展示及び特別企画展示を観覧する県内の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の児童及び生徒
 - (2) 教育課程に基づく教育活動として観覧する県内の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の児童及び生徒を引率する者
 - (3) 県内に設置されている児童福祉法(昭和22年法律第164号)第7条に規定する児童福祉施設の在籍者で当該施設の職員に引率されて観覧する児童及び当該児童の引率者
 - (4) 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者
 - (5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者
 - (6) 知的障がい者と判定された者に対して公的機関が発行する療育手帳又は療育手帳に代わる証明書の交付を受けている者
 - (7) 前各号に該当する者のうち介護を要する者の介護を行う者。ただし、原則として対象者1人につき1人に限る。
- 2 前項に定めるもののほか、知事は、特に必要と認めるときは、観覧料を減額し、又は免除することができる。

(減免の手続)

第4条 前条第1項の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、博物館等観覧料免除申請書兼承認書(様式第1号。以下「申請書」という。)に必要な事項を記載して博物館等の館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、同項第4号から第7号までに掲げる者が観覧料の免除を受けようとする場合には、同号に掲げる者であることを証する書類又は手帳の提示等をもって申請書の提出に代えることができる。

2 博物館等の館長は、申請書に基づく承認をしたときは、当該申請書にその旨を記して申請者に交付する

ものとする。

3 前条第2項の規定による観覧料の減免に関し必要な事項は、知事が別に定める。

(免除の手続の特例)

第5条 博物館等の館長は、前条第1項の規定による申請書の提出については、博物館等の館長が別に定めるところにより、博物館等の館長の使用に係る電子計算機(入出力装置を含む。以下この条において同じ。)と、申請をしようとするものの使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織を使用して行わせることができる。

2 前項の規定により行われた提出は、同項の電子計算機に備えられたファイルへの記録がされた時に、博物館等の館長に到達したものとみなす。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成26年4月1日から施行する。ただし、三重県総合博物館に係る規定は、博物館条例の施行の日から施行する。

(三重県立博物館、三重県立美術館及び斎宮歴史博物館観覧料免除要綱の廃止)

2 三重県立博物館、三重県立美術館及び斎宮歴史博物館観覧料免除要綱(平成20年三重県告示第199号。次項において「旧告示」という。)は、廃止する。

(経過措置)

3 この告示の施行前に旧告示の相当規定による免除についてなされた手続は、この告示に規定する免除についてなされた手続とみなす。

附 則 (平成29年3月17日三重県告示第160号)

この告示は、平成29年4月1日から施行する。

附 則 (平成30年3月16日三重県告示第179号)

この告示は、平成30年4月1日から施行する。

様式第1号(第4条関係)

博物館等観覧料免除申請書兼承認書

年 月 日

宛て

団 体 名
代 表 者 名
住 所

下記のとおり観覧料の免除を受けたいので申請します。

記

博物館等の名称	
免除申請の理由	
在 館 時 間	年 月 日 () 時から 時まで
入 館 人 員	
引率代表者名	電話番号
備 考	

(注意) インターネットやファックスでも受け付けます。

上記の申請に対して、承認します。

年 月 日

館 長

2 事業成果一覧

● 入館者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数(日)	26	27	26	26	28	25	27	26	24	24	24	0	283
入館者数(人)	12,794	14,507	11,362	30,821	57,221	41,312	17,757	28,331	10,134	11,320	11,470	0	247,029
1日平均(人)	492.1	537.3	437.0	1,185.4	2,043.6	1,652.5	657.7	1,089.7	422.3	471.7	477.9	0	872.9

● 展示観覧者数

(1) 基本展示観覧者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計	
開館日数(日)	26	27	26	26	28	25	27	26	24	24	24	0	283	
有料観覧者	基本展示単独券利用	701	553	614	520	860	478	453	302	313	164	220	0	5,178
	セット券利用	463	883	421	5,743	12,129	7,526	989	1,945	340	669	721	0	31,829
	年間パスポート利用	211	178	201	149	159	85	135	162	96	154	135	0	1,665
	(小計)(人)	1,375	1,614	1,236	6,412	13,148	8,089	1,577	2,409	749	987	1,076	0	38,672
無料観覧者	高校生以下	1,173	1,038	872	2,359	5,964	3,227	837	1,096	490	772	768	0	18,596
	学校利用	487	795	464	347	157	1,171	2,068	1,426	210	462	606	0	8,193
	視察/招待	102	149	193	250	494	420	228	369	69	129	146	0	2,549
	障がい者及び付添	204	305	165	602	1,118	576	353	645	140	214	241	0	4,563
	キャンパスメンバーズ	89	140	161	108	24	23	63	326	149	139	120	0	1,342
	その他(※1)	216	0	0	0	7	1,677	786	1,813	0	330	0	0	4,829
(小計)(人)	2,271	2,427	1,855	3,666	7,764	7,094	4,335	5,675	1,058	2,046	1,881	0	40,072	
合計(人)	3,646	4,041	3,091	10,078	20,912	15,183	5,912	8,084	1,807	3,033	2,957	0	78,744	
1日平均(人)	140.2	149.7	118.9	387.6	746.9	607.3	219.0	310.9	75.3	126.4	123.2	0	278.2	

(2) 企画展示観覧者数

展示名	第 23 回企画展	第 24 回企画展	第 25 回企画展	第 26 回企画展	合計	
	ボタニカル・デザイン	この男がジブリを支えた。近藤喜文展	三重の仏像	1960年代の熱気を未来につなぐ		
開催期間	H31.4.20～R1.6.16	R1.7.6～R1.9.16	R1.10.5～R1.12.1	R1.12.21～R2.2.24	—	
開催日数(日)	51	64	50	52	217	
有料観覧者	企画展示単独券利用	1,405	0	7,867	1,710	10,982
	セット券利用	1,767	49,735	3,064	1,600	56,166
	小中高		11,663			11,663
	年間パスポート利用	890	0	1,088	799	2,777
	(小計)(人)	4,062	61,398	12,019	4,109	81,588
無料観覧者	高校生以下	2,479	5,738	1,224	1,927	11,368
	学校利用	1,647	866	2,913	1,068	6,494
	視察/招待	960	2,320	1,921	769	5,970
	障がい者及び付添	571	3,967	1,212	527	6,277
	キャンパスメンバーズ	365	0	410	303	1,078
	その他(※1)	0	7	0	0	7
	(小計)(人)	6,022	12,898	7,680	4,594	31,194
合計(人)	10,084	74,296	19,699	8,703	112,782	
1日平均(人)	197.7	1,160.9	394.0	167.4	519.7	

(※1) 県民の日記念イベントの日、コーポレーション・デー、関西文化の日など

● こども体験展示室利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開室日数(日)	26	27	26	26	28	25	27	26	24	24	22	0	281
利用者数(人)	4,101	4,861	4,243	6,397	11,040	6,507	3,724	3,262	2,748	3,400	3,066	0	53,349
1日平均(人)	157.7	180.0	163.2	246.0	394.3	260.3	137.9	125.5	114.5	141.7	139.4	0	189.9

● 資料閲覧室利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開室日数(日)	26	27	26	26	28	25	27	26	24	24	24	0	283
入室者数(人)	197	216	169	371	726	508	353	394	121	268	168	4	3,495
1日平均(人)	7.6	8.0	6.5	14.3	25.9	20.3	13.1	15.2	5.0	11.2	7.0	—	12.3
閲覧者数(人)	65	70	63	129	221	106	91	111	43	63	59	4	1,025
1日平均(人)	2.5	2.6	2.4	5.0	7.9	4.2	3.4	4.3	1.8	2.6	2.5	—	3.6

3月は全日休館。休館前に受理した申請分のみ、資料閲覧室での閲覧対応を2日実施した。
(3月分の資料閲覧室利用者数は、博物館入館者数の外数。)

戦略目標	戦略を評価するための指標			評価結果			戦略を計画するための指標			評価結果		
	達成度	アウトカム(成果)	各戦略の内訳概要	外部評価	戦術	達成度	アウトカム(結果)	内部評価	外部評価			
<p>何れも利用していただくために、展示(基本展示・展覧会)を充実させます(展示)</p> <p>2 博物館の存在を広く知っていただくために、積極的な広報を展開します(展示)</p>	<p>1 何れも利用していただくために、展示(基本展示・展覧会)を充実させます(展示)</p> <p>2 1960年代の展示(基本展示)を充実させます(展示)</p> <p>3 1960年代の展示(基本展示)を充実させます(展示)</p> <p>4 1960年代の展示(基本展示)を充実させます(展示)</p>	<p>・モニターの割合が目標値の95%であったため、2とした。</p> <p>・今年度の展示観覧者数は191,881人と目標値の120%に達している。これは、ポスター展、1960年代展で示される一定数の割合のリピーターに加え、シリア展、仏像展で新規の展示観覧者を多数確保したことにより、目標値を下回ったものと考えられる。</p> <p>2 リピーターの割合 1 目標値:50-60% 2 実績値:57%</p>	<p>・企画展示(近藤喜文展や仏像展)へは、多くの新規来館者を呼び、目標を越える観覧者を得ることができた。</p> <p>・これらの新規来館者を基本展示(基本展示)へ誘導し、過去の年の観覧者数を上回ったことは評価できる。</p> <p>・目標値が未達成となった原因は、一方で訪客を中心とした多くの「新規来館者」を獲得できたこと、他方で目標値の更新(目上げ)にあり、目標値に匹敵する(超える)成果が得られなかったことと考える。</p> <p>・戦略目標である「展示の充実」に照らして開館年以降の展示観覧者数を比較すると、今年度の展示観覧者数を獲得できたこと、何れも利用していただくために、展示(基本展示・展覧会)を充実させます(展示)を評価し、4とした。</p>	<p>1 何れも利用していただくために、展示(基本展示・展覧会)を充実させます(展示)</p> <p>2 基本展示を何れも利用していただくために、展示(基本展示・展覧会)を充実させます(展示)</p> <p>3 親子連れで博物館を楽しんでもらえるように、子ども体験展示の活用を促進します</p> <p>4 メディアに報道してもらった展示会や内覧会を行います</p>	<p>3 展示会の観覧者数 1 目標値:95,000人 2 実績値:113,137人</p> <p>3 基本展示の観覧者数 1 目標値:65,000人 2 実績値:78,744人</p> <p>2 利用者数 1 目標値:75,000人 2 実績値:53,349人</p>	<p>・目標値を達成したことで3とした。</p> <p>・多様なテーマで企画展を開催したことで3とした。「ポスター展」が99%を占め、75%前後の観覧者データを獲得し、何れも利用していただくために、展示(基本展示・展覧会)を充実させます(展示)を実現できた。</p> <p>・近藤喜文展や仏像展では、リピーターに加え、多くの新規来館者(過去最多来館者数)を獲得できたことも評価できる。</p> <p>・基本展示のアウトプットの達成率は121%で、しゅらふん達成していることから、その要因が企画展と共通によるものでも必ずしも原因は考えにくく、戦術の取組と評価があることは注意を要する。</p> <p>・目標値を達成したことで3とした。</p> <p>・文化庁事業の取組の一環として、講師をテーマとした社会科の教材、授業等を作成した。</p> <p>・偶数月に、各学芸員が基本展示室のおすそ分けを体験するスポンサーシップを実施し、54名の参加があった。</p> <p>・目標値を達成できていないので2とした。</p> <p>・これまで展示室が適正人数以上になることで、カガクなどのトラブルが課題となっているため、引き続き目標値の見直しを検討する必要がある。</p> <p>・コロナ禍の影響(2.3月)を考慮しても達成率は80%となり、目標が達成できなかったと言え、2とした。</p> <p>・安全確保のための基準を明確にしたうえで、適正な目標の再設定が必要である。</p>	<p>説明会・内覧会に参加したメディア数(通算累計) 1 目標値:20社 2 実績値:20社</p> <p>4 説明会・内覧会に参加したメディア数(通算累計) 1 目標値:30社 2 実績値:20社</p>	<p>・目標を達成したことで4とした。</p> <p>・記者クラブだけでなく、地方新聞やケーブルテレビ、地域情報誌等にも情報提供を行うことにより、取材やイベント情報等を掲載してもらったケースが増えた。</p> <p>・今年事業の企画2本については、知事のふるさといふ会見や開会式への出席や展覧会見学会などの情報提供も行うことにより、記事掲載等が多かった。</p> <p>・目標を達成したことで4とした。</p> <p>・これまでメディアに報道してもらった展示会や内覧会を行います</p> <p>・博物館の活動を知ってもらったために、ホームページ、ツイッター、フェイスブックなどを充実させます</p> <p>・モニターの結果は目標値を上回ったものの、実質の観覧者数は前年度の80%を下回った。また、過去の経過を辿ると、前年までの増加傾向から減少に転じている。</p> <p>・観覧者の性格上、集積され、昇り下りたは維持されることが通常と考えることを考慮し、3とした。</p>	<p>3 連携事業への参加者数 1 目標値:100-150人 2 実績値:1,707人</p>	<p>・結果目標(連携事業参加者数)は達成したが、成果目標(高校生以下の観覧者数)は達成しなかった。</p> <p>・シリア展では県内小中高校生以下の多くの来館者の確保につながった。</p> <p>・博物館の日を兼ね、高校生以上の観覧者の確保に努めた。また、学校利用において、協賛数、来館者数ともに前年度に比べて減少しているため、周知活動を強化していく必要がある。</p>		

戦略目標	戦略を評価するための指標			評価結果			職術を評価するための指標			評価結果		
	達成度	アウトカム(成果)	各戦略の内報評価概要	外部評価	職術	達成度	アウトブック(結果)	内部評価	外部評価			
<p>「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と登録者の県民・利用者との参画を促進します(連携)</p>	<p>3</p>	<p>アウトカム(成果)</p> <p>MP数・企業数・ボランティア数 310名20社 実績値:343名22社</p>	<p>各戦略の内報評価概要</p> <p>・参画者数が目標値を上回ったため、3として、ミュージアムパートナー(MP)は、会員数(県民の111%)を達成。MPフェスタを来館者の多いイベントと同時開催とすることで、活動を周知することができた。また、フィードバック等、参加者に好評な事業も定期的に実施は、閉館以来継続して連携事業を蓄積した結果、企画展を含む多様な連携事業が実施できた。また、満足度も高かった。</p> <p>・ボランティア活動は、分県と内容の再検討を実施し、登録者数が増加したものの、10月からの閉館となり、活動回数は目標値を大きく下回った。</p>	<p>外部評価</p> <p>・目標とした人数や団体数を確保できたことが、博物館の機能向上(県民との協働や集客)に繋がっていることと判断できる。</p> <p>・企業との協働については、コーポレーションショーをはじめ、充実した内容と評価できる反面、企業数は経年変化を見ると減少に転じている。</p> <p>・企業との協働による参画促進のため、コーポレーションショーを積極的に活用し、企業との協働による事業を実施します</p>	<p>職術</p> <p>博物館を活用した学びを深めるために、ミュージアムパートナーと協働します</p>	<p>4</p>	<p>アウトブック(結果)</p> <p>登録者数 目標値:280人 実績値:311人</p>	<p>内部評価</p> <p>・目標値を達成したことで4とした。ミュージアムパートナーフェスタを来館者の多いイベントと同時開催とすることで、ミュージアムパートナーの活動を周知することができた。この後は、事業の回数やその内容も考慮した指標とする必要がある。</p>	<p>外部評価</p> <p>・過去2年間、同じ目標値を掲げながら達成できた登録者数を、目標値を超えて確保できたことから、4と評価する。</p> <p>・この後は、事業の回数やその内容も考慮した指標とする必要がある。</p>			
<p>博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、活用できるように、収蔵資料及び地域の文化財等の保存・保全に注力します(資料の保全)</p>	<p>4</p>	<p>地域の保存・保全方法の改善 内容・効果 (保存分野の学芸員によるレビュー)</p>	<p>外部評価</p> <p>・専門職員の配置し、館蔵資料の保存・保全のため、継続的に注力していることは評価できる。</p> <p>・企画展等を通じて、地域の文化財保護の重要性について啓発ができたことは、県立施設としての役割を果たしている。</p> <p>・しかしながら、指導・助言の記録が不備であり、例年と比較しても達成率が少なく、2とした。</p> <p>・正確な記録に基づいて目標を達成することを通じて、県立博物館としての役割を果たすことを期待する。</p>	<p>職術</p> <p>収蔵資料を保存・保全するために、収蔵庫および展示室の定期的な清掃・点検を行います。</p> <p>地域の文化財等を保存するために、相談窓口を用意し、指導助言を行います</p>	<p>4</p>	<p>アウトブック(結果)</p> <p>収蔵庫の文化財害虫の捕獲数 目標値:0匹 実績値:0匹</p>	<p>内部評価</p> <p>・目標値を達成したことで4とした。</p> <p>・閉館日毎日の清掃実施に加え、基本展示室、こども体験展示室のジオラマ等の専門清掃及び、日直職員による目視点検を行った。</p>	<p>外部評価</p> <p>・職員や委託業者の協力を得ながら日常的な清掃・点検に努めた結果、捕獲数0を達成できたことから、4とした。</p>				
<p>三郷に関する資料や博物館活動の歴史的価値に関する資料の劣化を防ぎ、活用できるように、収蔵資料及び地域の文化財等の保存・保全に注力します(資料の保全)</p>	<p>5</p>	<p>三郷に関する資料や博物館活動の歴史的価値に関する資料の劣化を防ぎ、活用できるように、収蔵資料及び地域の文化財等の保存・保全に注力します(資料の保全)</p>	<p>外部評価</p> <p>・目標を達成したことで4とした。</p> <p>・研究促進の館内発表である学芸ゼミの開催数(アウトブック)は目標値12件に対して実績12件と目標を達成するとともに、ミュージアムパートナーやボランティアに公開できた。</p> <p>・目標を大きく上回る参加者を得ることができたことから、4とした。</p> <p>・参加者に年齢や地域による偏りが見受けられるので、広報を自らの地域に届ける工夫が求められる。</p>	<p>職術</p> <p>学芸ゼミによる研究活動を進めるために、定期的な発表機会を設けます</p> <p>多様な主体が研究に参画するために、参加型調査を行います</p>	<p>4</p>	<p>アウトブック(結果)</p> <p>学芸ゼミによる発表件数 目標値:12件 実績値:12件</p> <p>調査への参加者数 目標値:60人 実績値:103人</p>	<p>内部評価</p> <p>・目標を達成したことで4とした。</p> <p>・研究促進の館内発表である学芸ゼミの開催数(アウトブック)は目標値12件に対して実績12件と目標を達成するとともに、ミュージアムパートナーやボランティアに公開できた。</p> <p>・目標を大きく上回る参加者を得ることができたことから、4とした。</p> <p>・参加者に年齢や地域による偏りが見受けられるので、広報を自らの地域に届ける工夫が求められる。</p>	<p>外部評価</p> <p>・目標を達成したことで4とした。</p> <p>・研究促進の館内発表である学芸ゼミの開催数(アウトブック)は目標値12件に対して実績12件と目標を達成するとともに、ミュージアムパートナーやボランティアに公開できた。</p> <p>・目標を大きく上回る参加者を得ることができたことから、4とした。</p> <p>・参加者に年齢や地域による偏りが見受けられるので、広報を自らの地域に届ける工夫が求められる。</p>				
<p>三郷に関する資料や博物館活動の歴史的価値に関する資料の劣化を防ぎ、活用できるように、収蔵資料及び地域の文化財等の保存・保全に注力します(資料の保全)</p>	<p>6</p>	<p>三郷に関する資料や博物館活動の歴史的価値に関する資料の劣化を防ぎ、活用できるように、収蔵資料及び地域の文化財等の保存・保全に注力します(資料の保全)</p>	<p>外部評価</p> <p>・目標を達成したことで3とした。</p> <p>・資料データベースの構築は、資料データベースの構築となるデータの登録も、昨年度の57件から1,215件と大幅に増加したことは、今後の活用に向けて評価できる。</p>	<p>職術</p> <p>資料の活用を促進するために、収蔵資料データベースの充実を図ります。</p>	<p>3</p>	<p>アウトブック(結果)</p> <p>資料データベースの構築回数 目標値:5,000回 実績値:5,333回</p>	<p>内部評価</p> <p>・目標を達成したことで3とした。</p> <p>・資料データベースの構築は、資料データベースの構築となるデータの登録も、昨年度の57件から1,215件と大幅に増加したことは、今後の活用に向けて評価できる。</p>	<p>外部評価</p> <p>・目標を達成したことで3とした。</p> <p>・資料データベースの構築は、資料データベースの構築となるデータの登録も、昨年度の57件から1,215件と大幅に増加したことは、今後の活用に向けて評価できる。</p>				

三重県総合博物館 年報 通巻6号（令和元年度）

Mie Prefectural Museum Annual Report No.6

令和3年2月 発行

編集・発行 三重県総合博物館（MieMu）

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 3060

電話 059 - 228 - 2283

FAX 059 - 229 - 8310

印刷 株式会社アイブレーション